

2013 平成25年 教室年報



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2013

巖刀会(外科学講座同門会)



外科学講座の沿革

当外科学講座の歴史は古く、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校の創立1年後の昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡ります。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹が教授となり、昭和19年には瀬田孝一が教授に就任しました。昭和24年に医科大学に昇格し、昭和31年第二外科の開講に伴い外科学第一講座となった後も、瀬田は在任35年にわたり当教室の基礎を築き、現在まで続く大いなる発展をもたらしました。昭和54年の瀬田の退職後には、東北大学第2外科助教授の森昌造が教授に赴任し、疾患別のグループ体制を確立することで、研究活動の躍進がみられるようになりました。昭和61年に森が東北大学第2外科教授へ転任するにあたり、昭和62年6月に斎藤和が外科・内科では初の母校出身の教授に昇任しました。本学の良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承し、内視鏡手術の積極的な導入など外科学の更なる進歩に貢献しました。平成17年に斎藤の退職後、同年9月に慶應義塾大学外科学専任講師の若林剛が教授として就任しました。患者中心の最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を充実させつつ、内視鏡外科治療の指導的施設としての発展、北東北での肝移植の実現に着手してきました。平成18年には小児外科と合併し、外科学講座と名称を変更しました。平成19年1月に第1例目の生体肝移植を成功させ、平成24年12月までに40例の肝移植を順調に実施しています。さらに、平成23年には脳死肝移植施設に認定されました。教室の掲げる「患者中心の医療」を実践するため、教室員一同精進して診療しています。



外科学講座の 広報活動

当科では我々が行っている最新医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方々にご理解を頂くために、ホームページの充実を図っております。先進医療の内容をトピックスとしてアピールするとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもお分かり頂くことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内やイベント終了後のレポートも随時掲載しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報 (2013年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

Surgeons as Leaders:

From Operating Room to Boardroom …… 外科学講座教授 若林 剛
この1年を振り返って 2013 …… 外科学講座准教授 水野 大
教室の今年1年 …… 外科学講座准教授 佐々木 章
医局勤務とは …… 外科学講座講師 医局長 肥田 圭介

009 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

012 グループ紹介

上部消化管グループ《食道》・上部消化管グループ《胃》・乳腺グループ・内視鏡外科グループ・肝胆膵グループ・下部消化管グループ・リサーチグループ《分子治療研究室》・小児外科グループ・高度救命救急センター・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

025 平成24年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／日本消化器外科学会専門医制度認定施設

027 卒後臨床研修プログラム

岩手医科大学医学部 外科学講座 卒後臨床研修プログラム……卒後研修担当 水野 大

029 新教室員紹介

安藤 太郎／齋藤 匠

031 受賞

高原 武志／西塚 哲

032 寄稿

板橋 哲也／高橋 正浩／佐々木 章
留学先から……千葉 丈広／小林 めぐみ／大淵 徹／
石橋 正久
岩手医科大学での研修を終えて……遠藤 久仁／砂川 宏樹／川原 敏靖

041 平成24年アルバム紹介

049 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・盛岡友愛病院・盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・北上済生会病院・岩手県立大船渡病院・岩手県立江刺病院・岩手県立千厩病院・八戸赤十字病院・山本組合総合病院・函館五稜郭病院・かづの厚生病院

061 外科紹介医療機関

065 研究業績

085 編集後記

086 協賛広告

Surgeons as Leaders: From Operating Room to Boardroom



巻頭言

岩手医科大学医学部外科学講座
教授

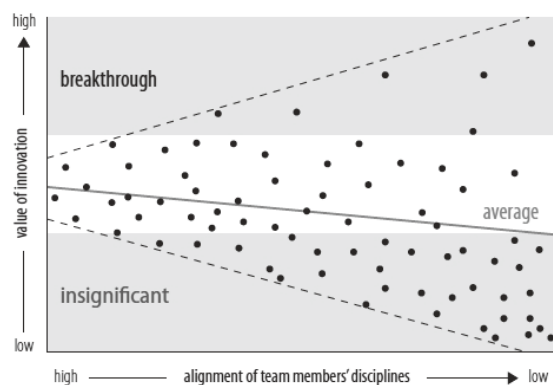
若林 剛

*Go Wakabayashi, M.D., Ph.D., F.A.C.S.
Professor and Chairman*

ゴールデンウィークの休みを利用して、米国外科学会（ACS）主催のリーダーシップ啓発セミナーに参加して来ました。上記のようなタイトルでシカゴのACS本部に3日半にわたり、自らすすんで缶詰状態となって参りました。私以外はすべて米国在住の外科医で、約60名の参加者でした。目的は2つありました。盛岡で教室を預かり8年経過して残り9年間という折り返し地点で、今ひとつ自分を奮い立たせ新しいチャレンジをしたかったこと。そして、来年の秋に私が議長として主催する「第2回腹腔鏡下肝切除術 国際コンセンサス会議」での英語によるコミュニケーション能力を高めたかったからです。非常に大きな収穫を得ました。セミナーの内容に触発され、教室を預かるものとして再び新鮮な気持ちにさせられました。

リーダーシップとは何か？

3日半のセミナーで得た私の答えは「やりたいことを成就するためにチームを機能させる力」でないかとの考えに至りました。今年のACS会長であるCarlos Pellegrini（以下、敬称略）がコースディレクターで、Layton Rikkersがリーダーシップ総論、John Kenagyがadaptive design、Bruce Gewertzが外科医のリーダーシップとチームワーク、Julie Freischlagが女性外科医のキャリア、L.D.Brittが米国ヘルスケアシステムと



図：チームメンバーの多様性が
breakthroughを生む

Harvard Business Review ·
September 2004, page 2

<http://harvardbusinessonline.hbsp.harvard.edu/relay.jhtml?name=itemdetail&referral=4320&id=F0409C>



外科医の役割について講演をし、X世代とのつき合い方、難しい人々の仲介、バーンアウトする外科医、新任地での行動、チェアマンの責務と大学・病院での役割、などの小グループ討議も多数あり、とても濃密なセミナーでした。これらのfacultyは皆ACSの重鎮であり、参加者の多くは大学教授や一般病院の外科部長、さらには病院長や医学部長などの要職につかれている方もいらっしゃいました。効果的なリーダーシップを発揮するためには、人を引きつけるビジョンを示し、信頼を得ること、創造的であること、そして楽天的であることが必要で、有能なリーダーはER (emotional intelligence quotient) が高く、コミュニケーション能力にすぐれ、コンセンサスをうまく形成することができ、チームワークを育み、他人の才能を引き出すことに秀でていると学びました。そして、外科医は本来リーダーシップを持っていて、手術室でも会議室でも優れた能力を発揮出来る素質があると励まされました。啓発セミナーだけのことはあり、講義も小グループ討議も実践的かつ刺激的で私にとって非常に有意義な3日半でした。

印象に残った話が2つありました。ひとつはdemocratic leadershipと言う新しい概念です。これは、軍隊のようにチームメンバーが同じ方向を向いているとそれなりの成果が生まれるが、チームメンバーの向く方向が多様だとチームがうまく機能しなくなる危険性もあるが画期的な革新を生む可能性を秘めているという考え方で、トップダウンではなく個々の自主性を重んじたチームの機能のさせ方です (図)。教室もそれぞれの領域毎にチーフがいて、それぞれのリーダーシップを発揮してくれています。あとは私が前述した効果的なリーダーシップ (democratic leadership) を発揮すれば、教室は大きなbreakthroughを生むはずです。もう一つは、手術の質をあげることが医療費の削減につながり、米国の各州でACSが主体となったプログラムが走っているという話でした。Carlos Pellegriniがワシントン州での試みであるSCOAP (Surgical Care and Outcome Assessment Program) を紹介し、地域の外科医のリーダーシップがこのプログラムを生み非常に良い結果をもたらしていると話されました。わが国でも同じような動きがあるようですが、近い将来にNCDデータを利用して外科手術の質向上を目指したプログラムが良い形で始まり大きな成果を生むことを期待しております。

3日半にわたる英語漬けの生活により、大いに英語コミュニケーション能力を高めることが出来ました。来年の第2回国際コンセンサス会議では、是非ともこのセミナーで学んだリーダーシップを発揮して、腹腔鏡下肝切除の手術の質向上を目指したコンセンサスが形成出来ればと願っています。

この1年を振り返って 2013



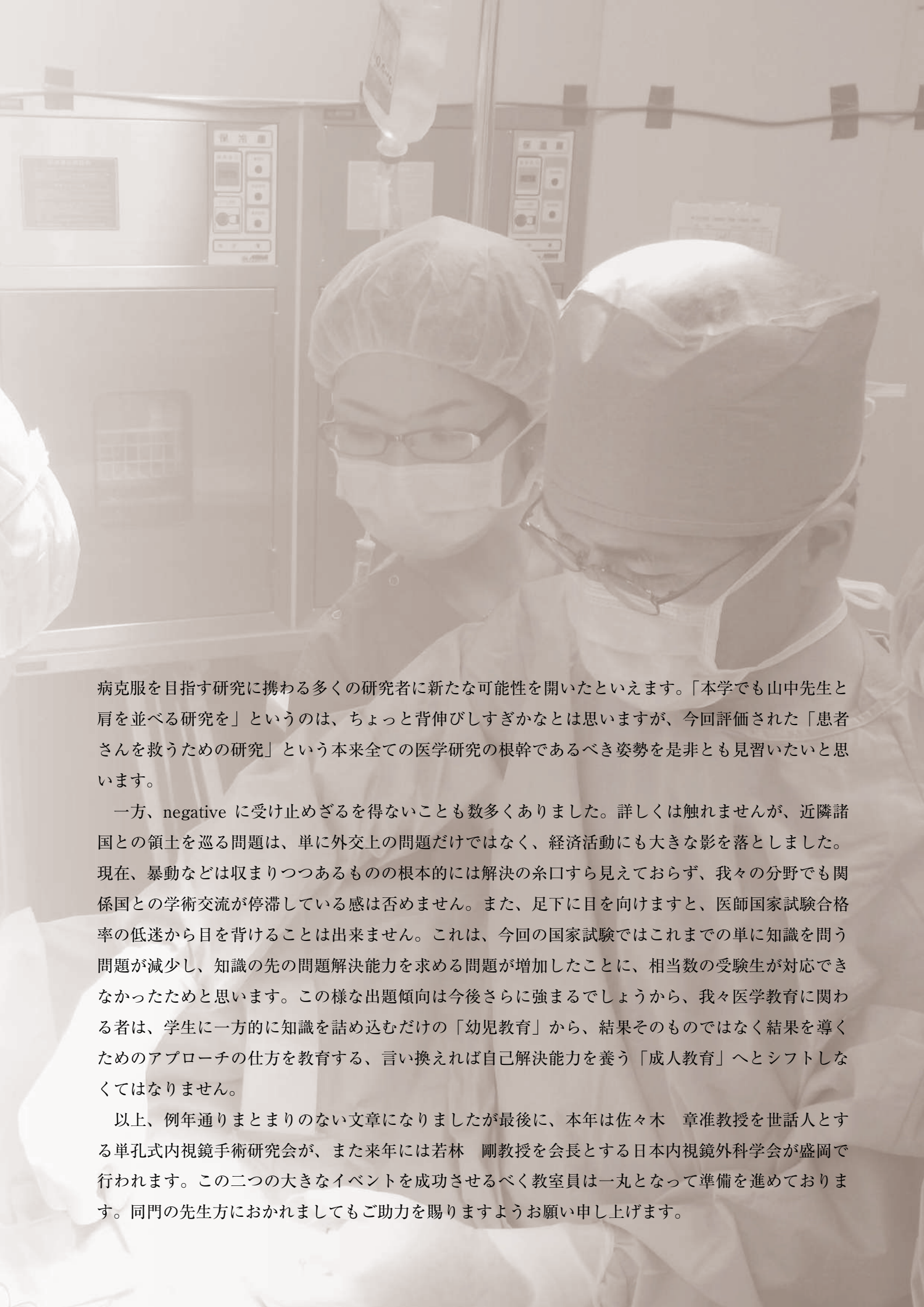
岩手医科大学外科学講座
准教授

水野 大

Masaru Mizuno, M.D., Ph.D.
Associate Professor

2011年3月11日の大震災があまりにもインパクトが強かったこともあり、2012年といわれてもとっさにピンとこなかったのは私だけでしょうか。震災から一年以上経過し、がれきの撤去はそれなりに進み、被災地の多くは一見整理された新興住宅分譲地の様相を呈するようになりました。一部の地域では箱モノも散見され、ハード面ではそれなりに進捗を感じることができます。一方、ソフト面ではどうでしょうか。移転計画などは土地所有者の問題をはじめ、いろいろな法的手続きが壁になったり、意見の集約が難航したりで遅々として進まない地域が少なくありません。また、被災地に視点を置いた予算が多数配分され、私の関連する領域でも「東北の子どもの…」的な事業に予算が施されましたが、いざ終わってみると「被災地の小児医療のためになった」とえるような結果はほとんど出せず、あくまでも個人的な感想ですが、本来被災地に落とされるべき予算の多くが、結局は首都圏の企業を潤しただけという印象が否めません。さて、師走の総選挙では自民党が大勝し、盛岡においては未だ全く実感できませんが、その経済政策は国内外から評価され円安株高が進み、日本経済も一見、再生に向かっていくかのように見えます。新政権には是非、今後の復興事業に関しても、パフォーマンスだけに終わらない、被災者の目線に立った被災地にとって実効性のある息の長い事業を展開してもらいたいものです。

さて、震災から目を離しますと、positive に受け止められる話題として、5月の東京スカイツリー開業、7月のロンドン五輪などがありました。我々医療に関わる者として最もインパクトが強いことはやはり10月の山中伸弥教授のノーベル医学賞・生物学賞の受賞でしょう。山中先生の研究成果は創薬や再生医療、難



病克服を目指す研究に携わる多くの研究者に新たな可能性を開いたといえます。「本学でも山中先生と肩を並べる研究を」というのは、ちょっと背伸びしすぎかなとは思いますが、今回評価された「患者さんを救うための研究」という本来全ての医学研究の根幹であるべき姿勢を是非とも見習いたいと思います。

一方、negative に受け止めざるを得ないことも数多くありました。詳しくは触れませんが、近隣諸国との領土を巡る問題は、単に外交上の問題だけではなく、経済活動にも大きな影を落としました。現在、暴動などは収まりつつあるものの根本的には解決の糸口すら見えておらず、我々の分野でも関係国との学术交流が停滞している感は否めません。また、足下に目を向けますと、医師国家試験合格率の低迷から目を背けることは出来ません。これは、今回の国家試験ではこれまでの単に知識を問う問題が減少し、知識の先の問題解決能力を求める問題が増加したことに、相当数の受験生が対応できなかったためだと思います。この様な出題傾向は今後さらに強まるでしょうから、我々医学教育に関わる者は、学生に一方的に知識を詰め込むだけの「幼児教育」から、結果そのものではなく結果を導くためのアプローチの仕方を教育する、言い換えれば自己解決能力を養う「成人教育」へとシフトしなくてはなりません。

以上、例年通りまとまりのない文章になりましたが最後に、本年は佐々木 章准教授を世話人とする単孔式内視鏡手術研究会が、また来年には若林 剛教授を会長とする日本内視鏡外科学会が盛岡で行われます。この二つの大きなイベントを成功させるべく教室員は一丸となって準備を進めております。同門の先生方におかれましてはご助力を賜りますようお願い申し上げます。

教室の今年1年



岩手医科大学外科学講座
准教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Associate Professor

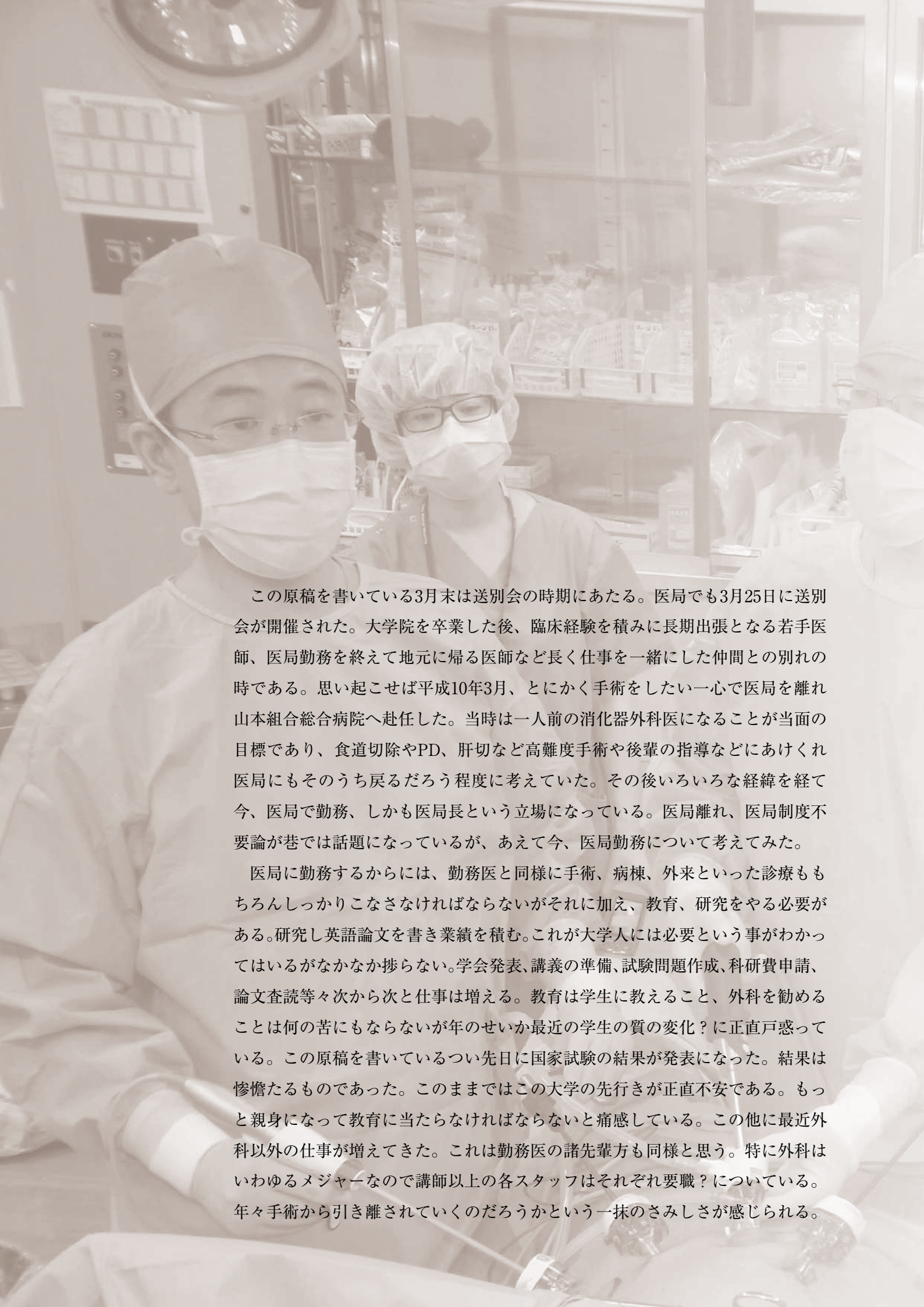
大学院指導と研究業績評価について教室の今年1年を振り返ります。2年前から大学院の履修プロセス支援・管理体制が大幅に変更となりました。また、平成24年度からは、論文投稿の証明書を付けて投稿審査中論文受理願いを3月1日までに提出すると1年間の学位審査の延長が認められ、学位記授与が翌年3月にできるという新たなシステムが始まりました。この制度は、“良いシステム”であり、英文論文数が増加すると多くの先生が賛成していますが、私は、“良くないシステム”と考えています。その理由は、学位論文と将来研究とは異なり、短期間での論文作成にはqualityに限界があること、また、外科医として必須である日本外科学会専門医取得が遅れ、大学院生のキャリアパスに支障をきたすからです。事実、平成24年度に卒業予定であった当科の大学院生8名の75%はこのシステムを利用してしまい、1年延長となってしまいました。新年の関連病院懇話会でも大学院生指導について話しましたが、論文指導者は、期日までに英文論文がacceptされるようなプランをお願いいたします。

岩手医科大学の研究評価部会では、研究業績を評価して各講座に対する研究費配分を3ランクに分けています（ランクA, B, C）。教室に対する平成24年度研究評価基準では、1) JCR掲載雑誌および岩手医誌に掲載された論文17編（教員24名×1未満なので、評価は0点）、



2) 評価論文のimpact factor値合計40.12（教員24名×1以上なので、評価は5点）、3) 筆頭演者学会発表243回（教員24名×2以上なので、評価は2点）であり、その結果、不本意なランクBとなってしまいました。毎年12月の最終週に行われる教室の忘年会では想像を絶する余興が行われますが、このグループだけには負けたくないというプライドの戦いでもあります。各講座に対する研究評価による講座配分金は決して大きな額ではありませんが、まさに忘年会の余興と同じ気持ちがあります。教室員全員が自我に目覚め、臨床・教育・研究、そして遊びにも全力を尽くす姿勢を持つことを願いたいと思います。

AKIRA
SASAKI



この原稿を書いている3月末は送別会の時期にあたる。医局でも3月25日に送別会が開催された。大学院を卒業した後、臨床経験を積みに長期出張となる若手医師、医局勤務を終えて地元に戻る医師など長く仕事を一緒にした仲間との別れの時である。思い起こせば平成10年3月、とにかく手術をしたい一心で医局を離れ山本組合総合病院へ赴任した。当時は一人前の消化器外科医になることが当面の目標であり、食道切除やPD、肝切など高難度手術や後輩の指導などにあけくれ医局にもそのうち戻るだろう程度に考えていた。その後いろいろな経緯を経て今、医局で勤務、しかも医局長という立場になっている。医局離れ、医局制度不要論が巷では話題になっているが、あえて今、医局勤務について考えてみた。

医局に勤務するからには、勤務医と同様に手術、病棟、外来といった診療もちろんしっかりこなさなければならないがそれに加え、教育、研究をやる必要がある。研究し英語論文を書き業績を積む。これが大学人には必要という事がわかってはいるがなかなか捗らない。学会発表、講義の準備、試験問題作成、科研費申請、論文査読等々次から次と仕事は増える。教育は学生に教えること、外科を勧めることは何の苦にもならないが年のせい最近の学生の質の変化？に正直戸惑っている。この原稿を書いているつい先日国家試験の結果が発表になった。結果は惨憺たるものであった。このままではこの大学の先行きが正直不安である。もっと親身になって教育に当たらなければならないと痛感している。この他に最近外科以外の仕事が増えてきた。これは勤務医の諸先輩方も同様と思う。特に外科はいわゆるメジャーなので講師以上の各スタッフはそれぞれ要職？についている。年々手術から引き離されていくのだろうかという一抹のさみしさが感じられる。

医局勤務とは

岩手医科大学外科学講座講師
医局長

肥田 圭介

Keisuke Koeda, M.D., Ph.D.
Assistant Professor



しかし医局長の立場で医局勤務はここがいい！というところをアピールしなければならない。まず一つ目はいろいろな新しい情報（新薬、臨床試験、新しい手術器械など）が入ってくる事である。他に先駆けて新しい治療に取り組めることは新しい物好きの自分にとって非常に魅力がある。これは医局にいると専門性（自分は胃癌について）を高くして治療にあたっていることが理由であろう。また専門分野で頑張っていると、同じ領域の仲間がどんどん増えてくる。学会にも当然多く参加するようになった。もちろん勤務医中も学会参加は可能であったが、その機会は格段に増えた。昔は学会参加と言えば知らない土地への旅行の要素が強かったが、最近は学会に参加、発表し討論する時間も増えた。また夜は夜で医局を超えた同分野や同年代の先生との交流の機会も増えてきた。同じ年代の先生が同じような状況で頑張っている話を聞くとお互いに良い刺激となり負けずに頑張ろうと思う。国際学会への参加もモチベーションを上げる一つの要素となる。英語の壁はいまだ越えられないが、最近韓国、中国などへ行く機会があり、発音や文法よりもとにかく話すことが大切だという事がわかったような気がする。でもそんなことができるようになったのは現在の立場になってからかもしれない。先日胃癌学会に医局から大学院生が多く参加してくれた。もちろん慣れていないこともあり準備も大変で、発表前には緊張もしていたが発表を無事終えた晩の食事会では皆充実感が漂っていた。今更ながら新鮮であり懐かしく思えた。若手医師が岩手医大外科から情報発信する魅力を感じてくれたら医局の本当の良さがもっと感じられるのではないだろうか。もう少し頑張ってみようかな。



助教
遠藤 史隆
〔平成18年卒〕

助教
野田 宏伸
〔平成16年卒〕

助教
木村 聡元
〔平成14年卒〕

秘書
伊藤 安理加

非常勤講師
杉立 彰夫

秘書
館藤 美智子

助教
秋山 有史
〔平成11年卒〕

助教
大淵 徹
〔平成14年卒〕

ポスドクター
久米 浩平

助教
塩井 義裕
〔平成13年卒〕

助教
岩谷 岳
〔平成7年卒〕

助教
藤原 久貴
〔平成10年卒〕

講師
木村 祐輔
〔平成6年卒〕

助教
長谷川 康
〔平成14年卒〕

助教
鴻巣 正史
〔平成13年卒〕

助教
片桐 弘勝
〔平成16年卒〕

講師
新田 浩幸
〔平成5年卒〕

助教
千葉 丈広
〔平成15年卒〕

准教授
佐々木 章
〔昭和63年卒〕

助教
板橋 英教
〔平成15年卒〕



大学院生
渡邊 陽太郎
〔平成21年卒〕

助教
菅野 将史
〔平成16年卒〕

大学院生
梅邑 晃
〔平成17年卒〕

助教
高原 武志
〔平成12年卒〕

助教
石橋 正久
〔平成20年卒〕

助教
箱崎 将規
〔平成15年卒〕

専門研修医
佐々木 秀策
〔平成22年卒〕

助教
松尾 鉄平
〔平成17年卒〕

大学院生
佐藤 慧
〔平成21年卒〕

助教
小松 英明
〔平成16年卒〕

助教
小林 めぐみ
〔平成19年卒〕

大学院生
石田 馨
〔平成18年卒〕

秘書
下町 惟子

外科学講座教授
若林 剛
〔昭和57年卒〕

准教授
水野 大
〔昭和62年卒〕

講師
肥田 圭介
〔平成元年卒〕

講師
柏葉 匡寛
〔平成3年卒〕

講師
大塚 幸喜
〔平成5年卒〕

講師
西塚 哲
〔平成6年卒〕

秘書
佐藤 准子

大学院生
中村 聖華
〔平成21年卒〕

助教
有末 篤弘
〔平成18年卒〕

術前術後カンファランス風景



毎週月・金AM8時から厳しいカンファ



ときには、笑顔も

病棟回診風景



どうして切除しないの！



いつも優しい千葉師長

外来風景



いつもとても忙しい外来です



いつも頼もしい三浦主任と鈴木看護師

グループ紹介

上部消化管グループ《食道》

上部消化管グループ《胃》

乳腺グループ

内視鏡外科グループ

肝胆膵グループ

下部消化管グループ

リサーチグループ《分子治療研究室》

小児外科グループ

高度救命救急センター

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科



医局秘書

上部消化管グループ《食道》

STAFF：木村祐輔・岩谷 岳・秋山有史・鴻巣正史

専門外来

火曜
8時30分-17時



・食道癌の治療を担当しています。毎週火曜日の「食道専門外来」では、主に治療後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行います。外来診療は通常のフォローアップとともに、外来化学療法室、治療放射線科と連携し、外来放射線/化学療法を積極的に導入しています。入院においては、手術治療を中心に早期癌から高度進行癌まで、当科が中心となり消化器・肝臓内科や放射線科と連携し治療にあたっており、特に手術不能の高度進行癌に対しては化学・放射線療法を組み合わせた治療を積極的に行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。

食道癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたします。是非お気軽にご連絡下さい。

連絡先 木村祐輔 E-mail: ykimura@iwate-med.ac.jp

平成24年のニュース

- 4月 ▶ 岩谷 岳講師が、九州大学における国内留学から帰局しました。食道グループのみならず、外科医局の中核としての活躍を期待しています。

平成24年 診療・研究状況報告

- 手術数：29例（胸腔鏡下食道切除術（腹臥位）：23例）
- 食道癌手術年次推移 全切除数（うち胸腔鏡下手術）
2007年 28(7)例、2008年 28(17)例、2009年 32(20)例、
2010年 26(12)例、2011年 25(11)例、2012年 29(23)件

● 平成24年研究報告

【教室内】

- ・「次世代シーケンサーを用いた食道扁平上皮癌における網羅的遺伝子変異解析」論文作成中（九州大学別府病院外科と共同研究）
- ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」解析中
- ・「食道癌・胃癌におけるhistone mRNAを制御するmicroRNAに関する検討」論文投稿中
- ・「消化器癌の予後に関わるlong intergenic noncoding RNA (lincRNA) の解析」解析中
- ・「食道癌および胃癌間質におけるゲノムワイドメチル化解析」解析中
- ・「分子標的治療薬ZD1839を用いた老化誘導療法による食道癌治療戦略の開発」文部科学省科学研究費 基盤研究C

- ・「核内 γ H2AX発現に基づく食道癌化学放射線療法の新たな感受性予測」文部科学省科学研究費 基盤研究C
- ・「胸部食道癌術後感染性合併症と血糖値に関する研究」
- ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」
- ・「食道癌切除術後、アミノ酸付加末梢静脈栄養補助療法の検討」

【全国規模】

- ・JCOG0502「臨床病期Ⅰ（Clinical-T1N0M0）食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法（CDDP+5-FU）のランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JCOG0909「臨床病期Ⅱ/Ⅲ（T4を除く）食道癌に対する根治的放射線療法 +/- 救済治療の第Ⅱ相試験」症例登録中。
- ・JCOG0807「切除不能または再発食道癌に対するDocetaxel, Cisplatin, 5-FU 併用療法の臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験」症例登録中。

● 今後の研究課題

- ・根治的放射線化学療法後のSalvage surgeryの積極的な実施。
- ・腹臥位胸腔鏡下食道切除術の手術件数を増加させる。

上部消化管グループ《胃》

STAFF：肥田圭介・藤原久貴・千葉文広

専門外来

木曜
8時30分～16時



昨年は肥田、藤原の2名の固定スタッフと主に大学院生のローテートにて診療を行いました。症例数の推移では、一昨年に過去最高の症例数を記録しこのまま増加するのでは？と期待しておりましたが震災の影響も薄れ例年通り（若干少なめ）の症例数となりました。ご紹介いただいた諸先生方に感謝申し上げます。診療内容としては昨年目標として掲げた①腹腔鏡下手術の適応拡大（進行がんへの応用、完全鏡視下手術の導入）②術前術後化学療法による高度進行胃がんに対する集学的治療に関しては粛々と進行しています。今年度は癌研から千葉先生が2年間の研修を終えて帰局するので、パワーアップに伴い腹腔鏡下胃切除の強化、普及に益々重点を置いていきたいと考えています。

またJCOG、がん集学的治療財団をはじめとする多施設共同研究に積極的に登録参加し胃がんの標準治療の確立にも貢献していきたいと思います。日本発のevidence確立に向け一層のご協力、ご紹介をお待ちしております。

平成24年のニュース

- 3月 ▶ 日韓腹腔鏡下胃切除セミナーに参加（肥田）
- 4月 ▶ 藤原先生、技術認定医（胃）合格

平成24年 診療・研究状況報告

●手術数：96例

《内訳》

胃癌 開腹切除 44例 腹腔鏡下切除 37例

その他（非切除バイパス、GIST等） 15例

●平成24年研究報告

- ・ JCOG 0110「上部進行胃癌に対する胃全摘術における脾合併切除の意義に関するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
- ・ JCOG 0501「根治切除可能な大型3型・4型胃癌に対する術前TS-1+CDDP併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・ JCOG 0705「治療切除不能進行胃癌に対する胃切除術の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・ JCOG0912「臨床病期Ⅰ期胃がんに対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録中。
- ・ JCOG1001「深達度SS/SEの切除可能胃癌に対する網膜切除の意義に関するランダム化比較第三相試験」症例登録中。
- ・ JCOG1002「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel+CDDP+S-1の第Ⅱ相試験」症例登録中。
- ・ JCOG1013「切除不能進行・再発胃癌を対象としたS-1/シスプラチン併用（CS）療法とドセタキセル/シスプラチン/S-1併用療法（DCS）療法のランダム化比較試験」症例登録中。
- ・ JCOG1104「病理学的StageⅡ胃癌に対するS-1術後補助化学療法の期間短縮の意義を検討するランダム化比較試験」症例登録中。
- ・ JFMC42-1002「胃全摘術施行後の消化管機能異常に対する大建中湯の臨床効果（プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験）症例登録終了、解析中。
- ・ JFMC43-1003「切除不能進行・再発胃癌症例に対するTS-1の連日投与法および隔日投与法のランダム化第Ⅱ相試験」症例登録終了、解析中。
- ・ JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化Ⅱ/Ⅲ相比較試験」症例登録中。
- ・ HERBIS-1「HER2陽性・測定可能病変を有する進行再発胃癌に対するTS-1+CDDP+Trastuzumab3週間サイクル併用療法第Ⅱ相試験」症例登録終了、解析中。
- ・ STAR ReGISTry「ハイリスク消化管間質腫瘍（GIST）に対する完全切除後の治療に関する研究」症例登録中。
- ・ 大型胃GISTに対する術前イマチニブ療法の第Ⅱ相試験 症例登録中。

●今後の研究課題

- ・ 進行胃癌術前化学療法（TS-1/CDDP）療法後切除検体を用いた薬物動態の解析
- ・ 腹腔鏡下胃癌手術の推進、技術認定医育成など
- ・ 癌性腹水に対する抗癌剤感受性試験を指標とした化学療法

乳腺グループ

STAFF：柏葉匡寛・稲葉 亨・小松英明・石田和茂
川岸涼子・松井雄介

専門外来

火・水曜日
8時30分～17時
(紹介新患13時～)

第10回 日本乳癌学会 東北地方

The 10th Tohoku Regional Meeting of the Japanese Breast Cancer Society



乳腺診療チーム（専門医・認定医・取得過程医師、薬剤師、乳がん看護認定看護師含む看護師）での診療を基本としています。整容性の高い温存術、術前薬物療法、センチネルリンパ節生検、同時・2期再建とクオリティの高い治療の実践はもとより、看護師、薬剤師によるきめ細やかな患者サポートにより高度化された乳癌治療を分かり易く患者さんに理解して頂き、満足度も高い治療環境の実践をモットーとしています。県内外からのセカンドオピニオン、薬物療法の相談、再発治療からの紹介も承っています。先進的な医師主導型試験、国際第Ⅲ相試験でも東北で最大級の登録をしており、そのビジョンを通じて次世代の乳腺外科医の育成を推進しています。

平成24年のニュース

- 1月 ▶ 川岸涼子先生が診療グループに参入
▶ International Breast Cancer Congress@Nice招聘（柏葉）
- 2月 ▶ 岩手乳腺疾患研究会
- 3月 ▶ 第9回日本乳癌学会東北地方会@仙台にて3演題発表
- 4月 ▶ 第27回韓国乳癌学会@済州島招待講演（柏葉）
- 5月 ▶ 小松先生 結婚式
- 6月 ▶ ASCO@Chicago参加（柏葉）
▶ 乳癌学会総会で全員が発表（柏葉、稲葉、小松、川岸、松井）
- 9月 ▶ プレストケアセミナー講演（柏葉）
- 10月 ▶ 稲葉先生鹿角組合病院へ出向・石田和茂先生が診療グループに参入
▶ 第1回Advanced Breast Cancer -Japan参加（柏葉、小松、石田）
▶ 第4回岩手ピンクリボンウォーク、講演会参加
▶ 第50回日本癌治療学会総会発表（柏葉、小松、川岸）
- 11月 ▶ 臨床外科学会パネリスト（柏葉）
- 12月 ▶ San Antonio Breast Cancer Symposiumに参加（柏葉、石田）

平成24年 診療・研究状況報告

●手術数：166例

《内訳》

疾患	術式	症例数
乳癌	乳房部分切除	101例（温存率61%）
	うち内視鏡補助下	1例
	胸筋温存乳房切除	63例
	乳腺全摘術	2例
計		166例

《年次手術数推移》

	2010年	2011年	2012年
原発乳癌	150件	135件	166件

●平成24年研究報告

《臨床研究》

- ・乳癌原発および生検組織でのKi67-LIの変化と臨床的有用性の検討
- ・原発巣における乳がん幹細胞の予後予測因子、薬剤感受性に関する検討
- ・乳癌の転移と薬剤感受性におけるEMTの関与の検討
- ・Triple negative 乳癌の臨床的サブタイプの検討

《医師主導研究》

- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)-04「術前化学療法、原発巣手術施行後、病理学的に腫瘍が残

- 存している乳がん患者を対象にした術後補助療法におけるCapecitabine単独療法の検討」第Ⅲ相比較試験
- ・手術可能なHER2陽性乳がんに対するTrastuzumab+ Cyclophosphamide+ Docetaxelを含む術前化学療法のランダム化第Ⅱ相比較試験 (JBCRG-10)
 - ・OOTR-N003 (Organisation for Oncology and Translational Research) 「手術可能な女性乳がんに対する術前化学療法としての5-フルオロウラシル + エピルビシン + シクロホスファミド (FEC) 療法に連続するドセタキセル (T) 療法 と ドセタキセル + カペシタビン (TX) 療法のランダム化 比較試験」
 - ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「転移・再発乳がんに対するアンスラサイクリン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験 (SELECT BC-CONFIRM)」
 - ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験 (NSAS-BC06)」
 - ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法における化学療法とトラスツズマブ併用に関するランダム化比較試験(NSAS-BC07)」《開発治験》
 - ・前治療なしのHER2陽性転移性乳癌患者におけるPertuzumab +Trastuzumab + DocetaxelとPlacebo + Trastuzumab + Docetaxelの有効性及び安全性を評価する国際第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照比較試験 (CLEOPATRA試験)
 - ・ErbB-2陽性局所再発性又は転移性乳癌患者を対象としたNeratinib (HKI-272) とパクリタキセルの併用投与及びトラスツズマブとパクリタキセルの併用投与を第一選択療法として比較する国際第Ⅲ相無作為化非盲検2群対照試験
 - ・KRN125第Ⅱ相臨床試験 (乳癌の癌化学療法による好中球減少症に対するKRN125の用量設定試験)
 - ・KRN125第Ⅲ相臨床試験 (乳癌の癌化学療法による好中球減少症に対するKRN125のプラセボ対照二重盲検比較試験)
 - ・「転移・再発乳癌患者を対象としたRO4876646 (Avastin) とパクリタキセルの併用第Ⅱ相試験」
 - ・転移性乳癌患者を対象としたABI-007 (アブラキサン) 毎週投与とドセタキセル3週ごと投与法との比較第Ⅱ相試験
 - ・「RO5304020 (T-DM1) によるHER2陽性の局所進行・再発又は転移性乳癌患者を対象とした第Ⅱ相臨床試験」
 - ・「HER2陽性の進行性／再発性の局所進行乳癌又は転移性乳癌 (MBC) の一次治療としてのT-DM1とペルツズマブの併用又はT-DM1とペルツズマブのプラセボ (ペルツズマブに対し盲検) の併用の有効性及び安全性をトラスツズマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際多施設共同第Ⅲ相ランダム化3群比較試験」 (MARIANNE試験)
 - ・「手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後療法としての化学療法+トラスツズマブ+プラセボと化学療法+トラスツズマブ+ペルツズマブのランダム化, 多施設共同, 二重盲検, プラセボ対照での比較試験第Ⅲ相, ランダム化, 多施設共同, 二重盲検, プラセボ対照試験 (APHINITY試験, BIG4-11/BO25126/TOC4939g)」
- 今後の研究課題
- ・Triple-negative (ER/PgR/HER2陰性) 乳癌のサブタイピングの臨床的意味の検証
 - ・薬剤感受性と転移における乳癌幹細胞の機能の検証
 - ・EMTと薬剤感受性の関連性の検討
 - ・看護師による術後化学療法決定の支援、治療中の生活支援研究の指導・支援
 - ・薬剤師による術後化学療法における嘔気・嘔吐、末梢神経障害の支持療法開発の指導・支援
 - ・癌化学療法専門薬剤師、乳がん看護認定看護師の育成補助
 - ・チーム医療の有用性の科学的評価

内視鏡外科グループ

STAFF：佐々木 章・大淵 徹・馬場誠朗・梅邑 晃

専門外来

水曜
8時30分-12時



臨床ではsingle-port surgery、reduced port surgeryの適応拡大、研究では高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術に関する研究が中心となりました。手術件数は2011年とほぼ同じですが、advanced laparoscopic surgeryが増加しています。

平成24年のニュース

- 6月 ▶日本肥満症治療学会で5題のシンポジウム指定を受ける（佐々木章）
- 8月 ▶Reduced Port Surgery Forum 2013の盛岡開催が決定（佐々木章） <http://rpsf.umin.jp/>をらん下さい。

平成24年 診療・研究状況報告

●手術数：内視鏡外科手術 78例（手術日の月曜日は祝日が多く、肝移植で手術枠が制限されるために、定期出張である盛岡市立病院で15例を行いました）、PEG 15例、ヘルニア手術 12件

《内訳》

疾患	術式	症例数
胆嚢良性疾患	多孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術	19
	単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術	6
甲状腺良性疾患	内視鏡下甲状腺全摘術	4
	内視鏡下甲状腺葉切除術	8
副腎疾患	単孔式腹腔鏡下副腎摘出術	8
	多孔式腹腔鏡下副腎摘出術	1
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	6
脾臓疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	4
	多孔式腹腔鏡下副腎摘出術	1
胃粘膜下腫瘍	単孔式腹腔鏡下胃局所切除術	7
急性虫垂炎	多孔式腹腔鏡下虫垂切除術	2
	単孔式腹腔鏡下虫垂切除術	2
	開腹下虫垂切除術	1
悪性リンパ腫	リンパ節生検	2
腹膜偽粘液腫	開腹下腹腔リザーバー留置	2
後腹膜腔膿瘍	ドレナージ	1
腹壁癒着ヘルニア	腹腔鏡下ヘルニア修復術	1
直腸穿孔	開腹下Hartmann手術	1
小腸穿孔	開腹下小腸切除術	1
急性腹症	診断的腹腔鏡	1
PEG	局麻	15
鼠径ヘルニア	局麻（10）、全麻（2）	12
計		78

《年次手術数推移》（主要疾患）

疾患	2010年	2011年	2012年
胆嚢良性疾患	41	36	25
甲状腺良性疾患	6	8	12
脾臓疾患	7	0	5
副腎疾患	3	6	9
高度肥満症	2	5	6
食道良性疾患	4	3	0

●平成24年研究報告

《教室内》

- ・肥満症に対する低侵襲外科治療効果と脂肪細胞由来ホルモンの動態：継続
（平成22年度科研費 基盤研究C）
 - ・MSP法とmRNAマイクロアレイ法による肥満関連遺伝子の解析：継続
（平成22年度圭陵会学術振興会 共同研究助成）
 - ・腹腔鏡下減量手術後の非アルコール性肝疾患改善の定量的評価：継続
（平成24年度科研費 若手研究B）
 - ・岩手県内医師と医療従事者を対象とした遠隔医療研究会の開催：継続
（平成24年度地域医療研究事業）
- 《全国規模》
- ・がん専門医等育成事業（厚生労働省共同事業）
www.cael.jpをらん下さい

肝胆膵グループ

STAFF：若林 剛・新田浩幸・高原武志・長谷川 康
板橋英教・菅野将史・片桐弘勝

専門外来

木曜
8時30分-12時30分
金曜
8時30分-12時30分



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡(腹腔鏡・胸腔鏡)手術、化学療法、肝移植など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。

特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、肝切除症例の約70%は腹腔鏡下手術で行っております。高度医療として承認されている腹腔鏡補助下肝切除術に関しても継続して行っており、生体肝移植のドナー手術のみならず肝門部胆管癌(血管合切)などに対しても導入するなど適応を拡大しております。一方で、完全腹腔鏡下肝切除術も積極的に行っており、手術手技の向上・定型化をすすめております。胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、手術成績を向上させるべく取り組んでおります。2011年9月に脳死肝移植施設として認定され、現在第1例目の待機中です。

新患、手術後の患者さんの診察を週に二日間設けて行っており、新患は主に木曜日午前、化学療法は主に金曜日の外来で担当しております。

平成24年のニュース

- 7月 ▶ 腹腔鏡（補助）下肝切除症例が300例に到達。

平成24年 診療・研究状況報告

●手術数：209例

●平成24年の手術症例

《疾患別》

▶悪性：肝細胞癌：34例／転移性肝癌：47例／肝内胆管癌：5例／胆管癌：36例（肝門部10例、肝外26例）胆嚢癌：4例／乳頭部癌：6例／膵癌（IPMC含む）：33例▶良性：生体肝移植ドナー、肝嚢胞、IPMNなど 48例▶その他：後腹膜腫瘍など 29例

《術式別》

生体肝移植：7例／肝切除：108例／PpPD：46例／膵体尾部切除：11例／膵全摘：7例／胆管切除：4例／胆石、胆嚢良性疾患手術：4例／後腹膜腫瘍摘出：4例／バイパス（胆管、消化管）：4例／非切除：3例／その他：11例

《年次推移》

	2010	2011	2012
肝細胞癌	28	27	34
肝内胆管癌	1	2	5
転移性肝癌	50	43	47
胆管癌	21	30	36
胆嚢癌	10	7	4
乳頭部癌	2	1	6
膵癌	15	17	33
生体肝移植	9	7	7

●平成24年研究報告

《教室内》

- ・「大腸癌肝転移に対する肝切除前化学療法後の肝予備

能評価と術後肝再生に関する研究」論文がaccept。

- ・「3D-CTによる腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の術難易度予測」症例集積中。
- ・「生体肝移植術周術期における好中球エラスターゼ阻害剤投与の検討」症例集積中。
- ・「肝切除患者における肝栄養療法の有用性に関する臨床研究」症例集積中。
- ・「肝切除手術における画像支援ナビゲーションの有用性に関する検討」症例集積中。
- ・「腹腔鏡下肝切除における循環動態の実験的検討」症例集積中。
- 《全国規模》
- ・「ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術の多施設共同試験」
- ・「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有用性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験」
- ・「ゲムシタビン耐性膵癌に対するS-1療法とS-1+オキサリプラチン（L-OHP）併用療法の無作為化比較試験」

●今後の研究課題

- ・胆道癌術後補助化学療法としてのTS-1+GEM併用第Ⅲ相試験
- ・完全腹腔鏡下肝切除術の手術手技の定型化
- ・開腹肝切除の低侵襲化を目指した手術手技の確立

下部消化管グループ

STAFF：大塚幸喜・木村聡元・箱崎将規
千葉励子・高橋咲子（WOCN；ストーマ外来）
（*4月から板橋
哲也は両館）

専門外来

月曜
8時30分-15時
*外来化学療法のみ
金曜AM



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2012年にようやく1000例を突破しました（1164例）。現在、全大腸癌手術の80%が腹腔鏡手術です。最近の特徴として、40歳代の比較的若い方の局所進行直腸癌患者さんが増えてきており、放射線科のお力を借りて放射線や化学療法による術前治療を行い、腹腔鏡手術で積極的に根治を目指しております。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っており、最期にはご家族にも納得していただける緩和を目指しております。

また、潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても患者様のQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子WOCナース2名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。

教育面に関しても、若手外科医に対しての腹腔鏡手術の指導も積極的に行っており、2012年は全国から42名の手術見学者を患者様の同意を得た上で受け入れております。

平成24年のニュース

- 3月 ▶ 第28回岩手ストーマ研究会開催。東京女子医科大学第二外科准教授の板橋道朗先生を講師に招聘し盛会に終了。
- 4月 ▶ 加藤久仁之先生から木村聡元先生に代わり新体制となる。
▶ 八戸赤十字病院の藤澤健太郎先生が内視鏡外科学会技術認定医となる。
▶ 福島県立医大第一外科から遠藤久仁先生が一年の研修で加入。
- 9月 ▶ 北東北LAC情報交換会で大阪医科大学消化器外科講師の田中慶太郎先生を講師に招聘し盛会に終了。
- 12月 ▶ 大腸癌手術数は目標の200例を突破。チーム力の賜です。

平成24年 診療・研究状況報告

●手術数（全麻）：270例

*そのうち大腸癌手術（切除）は204例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌(RS含む)(133例)	開腹	18例
	腹腔鏡	115例
直腸癌(RaRb)(71例)	開腹低位前方切除	7例
	腹腔鏡下低位前方切除	33例
	腹腔鏡下超低位前方切除	5例
	腹腔鏡下ISR	1例
	開腹マイルス手術	5例
	腹腔鏡下マイルス手術	7例
	開腹ハルトマン手術	3例
	腹腔鏡下ハルトマン手術	5例
	経肛門の腫瘍切除	5例
	人工肛門造設	7例

FAP	腹腔鏡下大腸全摘	1例
Crohn病(2例)	腹腔鏡下手術	2例
潰瘍性大腸炎(4例)	腹腔鏡下大腸全摘	4例
大腸癌再発	腫瘍切除	4例
直腸癌術後	一時的回腸人工肛門閉鎖	14例
イレウス	開腹イレウス解除	5例
	腹腔鏡下イレウス解除	6例
他(憩室炎・腹膜炎など)		17例
*他科応援手術	(婦人科・泌尿器科)	6例

《大腸癌の年次手術数推移》

	2010年	2011年	2012年
結腸癌全手術数	109	95	133
直腸癌全手術数	73	61	71
計	182	156	204
腹腔鏡下大腸癌手術	136	120	166

●平成24年研究報告

《教室内》

- ・「組織学的ステージⅢa、Ⅲb大腸癌症例に対する術後補助療法としてのUFT/LV療法とUFT/LV+PSK療法の無作為化第Ⅲ相比較臨床試験」ICOG-CC01；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：症例登録終了し追跡中（2013年3月時点）。
 - ・「結腸・直腸癌肝転移に対するベバシズマブ併用FOLFOX療法による肝切除の検討－第Ⅱ相臨床試験－」ICOG CRC ML-001；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：30例集積中（2013年3月時点）。
 - ・「大腸癌術後の消化管機能に対する大建中湯の臨床的効果（比較試験）」：英文誌に投稿中（2013年3月時点）八重樫瑞典
 - ・「腹腔鏡下結腸手術における硬膜外麻酔の必要性に関する検討(比較試験)」：英文誌に投稿中（2013年3月時点）藤井仁志
 - ・「腹腔鏡下大腸癌手術における小開腹創位置の標準化に関する検討」：50例集積し解析中（2013年3月時点）《全国多施設共同研究》
- ▶JCOG
- ・0910試験「Stage Ⅲ 治癒切除大腸癌に対する術後補助化学療法としてのCapecitabine 療法とS-1 療法とのラ

ンダム化第Ⅲ相比較臨床試験」CAPS：症例集積中

- ・1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（ENCORE Trial）」：症例集積中

▶腹腔鏡下大腸切除研究会

- ・「Clinical Stage 0-I 期直腸癌に対する腹腔鏡下手術の妥当性に関する第Ⅱ相試験」Lap-RC：症例集積終了・解析中
- ・「高齢者における腹腔鏡下大腸切除術の有効性と安全性に関する後ろ向き調査」：症例集積終了・解析中
- ・「Stage Ⅳ大腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」：症例集積終了・解析中
- ・「横行結腸癌、下行結腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除術の後向き試験」：症例集積終了・解析中

●今後の研究課題

▶臨床面

- ・内視鏡外科学会技術認定医の育成
- ・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導。

▶研究面

- ・ICOG CCの解析、論文化
- ・ICOG CRC LMの解析
- ・大学院生に対する学位指導
- ・学会発表の論文化

リサーチグループ《分子治療研究室》

専門外来

外来なしの
24時間営業

STAFF: 西塚 哲・岩谷 岳・久米浩平・遠藤史隆・片桐弘勝・石田 馨・渡辺陽太郎
佐藤 慧・小笠原 聡・杉立彰夫・中島裕俊・バルハット・イスラハット

リサーチグループは2012年7月より岩手医大内丸キャンパス1号館4階に移動しました。同1号館は、明治時代にその礎が築かれたまさに岩手医大の出発点となった建物です。外科の大学院生が研究活動の中心ですが、岩手大、岩手県立大の研究補助員も参加しており専門性は多様であり、医学部4年のラボ配属はこの3年で23人が希望・参加してくれています。グループではひとりひとりが1つ以上のプロジェクトを担当していますが、実験手技や研究計画はそのノウハウが伝わるよう頻繁にディスカッションをすることを意識しています。また、矢巾キャンパスでの動物実験および高額機器を用いた実験（不定期）、毎週月曜は夜8時より進捗状況ミーティング、金曜は朝6:30より抄読会を行っています。研究はひとりひとりがプロジェクトリーダーですが、リサーチグループの自慢はチームワークと多様性です。みなさんもぜひチームに加わってみませんか？



平成24年のニュース

- 5月 ▶ 石田馨が配属
- 6月 ▶ 4年生ラボ配属トレーニング開始
岩手大学より研究補助員としてバルハット・イスラハットが参画
- 7月 ▶ ラボ引っ越し（西4階医局並びから旧動物実験室へ）
- 8月 ▶ バーベキュー大会
- 9月 ▶ 4年生ラボ配属学生インターンシップ（九州大学生体防御研究所、ノースカロライナ大、デューク大、オレゴン健康科学大、ドイツがんセンター、岩手医大外科研究室）
- 10月 ▶ 癌学会（札幌）へ全員参加
- 12月 ▶ 4年生ラボ配属研究発表コンペで圓谷紘乃（外科研究室・ドイツがんセンター）が126人中1位を獲得。
東北大学大学院医学研究科細胞組織分野・人体構造学分野（出澤真理研究室）の忘年会にて西塚・片桐がそれぞれ優勝・準優勝。
外科大忘年会にてリサーチグループ「西塚スタイル（ダンスパフォーマンス）」が史上最高得点（？）で優勝。

平成24年 診療・研究状況報告

● 診療報告：抗癌剤感受性試験

抗癌剤感受性試験：8例 医学部4年生受入数：10名

● 平成24年研究報告

《教室内》

- ・「胃癌術後補助化学療法の効果予測に関する基礎的研究」：遠藤史隆
- ・「薬剤耐性細胞のstochasticな出現ルールに関する研究」：久米浩平
- ・「新規タンパクアレイを用いた薬剤耐性細胞の分子生物学的プロファイル」：久米浩平

《共同研究》

- ・「癌性腹膜炎腹水中からの候補バイオマーカーの単離」医薬基盤研究所との共同研究：西塚 哲

- ・「抗がん剤反応性タンパク高次データの統合解析」東北大学、九州工業大学、米国立衛生研究所との共同研究：西塚 哲
- ・「傷害肝再生に関わる骨髄間葉系多能性幹細胞に関する研究」東北大学との共同研究：片桐弘勝
- ・「5-FU耐性細胞株を用いた薬剤耐性機構の研究」民間企業との共同研究：石田 馨
- ・「胃癌根治術後補助化学療法効果予測バイオマーカーに関する後ろ向き臨床研究（NJバイオマーカー研究）」岩手医科大学関連施設、および市立札幌病院、山形県立中央病院との共同研究。症例集積中：西塚 哲
- ・「末梢血DNAを用いたがん診断に関する研究」岩手医大消化器肝臓内科との共同研究：佐藤 慧

小児外科グループ

STAFF：水野 大・有末篤弘・小林めぐみ

専門外来

火曜・金曜
10時-12時



一般小児外科外来：前年同様、原則、火曜日と金曜日の10時から12時を一般小児外科外来診察時間としておりますが、他の曜日・時間も手術、検査をはじめとする他業務との兼ね合いをみながら可能な限り対応させていただいております。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から16時。WOCナースと協力しながら、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケア、排便コントロール等の指導をしております。

また、原則として30分刻みの枠に各5人の予約設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成24年のニュース

- 3月 ▶有末篤弘，小林めぐみ，大学院卒業。
- 4月 ▶有末篤弘，2年間の慶應義塾大学小児外科国内留学より帰室。
- 7月-12月 ▶小林めぐみ，国立成育医療研究センターに国内留学し，国内最先端の小児肝移植および外科治療を研修。
- 12月 ▶小林めぐみ，日本小児外科学会専門医筆記試験に合格。

平成24年 診療・研究状況報告

●手術数：228例

《内訳（重複あり）》

▶新生児（横隔膜ヘルニア，CCAM，壊死性腸炎，腸閉鎖，消化管穿孔，鎖肛，腹壁異常など）17例▶悪性腫瘍（悪性リンパ腫，肝芽腫，奇形腫など）6例（含む生検）▶上部消化管（胃食道逆流症，食道狭窄症，肥厚性幽門狭窄症など）20例▶下部消化管（イレウス，Meckel憩室，腸重積，直腸肛門奇形など）37例▶肝胆膵脾（肝芽腫，胆道拡張症，遺伝性球状赤血球症など）76例▶急性虫垂炎 15例▶単径ヘルニア（停留精巣含む）37例▶泌尿器系（水腎症，膀胱尿管逆流症，腎不全など）26例▶呼吸器系（CCAM，気胸，気管切開など）22例

●過去3年間の手術数

平成22年：209件／平成23年：219件／平成24年：228件

●平成24年研究報告

《教室内》

・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発 動物実験継続中

・大動物を用いた小児腹腔鏡下手術教育

《全国規模》

・JNBSG 日本神経芽腫芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験

・JPLT3 日本小児肝癌スタディグループ

・JWiTS2 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ

高度救命救急センター

STAFF：小鹿雅博・野田宏伸・遠藤史隆

専門外来

24時間体制



高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

平成24年 診療・研究状況報告

●手術数：76例（全身麻酔）

内因性疾患（手術数）

胃十二指腸潰瘍穿孔7例

イレウス5例

虫垂炎22例

大腸穿孔15例

急性虚血性腸疾患7例

嵌頓ヘルニア3例

外傷（手術数）

胸部外傷2例

横隔膜破裂1例

腸間膜・腸管損傷14例

局所麻酔

気切・PEGなど9例

●平成24年研究報告

《教室内》

- ・術後敗血症に対する人工臓臓を用いた血糖管理
- ・抗生剤による生体反応修飾の研究
- ・エンドトキシン遊離作用抗菌薬のサイトカイン産生能検討
- ・ALI/ARDSによる新規メディエーター検討
- ・LPS刺激によるendotoxin中和能の検討
- ・急性虫垂炎における保存的加療（抗菌薬治療）の検討
- ・消化管穿孔とドレーン挿入の意義

●今後の研究課題

- ・人工臓臓を用いた血糖管理（多施設共同研究）
- ・血管内冷却システムによる敗血症患者の生体反応
- ・下部消化管穿孔に対する集学的治療
(Surviving Sepsis Campaign guidelines for management of severe sepsis and septic shockの再検証)
- ・侵襲、敗血症に対する生体反応の究明。とくにサイトカインと各種細胞膜上レセプター発現の変動と臓器障害について。
(S100A12, HMGB1, sRAGE, AGE, MCP1の特異的変動)
- ・プロカルシトニン、 β Dグルカン、エンドトキシンの感染症3種マーカー同時測定の意味

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

STAFF：細井信之・高橋正浩

診療体制

月曜日・木曜日 外来T (月) 午後手術
火曜日・金曜日 外来H (火) 午後手術
水曜日 外来&西根病院出張 隔週毎
木曜日 県立宮古病院出張 (H)
金曜日 鹿角組合病院出張 (T)

当院外科診療体制は上記のようになっております。

本院外科医局の先生方には専門外来へのご紹介、手術応援等にて大変お世話になっております。当科外来・入院紹介も頂いており誠に有り難うございます。

また週の中後半には外科一人体制となるため、小鹿先生はじめ高次救急センターの先生方にも大変お世話になりました。

出張病院の先生方にも平素よりご高配いただきまして感謝しております。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



平成24年のニュース

- 1月 ▶ 新田先生、長谷川先生に腹腔鏡下肝外側区域切除執刀頂く
- 2月 ▶ 大塚先生に腹腔鏡下結腸切除執刀頂く
- 3月 ▶ 米沢Dr.退任 お疲れ様でした
- 4月 ▶ 高橋Dr.着任 よろしく
- 10月 ▶ 外科手術室無影灯一新 [CHROMOPHARE E (BRITe)] (次は手術台か)

※写真は交換前の旧无影灯で現行モデルは軽量コンパクトでスタッフにも好評です

平成24年 診療・研究状況報告

●手術数：115例

《内訳》

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	5例
	腹腔鏡下胃切除術	4例
転移性肝腫瘍	腹腔鏡下外側区域切除術	1例
胆嚢癌	胆摘+リンパ節郭清	1例
結腸癌	開腹切除術	2例
	腹腔鏡下手術	9例
直腸癌	開腹切除術	4例
	腹腔鏡下手術	3例
腹壁癒痕ヘルニア	腹腔鏡下手術	3例

鼠径ヘルニア	鼠径法 (Kugel, D-Kugel)	23例
	腹腔鏡下手術 (TAPP)	7例
胆石・胆嚢炎	開腹胆嚢摘出術	1例
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	13例
虫垂炎	腹腔鏡下手術	3例
イレウス	開腹術	1例
	腹腔鏡下手術	3例
外痔核	根治術	1例
	胃瘻	2例
	腸瘻	4例
	CVポート留置	11例
	その他 局麻手術	13例

◆ 入院患者分類

疾 患	例 数
顔面・頸部	0
甲状腺・上皮小体	良性 12
	悪性 7
乳 腺	良性 2
	悪性 226
食 道	良性 2
	悪性 185
胃・十二指腸	良性 7
	悪性 225
大腸・肛門	良性 12
	悪性 301
肝・胆・膵・脾	良性 90
	悪性 270
イレウス	28
虫垂炎	26
ヘルニア・腹壁・腹膜	24
副 腎	7
病的肥満	26
その他	20
入院者合計	1,470

◆ 関連病院手術件数

病院	全手術 例数	全身麻 酔件数	緊急 手術数	腹腔鏡下 手術数	甲状 腺癌	乳癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1,310	1,079	168	519	7	132	17	144	16	36	157
盛岡赤十字病院	692	640	152	225	4	25	1	31	11	10	81
八戸赤十字病院	527	460	74	142	11	30	0	27	10	9	88
盛岡友愛病院	523	474	36	33	8	112	0	3	0	0	30
県立久慈病院	509	360	80	133	3	26	0	27	8	7	65
県立釜石病院	469	312	84	105	2	34	0	35	4	0	50
盛岡市立病院	464	382	24	192	2	6	0	19	7	7	88
県立二戸病院	408	267	51	67	1	4	2	23	5	5	52
県立宮古病院	397	363	85	66	0	17	0	33	4	1	90
山本組合病院	333	305	49	165	9	19	0	49	6	4	62
県立江刺病院	263	64	9	19	1	6	0	5	1	0	11
かつの厚生病院	258	157	24	48	3	5	0	23	2	0	59
県立千厩病院	190	110	30	28	0	5	0	10	1	0	29
北上済生会病院	185	85	21	26	0	7	0	5	0	0	11
花巻温泉病院	115	90	3	45	0	0	0	9	1	1	18

◆ 手術件数

	件 数
全麻数	1,117
局麻数	78
その他	15
全手術数	1,210

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2013. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2013. 12
指定	八戸赤十字病院	～ 2013. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立釜石病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立千厩病院	～ 2013. 12

指定関連区分	施設名	
指定	盛岡市立病院	～ 2013. 12
指定	盛岡友愛病院	～ 2013. 12
関連	北上済生会病院	～ 2013. 12
関連	岩手県立軽米病院	～ 2013. 12
関連	山本組合総合病院	～ 2013. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2013. 12
関連	県立江刺病院	～ 2013. 12
関連	国保西根病院	～ 2013. 12
関連	内丸病院	～ 2013. 12

◆ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2013. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2013. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2013. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2013. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2013. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2013. 12

岩手医科大学医学部 外科学講座 卒後臨床研修プログラム

卒後研修担当 水野 大

当教室では、3年前に「卒業時に進路を固めている学生には遠回りとも言える卒後初期臨床研修」への対応策として「卒業前に、外科医を目指す決意が固まっている学生」をターゲットとした、卒後初期臨床研修全体の規定をクリアしつつ研修期間中に「外科専門医取得に必要な関連領域の症例を学内外科系講座で横断的に効率よく経験するためのプログラム」と、ひたすら「学外関連施設研修を中心とした多くの手術を経験するためのプログラム」を作成しました。これにより卒後初期臨床研修制度導入前の外科研修にかなり近づき、我々の世代が外科入局時にそうであった「自分は絶対外科医になる！」という高いモチベーションを持った若者が多数現れることを期待していましたが、残念ながら本学新卒者に関しては全くの空振りが続いています。そもそも、本学での卒後初期臨床を希望する卒業生は減少の一途で、2013年度はわずか3人となってしまいました。さらには本学での初期臨床研修制度における外科研修が必修から外れたため、その少ない研修医の中で外科を選択する者、選択する期間ともに激減しております。今後、「ゆとり教育世代」の卒業生が増えていく中、明らかに「楽な方」を選択する傾向がみえており、本学卒業

生に対するリクルート活動を如何に進めていくかが今後の重要な課題です。

一方、後期研修については、卒後初期臨床研修終了者を対象とした、各人の入局前のキャリア、将来に描くキャリアパスに合わせた多数の（オーダーメイド型）後期研修プログラムを用意し、4年前にはさらにその上の日本外科学会専門医をすでに取得した医師を対象とした、次のステップを目指す専門教育プログラムをスタートしたことにより、ある程度の成果を得てきました。（図参照）また、その一方で、ここ数年、本県出身者のみならず、本県とは縁のない他大学出身者が、岩手県内の病院で初期臨床研修を終了した後に当科へ入局し後期研修を行うというパターンが少しずつ増えてきているのは喜ばしいことです。これは、ひとえに関連病院の先生方によるご指導、ご助言のたまものです。本学新卒者の勧誘ももちろんですが、現状を考えると、出身大学を問わず卒後初期臨床研修終了者に対する勧誘が極めて重要な意味を持つように思えます。同門の先生におかれましては各施設の研修医、見学医学生に対し、これまで以上に岩手医科大学外科学講座の魅力を紹介していただきたいと思います。

専門領域決定済みコースの1例

卒後 1 年目	・ 卒後初期臨床研修（学内または学外）	←学内なら11か月間の外科修練が可能!!
2 年目	・ 外科学会入会、修練開始手続き ・ 専門学会入会	
3 年目	・ 大学 24か月（専門領域及び関係するグループ優先に18か月、呼吸器外科、心臓外科、麻酔科を各2か月、この間に内視鏡トレーニングを行う） ・ 学外関連病院 12か月（専門医に關係する症例が多い施設）	
4 年目		
5 年目		

5年目終了後 外科専門医試験

卒後6年目	・ 大学 12～24か月（専門領域及び関係するグループ）
7年目	・ 学外関連病院 12～24か月（専門領域に關係する症例が多い施設）

7年目終了後 各専門領域専門医試験 消化器外科では専門臓器（グループ）決定

専門領域未定コースの1例

卒後 1 年目	・ 卒後初期臨床研修（学内または学外）	←学内なら11か月間の外科修練が可能!!
2 年目	・ 外科学会入会、修練開始手続き	
3 年目	・ 大学 24か月（上部、下部、肝胆膵・内視鏡、乳腺、小児、救急を各3か月、呼吸器外科、心臓外科、麻酔科を各2か月、この間に内視鏡トレーニングも行う） ・ 学外関連病院 12か月（一般外科）	
4 年目		
5 年目		

5年目終了後 外科専門医試験 専門領域決定（専門学会入会）

卒後6年目	・ 大学 12か月（専門領域及び関係するグループ優先）
7年目	・ 大学 12～24か月（専門領域及び関係するグループ優先） ・ 学外関連病院 12～24か月（専門領域に關係する症例が多い施設）
8年目	
9年目	
10年目	・ 大学 12か月（専門領域）

10年目終了後 各専門領域専門医試験 消化器外科では専門臓器（グループ）決定

外科学講座

安藤 太郎



出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：2012年

出身地：宮城県 登米市

趣味：スポーツ、美術館・喫茶店巡り、バックパッカー

座右の銘：正堂堂

岩手医科大学外科に入った理由：

昔から手先を動かすのが好きで、自分の中では外科をするぞというのは決めていました。6年生のスーパーポリクリで外科と小児科を選ばせて頂き、実際に手術に入ることによって人体の精密さ奥深さに圧倒されるとともに、それに自分の経験から得た多くの知識と磨かれた技術で病気に立ち向かい直接取り除く先生方のダイナミックさと繊細さを持ち合わせた手技や姿勢に憧れ自分もここで頑張っていきたいと思い、入局させて頂きました。

また、手術以外でも日常業務でなかなか時間が取れない中気さく話けていただき、また飲み会にもよく連れていっていただき医局の暖かみや懐の深さにも大きな魅力を感じました。今思い返せば5年生の実習の時に大塚先生のあの低いハスキーボイスで「安藤！外科はいいぞ〜！」と何度も繰り返しささやかれている間にサブミニナル効果みたいなもので刷り込まれていったことも大きな要因となっているかもしれません。

これからの意気込み：

父が岩手医大の歯学部であったので生まれてから幼稚園まで盛岡で住んでいて、よく白龍や福田パンに食べに行ったのを覚えています。学生の頃からとても愛着のある土地で、豊かな自然や文化もある岩手で仕事をする事は自分の中でとても自然な事であると同時に特別な事になっています。

今までお世話になりっぱなしな両親、親戚、友人、先輩方、後輩達、ひいては社会に少しでも自分が還元出来るように一生懸命働いていきたいと思っています。

慣れないところもありご迷惑をかけてしまう場面があるかもしれませんが、精進してまいりますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



出身大学：自治医科大学

大学卒業年：2010年

出身地：岩手県 花巻市

趣味：ドライブというか遠出

座右の銘：いつでも微笑みを

岩手医科大学外科に入った理由：

私は花巻に生まれて高校を卒業するまでずっと岩手（というか花巻）で過ごしました。大学では栃木に行きましたが、卒業し大学の先輩方が多く勤める県立釜石病院で初期研修を始めました。

そして、研修も1年を過ぎたところで震災が起こりました。何も考える余裕も無くがむしやりに働く日々、そんな中生まれ育った岩手県の患者さんのため、岩手県の医療に貢献したいという気持ちが強くなりました。

今まで岩手の医療を支えてくださったのはやはり岩手医大の皆さんのお力が大きいと考えています。自分もお仲間に入れていただき、その中で多くのことを吸収させていただきたいです。そして自分もこれから少しでも生まれ育った岩手県に恩返しをしていきたいと思っています。

これからの意気込み：

医者になろうというよりも外科医になりたいと思って大学受験、大学生活と過ごしてきました。初期研修の間もそれぞれの科での外科医として必要と考えられる知識および手技は何かと考えながら回っていました。

現在は既に、肩書きではもう既に研修医ではなく外科医として働き始めて1年がたとうとしています。これからは本当の意味での外科医となっていけるよう、更に努力していきます。経験はもちろん、知識もまだまだこれから身につけていかなければいけなく、それに終わりは無いと感じています。その中でみなさんにご迷惑をおかけすることも多々あると思います。自分のためにも、そして今まで接してきた、これから接する患者さんのためにも一人前の外科医になっていきたいです。どうぞこれからご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

今年度（H24年度）の新教室員として2名を紹介しましたが、全員がfreshmanというわけではありません。様々な研修プログラムを経て、今年度から新しく岩手医科大学外科教室の仲間に加わった精鋭達も紹介しております。同門の先生方には是非顔を覚えていただき、研修に訪れた際はかわいがってあげてください。

平成24年度同門会学術賞を受賞して

高原 武志

24年度同門会学術賞を頂き、心より感謝申し上げます。岩手医科大学外科学講座に2007年7月より赴任してから、丸5年以上が経ちました。この間肝胆膵グループに従事し、若林教授を始め、新田先生、佐々木章先生、外科学講座同門の先生方にご指導頂きましたことを、改めて感謝申し上げます。

今回の受賞論文は、A phase I study for adjuvant chemotherapy of gemcitabine plus S-1 in curatively resected patients with biliary tract cancer: adjusting the dose of adjuvant chemotherapy according to the surgical procedures. (Cancer Chemother Pharmacol. 2012 May ; 69(5) : 1127-33) というものです。胆道癌に対する血管合併切除を含めた拡大手術の適応や手術成績に関して各施設から報告され、その妥当性は認められています。今後、さらに胆道癌の治療成績を向上させるために

は、術後補助化学療法を含めた集学的治療の確立が必須であるとされています。今回の臨床研究では、胆道癌に対する有望な抗癌剤であるGemcitabineとS-1を併用した術後補助化学療法のPhase I studyの結果であります。肝切除後と膵頭十二指腸切除後では、併用療法の推奨容量を変更させるという内容であり、胆道癌に対する術後補助化学療法のレジメを考慮する際に、術式も考慮すべきという新しい知見を発信致しました。これからは、結腸癌の多発肝転移などで積極的な肝切除と化学療法を含めた集学的治療が求められる可能性があり、肝代謝である抗癌剤を使用する際には肝予備能も考慮しながらその投与時期・投与量を考慮することが望ましいということにもつながるのではないかと考えています。

今後は、岩手医大発の臨床研究を多数企画し、報告していきたいと思っています。研究の立案・実行・論文作成を完遂する喜びを何度も味わえるように、さらに歴史ある岩手医科大学外科学講座の発展のために、後輩指導を含め頑張っていく所存です。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

もう一つの日出づる国 ～バングラデシュ～

西塚 哲

バングラデシュの国旗をご存じの人は多いと思うが、国そのものは余りよく知られていない。このたび、岩手大学のアビドゥ・ラーマン教授にご推薦いただいた縁で、第7回南アジア癌治療学会（筆者訳。実名はSAARC Federation of Oncologists International Cancer Conference）に参加する機会を得たので紹介したい。

参加国はSAARC（South Asian Association for Regional Cooperation）同盟関係にあるアフガニスタン、ネパール、インド、パキスタン、モルディブ、スリランカ、ブータンおよびバングラデシュの8カ国である。医学系の学会であるが、同国出身ノーベル賞受賞者のムハマド・ユヌス氏が参加するなど国を挙げてのイベントという雰囲気さえ漂っていた。発表者のプレゼン能力は高く英語も堪能であったが、発表時間に関しては予想通りリラックスしていた。近年の交通事情の悪化で時間を守ることが難しくなってきたことが原因らしいが、東京ほどの人口を有するダッカ市内に信号がほとんどなく、皆好きなように車を運転している。

期間中、ダッカ市内の病院や研究所を訪問する機会

に恵まれたが、一部の病院では米国スタイルの超高度医療が行われていた。医療保険という概念は浸透しておらず、患者の多くは一部の富裕層か土地を売るなどして受診しているとのことであった。イスラム圏の病院らしく日に何度も礼拝への呼びかけの旋律が聞こえてくる。

医師は決まりとして午後2時までは公立の病院での勤務が義務づけられているがそれ以降は自由なのだそうだ。従って、午後2時以降はアポイントによりオフィスを持った病院へ向かい診療を行うのだが、ここでも時間通りということはなく数時間の遅れは許容範囲のようである。有難いことに、ホストの先生に自宅でバングラデシュ家庭料理を振る舞っていただいた時は、時間ぴったりにカレーを頂いた（もちろん手で）。



がん薬物療法専門医を取得して

板橋 哲也

とある腫瘍内科が集まる学会でのこと。

「その臨床経過については外科の先生による薬物治療ですので、ちょっと信頼にかけられるんですよね。」との発言が若い腫瘍内科の先生から飛び出しました。

私は驚きとともに瞬間的に挙手をしてマイクの前へ飛び出し、「外科の治療が信頼に欠けるとはどういうことですか？」と会場いっぱいに響き渡る大きな声で……。なんて、できる訳ありませんよね。哑然、呆然と「これが現実なのだな～」と、何とも寂しい気持ちになってしまいました。腫瘍内科の先生が集まる全国学会での、外科医が行う化学療法への信頼度というのはこんなにも残念な扱いでありました。少し抗癌剤の勉強をかじり、大学で一生懸命にやってきたつもりでいた当時の自分には衝撃的な出来事でした。

「このままでは岩手の薬物治療・大腸癌治療戦略すべてが信頼されないものになってしまう！！」。こんな思い上がった感情がきっかけでがん薬物療法専門医を目指してみることにしました。あまりにも頂上が見えない目標でしたので、思い切って期間限定の2年計画。2年でだめならあきらめよう、

その代わり全力で向き合ってみよう、と。

サマリーチェックをしていただいた各グループのチーフの先生。乳癌集中講義をしていただいた柏葉先生、稲葉先生、小松先生。血液学必勝講義と熱血注入をしていただいた小宅先生（血液腫瘍内科）。受験勉強の時間を作ってくれた大塚先生、聡元先生、遠藤先生、藤井先生、八重樫先生、中村先生。皆様にはただただ感謝です。本当にありがとうございました。厳しい生活が必要だった2年間でしたので安易に後輩へは勧めませんが、「岩手の外科にはいろいろなことに挑戦できる環境がある」ことを証明できたのが一番の充実感です。

No Limit！ 限界を取り去ろう！！

若林教授からいただいた名言を胸に今後も勉強を続けて行く決意であります。



海外医学雑誌Liver Transplantationの表紙に選ばれました。

高橋 正浩

私がマイアミへ留学中に投稿した論文【Use of the bilateral anterior rectus fascia turnover method and the components separation method for a difficult abdominal closure after transplantation】が、海外医学雑誌Liver Transplantationの表紙に選ばれました。

移植後、グラフトサイズミスマッチ症例や術後腸管浮腫などで閉腹困難になった症例に対する閉腹方法の論文です。今まで閉腹困難な症例ではプラスチックバッグやサージカルドレープを用いて腹腔内圧が改善するのを待って閉腹していました。我々は形成外科の手技を応用し、腹直筋鞘前葉を剥離してフラップをつくりopen bookのように反転させ閉腹する方法と、前葉と後葉に切開を加え減張し引き寄せる方法を投稿しました。

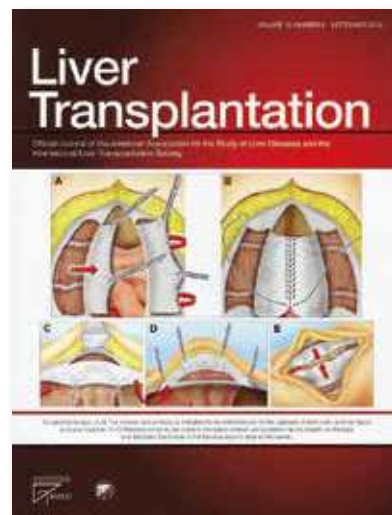
その手術手技をイラストにしたFigureが表紙になったのです。このイラストはインパクトがあるとマイアミのfaculty

の間でも好評でした。

論文がacceptされてしばらくたった頃、Editorial Assistantからメールがありました。

“Drs. John Roberts and Jack Lake would like to include Figure 1 from the above Letter to the Editor on the cover of Liver Transplantation for our September issue. If this is agreeable with you, would you review the figure legend for Figure 1 and advise if it is appropriate to appear below the figure on the cover.”

ジャーナルの表紙は、投稿された論文の中からEditorが『今号最も注目する研究』として選ぶもので、私にとりましてとても光栄なメールをいただき、もちろん“agree!”と返



事いたしました。この場をお借りして掲載のご報告と致します。

改めて留学の機会を与えていただいた若林教授、そしてマイアミ大学でお世話になりました西田教授に感謝いたし

ます。

論文ホームページ

<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/lt.23486/abstract>

岩手県内医師と医療従事者を対象とした遠隔医療研究会の開催

佐々木 章

教室では、岩手県が整備した「いわて医療情報ネットワーク」を利用して岩手医科大学と岩手県立病院間（二戸病院、久慈病院、宮古病院、釜石病院、大船渡病院、千厩病院）でいわて遠隔外科医療カンファランスを実施してきました。さらに、「いわて医療情報ネットワーク」が整備されていない関連病院間（秋田県かづの厚生病院、秋田県山本組合総合病院、北上済生会病院、花巻温泉病院、盛岡市立病院）へは、いわて遠隔外科医療カンファランスの映像をインターネットで配信するシステムを構築し、多くの関連病院とで遠隔医療

会議ができる環境が整っています。

平成24年度地域医療研究事業では、「岩手県内医師と医療従事者を対象とした遠隔医療研究会の開催」が採択されました。この研究事業に基づき、第24回Research in Oncology Seminarでは、清水周次先生（九州大学病院光学医療診療部准教授、アジア遠隔医療開発センター長）から「遠隔医療の新時代：国際医療人の育成を目指して」についてのご講演をいただきました（図1）。また、福岡、北九州、宮崎、岩手医科大学での4地点でのライブ中継を行った第12回福岡内視鏡手術フォーラム（図2）、いわて遠隔外科医療カンファランス（年6回）などの遠隔医療研究会・会議を企画・開催しました。この研究成果は、第74回日本臨床外科学会総会（東京、平成24年11月29日～12月1日）において、「岩手県内医師と医療従事者を対象とした遠隔医療会議」として発表しております。



図1 第24回Research in Oncology Seminar

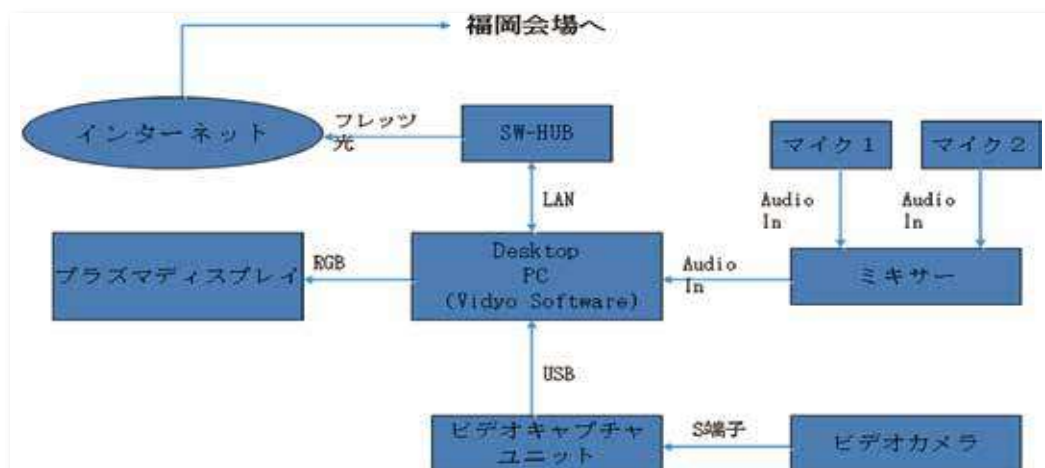


図2 福岡内視鏡手術フォーラムにおけるテレビカンファランスシステム

がん研有明病院の研修を終えて

千葉 丈広

がん研有明病院（東京都江東区）

私は平成15年に岩手医科大学を卒業して、今年で11年目を迎えました。2010年10月から、がん研有明病院での短期研修(3か月)を契機に、2011年5月より約2年間の長期研修をさせていただきました。2011年3月の震災で人手不足の中、このような機会を与えていただきました医局の先生方には大変感謝しております。

がん研有明病院では、消化器センター胃外科グループのレジデントとして胃癌に対する診療を行ってきました。胃癌の年間手術数は600件を超え、週間手術数は平均12件と一つのグループでこれだけ多くの手術が行われている施設は日本において他にありません。スタッフや手術室の数が多いのはもちろんですが、ベッドの回転が早いというのも、手術件数増加の理由となっています。消化器外科全体では、今年年間2000件以上の手術が行われています。

ハイボリュームセンターであるこのがん研のシステムについて、いろいろと勉強させていただきました。全国から集まる患者さんに対して、なるべく時間をかけないように配慮し、約1~2週間で術前検査をすべて行い、3週間以内には手術を行えるようにしています。胃癌手術症例のほとんどはクリニカルパスに沿って経過していきますが、中には栄養状態の悪い患者さんがいますので、時間的余裕のある症例では術前から栄養状態を改善させたのちに手術を行う場合もあります。

多くの症例を熟すために、電子カルテや各種チームによる工夫がなされています。その中でも栄養管理・服薬管理・緩和チーム・医療連携など職種ごとに役割が分担されています。昨年から各病棟（科）には専属の栄養士・薬剤師が配置されるようになり、患者さん個人個人に合った管理・指導が行われるようになりました。栄養管理については、電子カルテに組み込まれたテンプレートによって、個々の患者さんに適した必要エネルギーが自動的に計算されますが、これに栄養士による管理・指導が加わることで、より安全で確実な栄養管理を行うことができるようになっています。薬剤管理においては、患者さん毎に入院時常用薬の確認、採用薬品などのチェック、電子カルテの記載などを行っています。がん研では緩和ケアチームも構成されており、症状コント



ロールに難渋するような末期がん症例などを依頼するとチーム内で検討されアドバイスもいただけるため、患者さんを診るうえでとても心強く、治療方針を立てるために重要な役割を果たしています。さらに、何らかの理由で転院が必要となる患者さんについて、医療連携として転院先を探したりする業務を専門で行ってくれる方々（いわゆるMSW）もおりますので、病診連携として非常に充実していると思いました。

私個人のがん研での研修については、1年目はひたすら毎日のノルマをこなして行くのが精一杯だったような気がします。主な仕事は病棟回診・手術準備・標本整理・カンファ準備・書類作成などを行いながら、がん研の手術を勉強することでした。開腹手術と腹腔鏡手術ですが、どちらも共通することはスタッフの先生によって微妙な違いはあるにしても、手順や手術手技を覚えることは大前提で、これらを一早く身に付けることが次のステップに進むための重要な要素であると思いました。

私は2年目に入ってはじめての半年間は胃外科のチーフレジデントとして努めてまいりました。チーフの仕事は、全ての患者の把握、術前チェック、手術患者の担当割り当て、内科・他科カンファの準備などこれもまたハードな日々でした。チーフの仕事は個々の技量が問われるところですが、かなり仕事が多いので自分は毎日夜遅くまでかかっていたことを思い出します。周りの先生方や医療従事者の方々にはいろいろご迷惑をかけてきたところもありましたが、何とか半年間のチーフ生活を無事に終え、後半の半年間ではチーフの仕事も終わり、手術の勉強をさらに集中的に行うことができました。まだまだ未熟ですが、明らかに手術に対する思い入れが変わったと思う時期が自分でもわかり、手術の流れや組み立て方という基本的なことを改めて考え直す機会となったと思います。スタッフの先生方にはいろいろとご迷惑をかけまし

たが、多くの貴重な症例を経験させていただきました。

このがん研での生活によって、様々な視点・観点からの考え方が身に付いたように思います。他職種にも言えることと思いますが、自分の職場に囚われず、他施設で行われていることを見学する、あるいは研修する、といったことは必ず自



分自身にとって大きく成長できる一歩だと思います。この2年間の研修の機会を与えていただいた全ての方々に感謝致します。本当にありがとうございました。これからはこのがん研での経験を最大限に生かして、岩手県の医療に貢献していきたいと思っています。



小林 めぐみ

国立成育医療研究センター（東京都世田谷区）

2012年7月から半年間、我が国の成育医療・研究・教育の中核である国立成育医療研究センターで移植外科3か月、小児外科3か月の研修をさせていただきました。

全国から種々の重症肝疾患を受け入れ年間42例もの肝移植を行う移植外科は、通常の小児肝移植適応疾患である胆道閉鎖症と比較して新生児期の代謝性肝疾患や劇症肝炎というリスクの高い症例を多く治療し、手術時間は6~8時間、高い生存率を維持する世界屈指のハイボリュームセンターでありました。

一方、日本小児外科学会の認定施設中でも上位の小児外科症例数を誇る外科では、外傷や小児救急疾患に対し常に手術できる救急体制を整え、小児集中治療室（PICU）、新生児集中治療室（NICU）はじめ各診療科と連携し、複雑な病態をもつ患者に対しても高度な小児医療を施していました。

研修期間中、同年代の医師達が様々な診療科とカンファレンスやベットのサイドで真剣に議論する姿がみられました。小児センターの強みを生かし患者の発育と成長を長期的に考慮した診療体制で、普通の子どもと変わりなく暮らせることを

最終目標とする医療があり、小児外科医としての役割を改めて考えさせてくれました。またコメディカルやボランティアの強力なサポートがある中、リーダーとして全体を統括する医師の姿もありました。

岩手における小児医療の中枢はここ岩手医科大学であり、同様の医療を患者様に提供するためには知識・技術は基より高いモチベーションと努力が必要です。短期研修ではありましたが、技術や知識だけでなく小児医療に携わる者としての考え方やあり方を学べたことはこれから小児外科医としての自分の使命を全うするために大事な時間であったと思います。



国際親善総合病院で得たもの

大 淵 徹

国際親善総合病院 外科（神奈川県横浜市）

当院において腹腔鏡下手術を積極的に施行しているとの話を伺ってはいたがTANKO手術をここまで活発に行っているとは正直予想していなかった。赴任後2年6カ月に到達しようとしているが、月日が過ぎるのはまさに‘光陰如箭’であった。

Pure-TANKO手術（以下TANKO手術）すなわち穿刺用細径鉗子を用いず臍2cm切開のみによって行う手術は、「Triangulationが得られにくい」、「適切なCounter-tractionがえられない」、またはそもそも「安全性が担保されない」？…などという意見まで耳にし、ついつい短所に目が行きがちであるが、長所としての整容性への寄与は明白である。当院では安全性を担保した上で、TANKO手術を積極的に施行している。TANKO全症例の中で良性疾患は91.5%を占め、その多くは胆嚢良性疾患と鼠径・臍・腹壁癒痕ヘルニア、急性虫垂炎である。整容性に最も寄与し、かつ満足していただける患者は若年女性に多いが、実際は中高年例の患者が多くを占め、鼠径ヘルニアに至っては高齢者が多い。しかし患者の満足度とは別の次元で考えてみると、制限された環境下において鉗子一本で場を展開し、もう一方の鉗子（メリーランド型バイポーラ剥離鉗子）で操作を行うことができれば、従来のConventional laparoscopic surgeryへもfeedback出来るはずであり、あらゆる条件下でいかに展開するのか繰り返し教えていただいた。

一方で当院の魅力はTANKO手術だけではない。上部内視鏡検査・下部内視鏡検査の検査手技の習得が可能となること



も当院の大きなメリットといえる。岩手医大関連病院では（私が修練させていただいた施設では）内視鏡検査を行う機会のごく限られていたが、当院においては火曜日・水曜日・金曜日と週3日検査日が割り当てられている（逆に手術日は月曜日と木曜日の2日間に集約される）。年間の外科検査件数は上部/下部729/488件を数える（ESD/ERCP除く）。お恥ずかしながら私はいろはの‘い’から手とり足とり（まさに二人羽織の様に！）教えていただき、概算で350/120件を経験させていただいた。

まだまだ教えていただいたことは尽きないが、見知らぬ私を温かく迎え入れていただき、懇切丁寧に指導していただいた亀山哲章部長をはじめ、富田医師、三橋医師、宮田医師、松本医師に心より感謝を申し上げるとともに、教えていただいたことを今後の臨床に反映させていきたいと思う。このような貴重な機会を頂けたことに対し、あらためて若林剛教授をはじめ教室員すべての皆様に心より御礼申し上げます。

※写真は昨年末の忘年会芸終了後集合写真です。何事にも一生懸命の皆さんでした。

石橋 正久

九州大学病院別府病院 外科（大分県別府市）

忘れがたき東日本大震災の2011年、私は5月から大学院の国内留学という形で九州大学病院別府病院外科へ転属となり、気がつけば早2年が過ぎました。この期間に学んだことは単純な知識に始まり、さまざまな実験手技や解析手法、論文の書き方など多岐に渡ります。そして別府病院に集まった大学院生をはじめとする全国の方々との出会いが、私にとって何よりも貴重な経験となりました。また微々たるものですが期間内に業績を残し、学位を取得できたことを御報告申し上げます。

国内留学中は、見知らぬ土地での生活、海外学会参加や様々な施設との学術交流会など、印象深い出来事がたくさんありました。一番思い出深いのは、ウェスタンブロットिंगの実験が成功した時です。泳動用ゲルやサンプルが不均一にならないよう工夫したり、ブロットング時のメタノール濃度をいじったり、一次抗体や二次抗体の濃度をさまざまに調節して、やっと綺麗な結果が得られた時には感動しました。実験は少しずつオート化しており、利点として人間が行うよりも安定した結果が得られるとのことですが、自分で手を動かす方が楽しいのは間違いありません。

昨今はマイクロアレイや次世代シーケンサーなど総合的な解析方法が広がり、多角的な癌の研究が進んでいるものの、癌の克服にはまだ時間がかかりそうです。今後は外科専門医をはじめとする資格取得へ向けて臨床に注力しますが、大学院で学んだことを生かし、癌の撲滅に貢献するという目標を持って研究を行うことができると考えています。現在興味があるのは癌の栄養・代謝に関わる分野で、別府で学ん



だことと少し異なりますが、好奇心の向くまま1から勉強したいと思います。

最後になりましたが、国内留学の機会を与えて下さった若林剛教授、大阪大学の森正樹教授、九州大学の三森功士教授、また公私ともに御指導下さいました医局の先生方と関係者の皆様に深く感謝申し上げるとともに、皆様のさらなる御発展を祈念いたします。どうもありがとうございました。



別府病院屋上にて、おそろいのボロシャツを着てガッツポーズ

岩手医科大学での研修を終えて

遠藤 久仁

福島県立医科大学

私は平成24年4月に福島県立医科大学から岩手医科大学外科学講座、下部消化管グループに国内留学という形で診療に混ざっていただいています。 というのも、昨年学位の仕事が終わり、今まで所属していた外の世界で腹腔鏡下手術を勉強したいと考えていたところこのお話をいただけたためです。

岩手医大外科では鏡視下手術が盛んに行われ、技術のレベルが高い事で有名です。下部消化管グループ長の大塚先生の腹腔鏡下大腸手術は何度か研究会で見せていただいた折、勉強させていただきたいと考えていたので、喜んで岩手にお世話になることとしました。

こちらに来て、研究会で見せていただいたような手術を毎回行っている大塚先生、ほとんど大塚先生と同じ手術をしている同年代の先生方に連日刺激と衝撃を受けております。ま



た、平成24年度はこれまでで最も手術件数が多かった年だったとの幸運にも恵まれ、多数の手術に入らせていただき、手術を間近で見ることができ大変勉強になりました。自分の手術ビデオを見直してみると、こちらでの一年での成長がはっきりわかるほど上達していて、これだけ技術認定医を育てている医局の底力のようなものを再認識しています。

手術以外にも、カンファランスや研究に対する姿勢もアクティブで見習う点が多々あり、本年度はその流れに乗せていただき今までになく学会参加・発表することができました。

研究会も多く、たびたび日本のトップの著名な先生方が講演いらしており、勉強する機会や若手への刺激が多く大変うらやましい環境でした。

医局員と同様に扱っていただきご指導いただいた皆様、また、出張先でお世話になりました医局の先輩方到大変感謝しております。さまざまな刺激的な事が盛りだくさんな一年でして、今年度の成長を今後に生かし、よりよい医療を行っていけるようさらに努力をしいこうと考えています。

砂川 宏樹

中頭病院

2012年1月から3か月間お世話になった、okinawaから来ました中頭病院の砂川です。この研修の2か月前、新田先生に腹腔鏡肝切除の本格的な導入を考えており、岩手医大で勉強したい！とお話ししたところ、若林先生・新田先生、岩手医科大の先生方に快く了承して頂き実現しました。最初の日、盛岡駅をおりた瞬間の凍るような寒さ。来た！と勉強するぞ！とまさしく身が引き締まる思いがしました（沖縄持参のシャツでは凍えそうでさっそく川徳で洋服購入）。ここでの勉強で人生までかわるかも！なんて期待して。最初、手術の予定表を見たときの手術の多さに圧倒され、しかも予定表の肝切・PDの多さにびっくりしました。手術は外からの見学になるかと思っていましたが、実際手洗いまでさせてもらいました。手洗いをするととなとやはり患者さんの術前情報！と日常の診療と変わらないくらい深く調べるようになり、術前診断・手術・術後管理など勉強させて頂きました。肝移植などは今までに経験のない医療で、若林先生のドナーのラバ肝切除、新田先生のレシピの動脈吻合などの手術も見事で感動いたしました。術後の経過など高原先生・長谷川先生、高橋先生・伊藤先生、また多くの後期研修医の先生に教えて頂



きました。手術のない日には新田先生に同行して、出張手術まで行かせてもらいラバ肝だけでなく、葉切除やPDまでいっしょに参加させてもらいました。ざっと経験した手術の一覧です。肝門部胆管癌(左葉切除)、胃癌肝転移(lap-partial h)、SCT(PpPD)、IPMC(PD)、胆嚢癌(右葉切除)、バッドキアリー(肝移植)、乳頭部癌(PpPD)、HCC(lap-partial h)、脾腫(Lap-sp)、CCC(Lap-right h)、脾癌(脾全摘)、大腸癌肝転移(Lap-lateral h)、乳頭部癌(PpPD)、脾癌(PpPD)、腹部肉腫(左内臓全摘)、アルコール肝硬変(肝移植)、胆嚢癌術後再発(PD)、HCC(尾状葉切除)、直腸癌肝転移(lap-lateral h)、乳癌肝転移(lap-partial h)、HCC(尾状葉切除)、十二指腸GIST(PpPD)、肝転移(lap-h)、C型肝炎肝硬変(肝移植)、HCC(lap-partial h)、IPMC再発(脾全摘)、小腸GIST(肝転移切除)

また、佐々木章先生、肥田圭介先生、大塚幸喜先生、木村祐輔先生、手術見学ありがとうございました。岩手医科大学外科学講座の先生方のお人柄に岩手の寒い冬を温かく過ごせることができました。感謝しております。

僕のお宝写真です。(術中写真と初日の盛岡です。)



川原 敏靖

アルバータ大学 肝胆膵移植外科

2012年の夏は私の肝胆膵外科医としての人生で忘れがたい2週間となりました。私の勤務するアルバータ大学のあるカナダ エドモントンから12時間で日本に到着し、さらに東北新幹線で岩手医科大学のある盛岡までまいりました。もちろん腹腔鏡下肝臓切除で世界的に著名な若林 剛教授を中心とした岩手医科大学外科学講座で研修させていただくためです。以前より学会で最先端の分野である腹腔鏡下肝臓切除のご発表を素晴らしい手術のビデオとともに英語で堂々とされている若林教授のお姿を拝見し、いつか若林教授のもとで勉強ができたらという思いでございました。それが実現することになり、長い移動時間、そして時差すら気にならない、久しぶりにワクワクした気持ちで岩手医科大学にまいりました。医局員の皆様、秘書さんは温かく私を迎えてくださり、厳しさの中でも優しさ、人への思いやりを忘れないという若林外科教室の教えを感じることができました。肝胆膵領域は他臓器とは異なり手術も困難である上に、合併症の率も高いことが知られております。その意味でも、患者さんに不利益を及ぼさないようにするかを常に念頭におき、腹腔鏡下肝臓切除の適応や、長所、短所、手術で気をつけるべき点を直接ご指導いただきましたことは私の大きな財産となり、まだまだ進化し続けている興味深い領域であることも再確認いたしま

した。また臨床だけではなく腹腔鏡下肝臓切除の合併症のリスクを減らすための研究も大動物で検討されており、基礎研究に基づいた臨床を実現されておられる若林教授の医学へ挑戦をし続ける姿勢にも感銘を受けました。

今回の滞在中「Research in Oncology Seminar」「脳死肝移植セミナー」の2度、講演の機会も与えていただき、教室の先生方だけではなく、看護師や臨床工学技師の方々とも交流することができました。皆様の色々なお話を伺えたことも大きな収穫となりましたし、この講演を通じて私の基礎研究、海外での臨床経験が少しでも岩手医科大学の皆様にお役に立てば幸いです。研修の最後には若林教授お勧めの盛岡名産『かもめの玉子』を頂戴し、教授の細かいお心遣いに感銘を受けました。これは大切にカナダに持ち帰りました。

今後は、岩手医科大学で学ばせていただいた外科技術を是非とも活用させていただき、これからの肝胆膵外科医療に少しでも貢献できるように精進していきたいと考えております。

この度は、若林 剛教授、そして岩手医科大学外科学講座の皆様のお陰で貴重な経験をさせていただきましたことを深く御礼申し上げます。皆様の益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。



1

January

第6回みちのくウィンターセミナー (2012.1.28)

自医科大学 安田是治和先生、東海大学 小澤壯治先生、がん研有明病院 福長洋介先生、
東京大学 畑尾史彦先生をお招きしてご講演を頂きました。
セミナーの翌日は、快晴の安比高原でスキーを存分に楽しみました。



『食道疾患の低侵襲治療』
東海大学 小澤壯治教授よりご講演を頂きました。



『高度肥満症に対する外科的治療』
東京大学 畑尾史彦先生よりご講演を頂きました。



『最新の腹腔鏡下大腸手術』
がん研有明病院 福長洋介先生よりご講演を頂きました。



『新生児生体肝移植のための術中造影超音波検査を応用したmono-sobsegment graft (S2graft)の作製法-正確な肝亜区域の解剖の理解の観点から』
自治医科大学 安田是和教授よりご講演を頂きました。



第28回岩手ストーマ研究会 (2012.3.24)

3

March



伊藤信平様から津波体験を講演して頂きました



東京女子医科大学の板橋道朗先生の特別講演講演。

第6回北東北LAC情報交換会 (2012.3.31)



大阪医科大学の田中慶太郎先生の講演でした。



会場に手術台を持ち込んで体位固定指導。みんな真剣です。



第6回北東北LAC情報交換会。体位固定の実習風景。



Early Exposure seminar (2012.5.14)

今年も我々と共に外科道を求める若人を発掘すべく、Early exposure seminarを開催しました。九州大学 先端医療イノベーションセンター 大平 猛先生、足立共済病院 山本 学先生をお迎えし、ご講演を拝聴した後に、医学部4、5年生に糸結び、縫合結紮、各種エネルギーデバイス等を体験してもらいました。さてさて何人入局してくれるかな？



『自分で発案し、工作し、商品化して、治療する外科医』九州大学 先端医療イノベーションセンター 大平 猛教授よりご講演を頂きました。



『岩手医大外科に入局する10の理由』足立共済病院 山本 学先生よりご講演を頂きました。極めてストレートなお話し、ありがとうございます！



熱血指導！眞壁健二助教



柏葉匡寛講師の糸結び指導「一緒に乳腺やろうぜ。」



大塚幸喜講師のインタビュー「どうでしたか？」「すごく楽しいです！」



「そう！そこがポイントだ」長谷川 康助教



「お肉が綺麗に切れる！」「すごーい！」

岩手県大腸病理研究会 (2012.5.19)



『エピゲノム異常と大腸癌発生』東京大学先端科学技術研究センター 金田篤志准教授よりご講演を頂きました。



本学 臨床病理学



『最も効果的な大腸癌治療ーバイオマーカーと新たな治療の探求ー』山口大学 消化器・腫瘍外科 碓 彰一准教授よりご講演を頂きました。



医局花見 (2012.5.1)



これぞ両手に花！
よっ西塚講師



例年、まだ肌寒い花見。でもみんな笑顔です。
お酒のせいかな？

第15回岩手内視鏡外科研究会 (2012.5.19)

今年もたくさんの方にご参集頂きました。



一般演題 座長
佐々木 章准教授



岩手県立中部病院
重枝 弥先生



岩手県立大船渡病院
岩間英範先生



岩手県立中央病院
加藤貴志先生



山本組合総合病院
大山健一先生



『「機能を残し、やさしく
治す」直腸癌に対する内
視鏡下手術』
国立がん研究センター東
病院 伊藤雅昭先生より
ご講演を頂きました。



特別講演 座長
岩手県立中部病院
宮崎修吉先生



『内視鏡外科手術と医療
安全』
福岡大学病院 山下裕一
先生よりご講演を頂きま
した。



特別講演 座長
若林 剛教授



巖刀会総会（外科学講座同門会）(2012.6.2)

6

June



若林 剛教授 挨拶



斎藤和好名誉教授
乾杯の御発声



巖刀会奨励賞を受賞され
た、高原武志助教。おめ
でとうございます。



福島医科大学から、当科
に国内留学にいらした、
遠藤久仁先生。大変お世
話になりました。



同門の先生方、これからもご指導宜しくお願い申し上げます。



新しく当科に入局した
安藤 太郎先生。函館五
稜郭病院で研修中。一
緒に頑張ってくださいし
ょう！



同じく、新しく当科に入
局した 斎藤 匠先生。
県立金石病院で研修中。
君のガッツで医局を更に
盛り立ててください！

第3回脳死肝移植セミナー (2012.6.19)

2011年9月に、本学が脳死肝移植施設に認定され、第一例目に向けて準備を進めております。今回は、ご経験の豊富なお二人の先生をお招きして、脳死肝移植の実際についてご講演を頂きました。



若林 剛教授 開会の挨拶



『はじめての脳死肝移植に向けて(ドナー肝摘出チーム派遣からレシピエント手術修了まで)』 金沢大学 高村博之先生よりご講演を頂きました。



『当院における脳死肝移植導入に向けたシステム構築とその成果』 三重大学 伊佐地秀司教授よりご講演を頂きました。



院内各部署から、大勢の方にお集まり頂きました。



本学 消化器肝臓内科 滝川先生より貴重なご意見、ご質問を頂きました。



座長を務めた新田浩幸講師。



第4回いわて肥満症治療セミナー (2012.7.13)



若林 剛教授のご挨拶



『甲状腺機能正常2型糖尿病患者におけるMetSと甲状腺ホルモンの関連』についてご講演頂きました。



講演1の座長を務めて頂いた、本学、糖尿病代謝内科 佐藤 譲教授



『肥満・糖尿病に対する外科治療』 四谷メディカルキューブ 減量外科センター 笠間和典先生



たくさんの方にお集まり頂きました。



記念写真「これからも宜しくお願いします！」

北上川ゴムボート川下り (2012.7.22)

今年も快晴の中、楽しく遊びました！



「なんか手についたあ！」



「大丈夫噛まないから。」



新田浩幸講師の愛犬



遠藤久仁先生ご一家



小松英明先生と奥様



「なにこれ？おいしい！」



「まじで？笑える！腹いてェ！」



「それ何？虫？虫なの？」

岩手医科大学 オープンキャンパス (2012.7.28-29)

2日間で800名を超える高校生が訪れてくれました。



佐々木章准教授による外科学のレクチャー



内視鏡手術トレーニング装置を用いて実習体験。どう？難しい？



結構楽しいよね？一緒にやってみない？



梅邑 晃先生による糸結び体験教室
日常生活でも使えそう？どう？



上手！上手！



『なんか面白い！』もちろん女子也大歓迎です！



腹腔鏡下胃切除セミナー (2012.8.4)

『エキスパートに学ぶLAG』と題して、腹腔鏡下胃切除の最先端を学びました。



司会の若林 剛教授



『腹腔鏡下胃がん手術の最前線』
聖マリアンナ医科大学 福永 哲教授
よりご講演を頂きました。



一般演題発表者の藤原久貴助教



当科 胃グループ
肥田圭介講師



県立釜石病院
小原 眞先生



県立久慈病院 高橋正統先生



県立釜石病院
遠野千尋先生



手術室のスタッフもたくさんお集まり頂きました。

9

September

岩手遠隔外科医療カンファランス (2012.9.26)



岩手県内外10施設とネットワークを結び、テレビ会議形式で意見交換を行いました。



『次世代の腹腔鏡直腸癌手術を目指して -グローバルネットワークの展開とともに-』大阪医科大学 奥田準二准教授よりご講演を頂きました。



大勢の方にお集まり頂きました。

10

October

第24回Research in Oncology seminar (2012.10.30)



座長の佐々木章准教授



岩手県内外10施設とネットワークを結び、テレビ会議形式で意見交換を行いました。



『遠隔医療の新时代：国際医療人の育成を目指して』九州大学 光学医療診療部 清水周次先生よりご講演を頂きました。



会場から、活発な質問がたくさん出されました。



各会場の様子



巖刀会忘年会 (2012.12.1)



若林 剛教授 挨拶



岩手県医師会長 石川育成先生よりご挨拶を頂戴しました。



斎藤和好名誉教授より乾杯の御発声を頂きました。



医局秘書の面々。皆様宜しくお願いします！

外科学講座大忘年会 (2012.12.28)



若林 剛教授挨拶
「今年も本当にみんなよく頑張ってくれました。来年もよろしく。」



教授と師長グループ



参加者なんと130名！！



優勝は、西塚 哲講師率いる、Research Group！



気合いの入った、大腸・小児外科・腹腔鏡合同チーム！

岩手県立二戸病院

Iwate Prefectural Ninohe Hospital

巖刀会の諸先生におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。恒例により当科の平成24年一年間を振り返り近況をご報告いたします。

診療体制では、4月に医局からの長期診療応援医師として箱崎将規先生から松尾鉄平先生への交替がありました。そこで、坂本 隆（副院長）、佐藤直夫（外科長兼消化器外科長）、川崎雄一郎（災害医療科長）、松尾鉄平（外科医長）の4名が常勤となりました。また圏域から県立軽米病院の葛西敏史先生（火曜日午後）に定期的手術応援として来ていただきました。医局からは、柏葉匡寛先生（月曜日乳腺外来）、藤原久貴先生（月曜日外来）、新田浩幸先生（金曜日外来）、に定期的診療応援をいただきました。さらに、腹腔鏡下脾摘出術、腹腔鏡下副腎摘出術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下大腸切除術、肝胆膵手術などで、ご専門とされる先生にご指導をいただきました。若林剛教授にも平成24年1月、大変ご多忙中のところ手術指導にご来院いただきました。

当科からの診療応援としては、一戸病院金曜日外来（坂



本)、九戸地域診療センター月曜日（佐藤）、軽米病院第2・第4木曜日外来（坂本）を行いました。

以上の診療体制で、広い医療圏（二戸市、一戸町、軽米町、九戸村、葛巻町、青森県三戸町、田子町など）から手術を必要として来院する患者に対しては外科医の集約化体制で対応し、一方患者・家族が地元での治療を希望する場合には可能な限り地元の診療体制で答えるという形で、圏域が一体となった診療を行っています。

院内では、外来を含めた電子カルテへの完全移行、病床利用率の漸減傾向に対する対策（病床利用率の低下の原因は解明されていませんが、震災時に低下したままの状態が続いています）が課題となっています。当地域でも、低侵襲手術、在宅緩和ケア、外来がん化学療法のニーズが年々高まっており、対応すべく研鑽を続けて行きたいと考えています。今後も一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。



岩手県立軽米病院

Iwate Prefectural Karumai Hospital

当院は、医局の「生活関連病院」としての役割を果たすべく、応援を多数頂いております。外来では(月)岩屋先生、(水)秋山先生、(水当-木外来)石田先生、(金)伊藤先生、(土・日)の当直体制では鴻巣先生、遠藤先生、有末先生、中村先生、八重樫先生達に来て頂いております。本当に助かっておりますので、来年度も是非当院を御最良にして頂ければと思っております(感謝！)

さて、当院の立ち位置とすると、外科手術を積極的に行

うのではなく、リハビリや介護・緩和ケアに携わる部分が多い病院です。そこで医療と福祉の連携についてですが、みなさんは、特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）と老健（介護老人保健施設）の違いをご存じでしょうか？

「特養」は老人福祉法で決められている老人福祉を行う施設で、医師は嘱託で良いことになっています。「ホーム＝家」ですので、終の棲家になることができますので亡くなるまで入所しています。「老健」は介護保険法で決められており、在宅生活への復帰するために介護やリハビリ等を行う中間施設の位置づけです。常勤医師・看護師の配置基準がホームより人数が多く設定されているために、金額は多少高めになります。終の棲家にはなれないため、概ね

3ヶ月毎に入所継続または退所の検討がなされています。ですから住所変更は「特養」はできても「老健」にはできません。

しかし、いずれの施設もほぼ満床状態です。ホームに限っては亡くならないと空きが出ませんし、老健もなかなか在宅に返すことができていません。また、支払いのためには年金を利用する方が殆どで、国民年金の人が多いため、殆どの人が月に65,000円程度の収入です。これが2ヶ月毎に偶数月に支払われています。そこで、比較的安い施設（特養で8～90,000円）に集中して申し込みが殺到している状態です（50～100人待ちは当たり前）。そして、国民皆保険のおかげで、病院で療養している方が、施設に行くよりも月々の経費が安いのです。これでは、利用者も積極的に施設を探してくれない状況が出て来ます。

介護・福祉の「需要」はどんどん大きくなってきているのですが、「供給体制」は貧弱で、24時間対応の看護・へ



ルパーはごく少数、在宅を見ている医師も殆どおらず、我々も病院業務の他に、ここに参入することはままなりません。しかし、厚労省（国）は、ひたすら在宅へ勧める方針を変えません。最近「胃瘻や経管栄養の中止」をひっそりと求めてきています。更には、「緩和ケアグループ」に「認知症」を担当させたがっています。爆発的に患者が増えていることに対処するためと思われます。

きっと人口の減少が進む地域では、ますます住みづらい世の中になっていくかもしれません。いろいろなジレンマを感じながら過ごしているこの頃です。

岩手県立久慈病院

Iwate Prefectural Kuji Hospital

県立久慈病院外科の2012年度の状況報告を致します。

スタッフは、阿部正院長、下沖収副院長、藤社勉第1外科長、高橋正統第2外科長に加え、佐々木秀策先生が初期研修後の3年目外科医師として派遣されております。また心臓血管外科/救急医学講座の皆川幸洋救命救急科長には救急、血管外科を中心に活躍して頂いております。医局からは月1回の小児外科外来を水野大准教授、第3木曜日の乳腺外来を柏葉匡寛講師にお願いしております。柏葉講師には、乳癌学会関連施設として外科スタッフのみならず乳腺認定看護師、超音波技師へもご指導頂いております。手術には若林教授はじめ、各グループの多くの先生方にご指導いただきました、深く感謝申し上げます。

2012年の手術件数は509件、全麻360件で、鏡視下手術は148件、緊急手術は80件でした。手術件数はここ数年増加傾向ですが、特に鏡視下手術は、全身麻酔手術の41%を占めました。2012年度はO社のHiVisionビデ



オシステムを導入して頂き、より良好な視野での鏡視下手術が可能になりました。学会活動は、全国誌論文4編、全国学会発表は19件でした。その他にも地方会、県立病院医学会などへも研修医を中心に多数の発表を行っております。

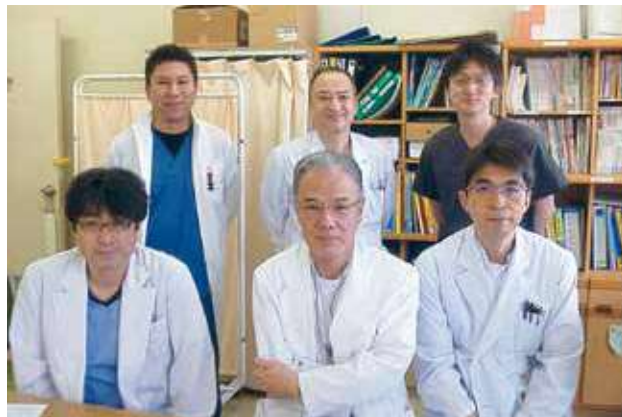
2012年度初期臨床研修医は11名でした。そのうち2年目の吉田宗平先生の外科入局が決まっております。2013年度は新たに4名の研修医を迎えますが、すでに外科入局志望の研修医もおります。当科の役割は外科の基礎研修はもちろんですが、外科の楽しさと久慈病院の魅力を伝えることも大きな役割の1つと考えております。日々の談合のほか、ソムリエ院長厳選のワインによる「初の会」や、恒例の「久慈病院スキーツアー」、その他の病院行事、久慈病院野球軍団の中核をなしているのも外科スタッフです。今後も「明るく元気な関連施設」をモットーに努力を重ねて参ります。今後とも医局、各関連病院からのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

盛岡赤十字病院

Morioka Japanese Red Cross Hospital

平成24年の盛岡赤十字病院の出来事といえば、ペーパーレス電子カルテ導入です。以前のシステムは、LEAF systemと言って、カルテは手書きで、一部のオーダーリングのみでした。11月末より、Mega Oak system (NEC) にかわり、てんてこ舞い。ペーパーレスといっても、種々の印刷物が発行され、書類などは使い勝手が悪く、手書きで電カルヘスキャン。目が疲れるは、肩がコルは、、、皆さんの病院はいかがでしょう。

さて、手術件数は、全身麻酔640例、うち、急患手術152例、内視鏡下手術225例で前年と大きな違いはなかったです。その他、例年通り、V-ポートやPEG、PTEGなども外科が担当しております。



スタッフも、常勤5名で研修医が1名で動いております。

大きな変化はありませんが、例年通りフットワークを軽く、他科、パラメディカル、事務との連携を深め、笑顔で院内を走り回っております。

盛岡友愛病院

Morioka Yuuai Hospital

今年、盛岡友愛病院では、老朽化が進んだ病棟（西館）の建て替えと、サービス付き高齢者向け住宅『ゆうあいの街』の開設を予定しています。震災を経験し、耐久性に不安を抱えていた一部の病棟は今回の建て替えで生まれ変わると同時に、多様化する術式や件数増加に対応出来る手術室、さらには手狭になった透析室を機能的にして移設します。限られた敷地内で病棟編成も含めた大規模な建て替えになりますので、患者さんはもちろん、職員にとって今年最大のストレスになりそうです。昨年は駐車場を増設して、700台以上が駐車可能になりました。今まで、混み合う日には不便をおかけしていた、車で通院患者さんにも、これからは余裕をもって通院して頂けるようになります。



した。

11月にオープン予定の『ゆうあいの街』は、既に平成19年10月から太田地区で稼働している『ゆうあいの里』（クリニック・通所リハビリテーション・デイサービスを備えた有料老人ホーム；介護度1～2が対象）と類似しますが、住宅の一部に介護保険を使ったサービスが利用できるようにした施設です。介護度3以上の入居者を受け入れられるようにするため 訪問看護事業所・訪問看護ステーション・指定居宅介護支援事務所を併設し、より広いニーズに応えられる施設になる予定です。

昨年の総手術件数は1526件。うち外科は523件（全麻474件）でした。盛岡友愛病院外科は現在、長澤 茂（院長）、吉田 弘之、西成 尚人、中島 隆之、藤井 祐次、松谷 英樹の計6名ですが、4月からは多田 隆士を加えた7人体制で、

診療を行っていきます。それぞれ消化器外科・血管外科・呼吸器外科・乳腺外科を専門としますが、互いの枠にとらわれずに協力し合って手術を行えるのが、当院外科の良い

ところであると思っています。これからも良質な医療を提供できるよう、スタッフ一同、ストレスなく和気藹々とした環境を大切にしていきたいと思っています。

盛岡市立病院

Morioka Municipal Hospital

当院は、常勤1名と岩手医大外科医局派遣医師2名の計3名で診療を行っております。平成24年度は、塩井義裕先生と菅野公徳先生に勤務いただきました。また、当院の恒例行事となりました第5回キッズセミナーも7月に無事開催することが出来ました。昨年は、被災地の宮古地区に連絡して中学生に体験頂きました。これからも続けていきたいと思っております。また、手術症例増加に伴い臨床研究も可能となり、院内倫理委員会の承認を得て、2つのRCTを開始しております。平成24年度の学会活動では、御供真吾先生に「肝硬変合併肝癌に対し二期的に腹腔鏡下脾摘と用手補助腹腔鏡下肝部分切除術を施行した1例」を第25回日本内視鏡外科学会総会に「当科における切除不能・再発大腸癌に対するpanitumumabの使用経験」を第67回日本消化器外科学会総会に「K-ras野生型切除不能・再発大腸癌に対するpanitumumab併用化学療法」を第50回日本癌治療



学会学術集会に発表頂きました。また、梅邑晃先生には、「Parietex TM composite meshを用いた腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア修復術の臨床検討」を第74回日本臨床外科学会総会に「Parietex composite meshを用いた簡便な腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア修復術」を第10回日本ヘルニア学会に「臍頭十二指腸切除術におけるno stent法による臍空腸吻合施行症例の検討」を第112回日本外科学会に発表頂きました。藤田倫寛先生には、「盛岡市立病院における単孔式TAPP法」を第10回日本ヘルニア学会に「退形成性臍癌の1切除例」を第24回日本肝胆膵外科学会に「盛岡市立病院における単孔式腹腔鏡下手術」を第67回日本消化器外科学会総会に発表頂きました。今後も当院の症例で若い先生に学会発表頂きたいと思っております。また、当院で手術を数多く経験頂き、多くの先生方に専門医試験を受験して頂ければと思っております。当院は、中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院として使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、必ず引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後もし指導よろしくお願いいたします。（文責：須藤隆之）

岩手県立釜石病院

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

今年度は、震災から丸1年が過ぎたところで4月から外科チームのメンバー大きく変更しました。遠藤秀彦院長、小原眞外科長、斎藤匠医師が残留し、震災のさなか、ご苦勞、ご活躍された吉田徹副院長が千厩病院院長へ、石黒保直災害医療科長が自治医大へ、伊藤千絵医師が大学教室へ、震災支援の二宮理貴医師が関東へとそれぞれ転勤されました。変わって遠野千尋副院長が久慈から転勤し、やはり震災支援の今津正史災害医療科長が京都府立医大小児外科医局より赴任しました。院長を含め総勢5名の常勤で働いています。また、毎週火曜日の当直、および水曜日の外来と手術に教室から川岸涼子先生が診療応援に来てくださっています。そのほか、手術応援として若林教授をはじめ教室



若林教授による手術指導
(H24.7.24 術者：斎藤匠、スコープ：小原眞)



左から斎藤、遠野、遠藤、今津、小原 (H24.8.6 病院玄関で)

の先生方に手術をさせていただきました。おかげさまで手術件数は徐々に回復しております。震災前の2010年は554例（全身麻酔347例）でしたが、震災年の2011年は287例（160）となり、2012年は504例（313）でした。疾患の割合はほぼ同一ですが、特徴としては鏡視下手術がそれぞれ各年で73例（全麻の21%）、41例（26%）、103例（33%）と手術数全体に占める割合は増加しています。このように院内の仕事はほぼ通常の外科業務に戻っているといえます。また、院外での診療としては大槌病院への週2回の外来診療応援は継続しています。

来年度の常勤メンバー5人に変更はありませんが、採用予定の1年次研修医には外科志望が複数いると聞いています。来年度は彼らの外科医になる夢を壊さないような、さらにより外科チームを作っていくように、医師のみでなく、スタッフ一同で努力したいと思います。また、当然ながら、そのようなチーム作りをするためには診療応援、手術応援など教室の先生方のお力が不可欠です。ぜひ今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

岩手県立宮古病院

Iwate Prefectural Miyako Hospital

いつも大変お世話になっております。岩手県立宮古病院外科です。もうあの東北大震災津波からおよそ2年が経過しました。さすがに徐々に復旧してきている気はしますが、外来患者さんから仮設住宅の寒さなどを聞くにつれ、隣の田老地区や山田町、宮古の街もまだまだ復興には程遠いと感じます。人口の流失も止まらず、沿岸部の過疎は加速しているようです。

平成24年度の宮古病院は、ようやく地震被害に対する院内、院外の補修工事が実施され、壁がきれいになりました。昨年度はすっ飛んでしまった行事もつつがなく実施され、院内は落ち着きを取り戻しつつあると思います。相変わら



ず医師不足は深刻ですが、中央病院の後期研修医（救急外来担当）や、東海・北陸地区の2年次研修医（地域医療実習として）にかなり助けてもらいながら、院内ほぼ全科で

救急担当科（高齢者の担当科不明急患）などを分担して、燃え尽きる人が出ないように気をつけています。

宮古病院外科はというと、今年度は千厩病院から坂下伸夫先生に副院長として来ていただき、更に二戸病院から箱崎将規先生にも来ていただいたので、やや高齢化（平均年齢約45歳）は進みましたが常勤4人態勢（以前から勤務している石川徹、菅原俊道）で診療しております。診療応援は、強力な助っ人として火曜日は野田芳範先生、火曜夜から水曜日は遠藤史隆先生、木曜日は細井信之先生に来ていただき本当に助かっております。肝胆膵の手術応援で新

田先生に、腹腔鏡下手術で大塚先生や板橋先生にもよくお世話になっております。今後ともよろしくお願い申し上げます。年間手術件数も昨年度よりは増えました（当然ですが）。また、医師の高齢化のためか、皆、手術以外の雑用も増えて疲弊しております（これも仕方ないですが）。とりあえず毎日の仕事が無事終わるように粛々と日々助け合って暮らしております。

とりとめのない文章になってしまいましたが、今後とも医局、各関連病院からのご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

北上済生会病院

Kitakami Saiseikai Hospital

平成24年は当初斎藤院長をはじめとして、青木、入野田医師、菅原医師の4名体制でありましたが、3月で入野田医師が退職したため、以後3名体制で診療を行いました。

当院は常日頃より教室からの多大なる応援をいただいておりますが、同年は特に二つの大きなお力添えをいただきました。

ひとつは若林教授のご厚意により実現した催しで、「がんを早く見つけて治す-乳がん・胃がん・大腸がん・肝がん-」のタイトルで8月18日に北上市さくらホールにて開催されました北上医師会市民公開講座です。IBCの村松文化アナウンサーの司会進行のもと、若林教授をはじめとして、肥田講師、柏葉講師、大塚講師、新田講師ら蒼々たる顔ぶれで、がんの早期発見、早期治療に関して非常にわかりやすくご講演をいただき、北上市民にとって非常に有益な催しでありました。会場には260名の聴衆が集まり盛会でありました。公開講座の様子は北上ケーブルテレビでも録画、放映され、現在も放送をきっかけに当科を受診される患者様もあり、病院運営にも大きくご協力いただくかたちとなっております。

もう一点は5月より開始しております、水野准教授による第三水曜日午後からの小児外科外来です。北上中部地域のヘルニアをはじめとする小児外科疾患の診療、手術の応援をいただいております。近隣の開業医の先生方、患者様からも大変好評をいただいております。

この他、毎週月曜日の肥田医



局長による手術応援、若手医局員による当直応援など当院は常日頃より教室から多くのご協力をいただいております。手術件数は全麻94例、全症例数195例と前年よりは若干減少しましたが、前述の体制の変化を鑑みれば、症例数はなんとか維持できたのではないかと思います。ただし絶対数とすれば、他の関連施設と比較してもまだまだ少なく、症例確保への努力は益々必要と考えております。今後とも教室員の皆様と連携しつつ地域の皆様へ良い医療を提供できるようにスタッフ一同頑張っております。

（文責 青木毅一）



岩手県立大船渡病院

Iwate Prefectural Ofunato Hospital

岩手県立大船渡病院のある気仙地域は東日本大震災・津波後に人口が5,000人減少し、現在は65,000人となりましたが、飲食店や水産加工場の建設が始まり、ようやく復興の兆しが見えてきました。私は八島良幸前院長の後任として、平成24年4月から当院に赴任しました。当院では外科がスタッフの最も多い診療科であり、診療以外にも中心的役割をはたしています。スタッフは中野副院長を始めとして、上村、関根、三田村、三浦(東北大外科)、横沢(筑波)そして緩和医療科長の村上(同門)を含めた7名体制で診療にあたっています。

平成24年1月～12月の手術件数519件(前年615件)で、内緊急手術は104件、全身麻酔は417件(前年449件)と大幅に減少しました。当院の外科の特徴としては、血管外科医が2名おり、他施設に比べて血管の手術が多いことです。血管手術は34件で、腹部大動脈瘤手術や閉塞性動脈硬化症に対する血管内手術や下肢静脈瘤に対する治療も行っています。悪性腫瘍手術は乳がんや消化器がんを中心に148件でした。乳がんでは温存手術のほとんどが他施設へ依頼しています。鏡視下手術は食道がんが1例、胃がん0例、大腸がん5例であり、前年と比較しても増加していないので、さらなる努力が必要と思います。

外来では特殊外来として、月2回の乳腺外来および週1回の血管外来を行い、その他に認定看護師によるストマ外来、リンパ浮腫外来も行っています。また、外来化学療法は平成24年に約1,100件行っています。

当院は昨年9月から地域医療福祉連携室を強化した結



果、病院全体として他施設からの紹介が徐々に増えてきています。しかし、以前からの傾向ですが、住民の当科に対する信頼度が低いことや震災の影響などで家族が内陸に住んでいる場合も多いため、盛岡市などの施設で手術を希望される方が少なくないようです。今年は診療機能の高度化を図り、地域完結型医療の充実とがん診療の地域連携を構築したいと考えています。

手術件数

全身麻酔	417
腰椎・硬膜外麻酔	11
局所麻酔・その他	91
合計	519 (緊急104)

悪性腫瘍手術

甲状腺	2
乳腺	28 (全25、温2、他1)
食道	3 (内視鏡1)
胃	30 (全11、幽12、噴2、他5)
脾臓	6 (PD)
肝臓	4
結腸	38 (内視鏡4)
直腸	33 (内視鏡1)
その他	4
合計	148

岩手県立江刺病院

Iwate Prefectural Esashi Hospital

一年間の御無沙汰でした。皆様お変わりございませんでしょうか。

再びこの原稿を書くにあたりなんて1年が早いものかと痛感するのは私だけでしょうか？今年度の診療体制ですが、塩井先生が5月から盛岡市立病院へ転勤となり、再び私1人科長となってしまいました。その他は変わりなく毎週月曜日の肥田先生の外来診療、毎週水曜日（含当直）は医局から石田馨先生、手術応援としては美山病院（水沢）の菊池先生、北上済生会病院（今年度から）の青木先生、菅原先生にもお願いしており、さらに紫波診療所センターから松尾先生が月2回（火曜日）の外来診療応援をいただいております。遠いところお忙しい中、感謝に耐えません。ありがとうございます。当院は地域柄、二次救急医療から急性期、慢性期、緩和、介護、訪問診療 等、と幅広く携わらなければならない状況にあります。何とか細々とやっております。ここ数年、医療難民や介護難民が多いことに驚かされ、手術だけでは人は救えないということが身に染みて感じられる年齢になってきました（他の分野からの視点でみれば遅いといわれるかもしれませんが・・・）。治す医療から生活を支える医療の転換の必要性も感じます。それらのことを踏まえ、いくらかでも地域に密着し、福祉と連携した医療を提供して参りたいと思っていますところ。です。

さて、当院での今年の最大の出来事は病院機能評価の更新（7月）（無事更新終了）と病院の耐震工事（約9ヶ月間）でした。昨年2月から耐震工事の準備が始まり、それに伴い一時的な病室の削減を強いられ、医局、副院長室は大会議室へ移動しなければならなくなりました。今までろくに整理整頓していなかった自分の部屋を一気に空にしなければならなくなったのです。日々の診療の中でどのように手をつけていいものか、もの凄く憂鬱になりました。医学書、昔の学会のスライド、本、雑誌、薬のカatalog、様々な資料、CD、等々挙げればきりがありません。中には10年以上前の医学書もあり、懐かしい物も沢山出てきました。よくこんなに溜め込んだものだといながら呆れてしまいましたが、年齢を重ねていくうちに物が増えていくのは皆同じでありましょう。日々定期的に整理していれば今回このような苦痛を伴うことはなかったのですが、つつい日常の忙しさ等でその気持ちも忘れ去られてしまいました。さらには“いつか何かに使うことがあるだろう、何かに使うはずだ”という気持ちからどんどん“ガラクタ”が増えてし



まうのです。面白いことに、自分にとって大切なものであっても他からすれば所詮“ガラクタ”なのです（笑）。時々整理に関する本を買いあさり、その場では納得するものなかなか全て実行できるまでには至らないでいました。週単位、月単位、年単位で見ない・用いないものは今後も表舞台にでないものであり、処分すべきである・・・と書かれていますが確かにそのとおりなのです。今はスライド等パワーポイントで電子化できて管理しやすい（電子化しても容量が増えるだけかもしれませんが・・・）が、昔用いたスライドは一気に破棄しました。取っただけでも自己満足の世界ですので。数年前ある寺院に立ち寄った時のことです。“欲が深けりゃ重みで沈む 三途の川の渡し舟”このような看板が立ててありました。奥深い文言でした。この世には様々な「欲」で満ちていますが、その中の「物欲」にしても、いくら良い物を持っていたとしてもあの世へは持っていけないのです。他の欲も考え合わせれば心を平穏にした生き方も大切なのでしょう。ということで今回の工事に伴う引っ越しでかなり処分しました。電子化できるものは電子化（見るかどうか分かりませんが、..、（笑））にしたり、なるべく部屋のスペースを確保できるようにしました。そうしたら不思議なことに気持ちがすっきりしたのです。乱雑な部屋にいと運気が下がるというのはこのことをいうのでしょうか・・・。

今回耐震工事というきっかけで整理整頓をさせていただきました。きっかけが無ければなかなか実行に移すのは簡単なものではなかったでしょう。耐震工事、様々でした。今回を機に物を増やさない、溜め込まない生活を維持したいものです。皆様の“整理整頓”はいかがなものでしょうか？

*写真は6月の全日本マスターズレガッタ（戸田ボート場；オリンピックコースにて）に参加したものです。全国から総勢1,000人程の選手、及び関係者が集まりました。

（奥州市医師会月報平成24年10月582号から一部引用）

岩手県立千厩病院

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

平成24年度の千厩病院外科メンバーは吉田徹（S59卒）佐藤一（H2卒）米澤仁志（H7卒）藤井大和（H14卒）の4人でした。非常勤医として木村祐輔先生、真壁健二先生、松井雄介先生に、外来および当直のお手伝い頂きながらやっております。今年度は外科スタッフが入れ替わりがあり、年度当初は、院長吉田と副院長佐藤の転勤してきたばかりの管理職二人で外来・病棟・手術・当直を切り盛りするという体制でスタートする事となり大変でしたが、医局の先生方の多大なサポートを頂き、なんとか乗り切る事ができました。また10月からは米澤先生が外科のスタッフに加わって下さり、少し落ち着いて外科診療に当たれるようになっております。手術症例数は、年度前半は前年度より30%ほど落ち込みましたが、後半は前年と同様のペースに持ち直しております。当院の医療圏は、高齢化率が30%を超えた地域であり、高齢で多くの疾患を合併した症例の手術が多く術後管理に難渋する事もたびたびあります。

今後も高齢化は更にすすむ地域ですので高齢者医療を安全かつ効率的に行っていく事が課題と思われまふ。医局の若い先生が当院のスタッフとして共に仕事ができない事が残念ですが、当直応援で多大な貢献を頂いており、当直明けの翌日に可能な時には手洗いして頂いております。手術手技や外科知識も時代の流れに遅



常勤4人の写真（前列左から佐藤、吉田、後列左から米澤、藤井：平成25年3月現在の外科メンバー）

れないように、院内で抄読会を開催して最新論文のチェックに努めております。また大腸癌症例中心に内視鏡手術の比率を高める努力をしており、大塚先生を始めとした医局の先生方のご指導をいただき大変感謝しております。木村祐輔先生には外来診療に加えて緩和ケアの勉強会でも多大なお世話を頂きました。今後、東磐井地区は高齢化が更に進み、また医局関連病院としての位置付けも再検討していかななくてはならない状況になると思いますが、現在のスタッフとともに、時流に遅れをとらない外科の運営に努力をしつつ、当地域の地域医療を死守していきたいと思っています。



木村祐輔先生の緩和勉強会



勉強会後の懇親会風景

八戸赤十字病院

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

平成24年度、当院外科スタッフは、佐瀬正博、玉沢佳之、藤沢健太郎、御供真吾、加藤久仁之の5人体制で診療して参りました。さらに毎週水曜日に種市病院から荒谷宗充先生、木曜日に名川町開業の川守田究先生による手術応援、月に一度の柏葉先生の乳腺外来診療をいただいて頑張っております。

平成25年4月からは、加藤先生が移動し吉田雅一先生を迎える予定です。

幸いにも御供先生は移動無く来年度も当院スタッフとし



て残っていただける事になっています。

医局では同門会二世Doctorが増えてきていると聞いて

おりましたが、気がついてみると、当科でも藤澤、御供、加藤、吉田と皆二世Doctorという事になっていました。ますます医局、同門会に信頼される関連病院になれよう頑張っております。

当科週間スケジュールとしては下記を行いより良い診療に勤めております。

月曜日朝 入院患者の経過サマリー報告

火曜日夕 内科との手術症例の紹介と手術の所見、経過のカンファランス

水曜日朝 死亡症例報告

金曜日朝 外来患者の診療経過、治療方針、術後症例の病理結果等の検討

平成24年の全手術件数は23年とほぼ同数の527例でした。胃癌、乳癌の切除数が若干減少したものの、大腸癌では切除88例と増加しており、腹腔鏡下大腸手術も藤澤先生のもと順調に件数を増やしております。全腹腔鏡下手術件数は142例と若干増加しております。

今年度は大学外科入局志望の一年次研修医が当院での研修を開始する予定です。三年目に恥ずかしくないよう卒業させてあげられるようにと考えている所です。

山本組合総合病院

Yamamoto Associated General Hospital

2012年度の当院の外科スタッフは大山健一、飯島 信、武田雄一郎の3名体制で診療を行いました。

今年度は、手術件数の増加と腹腔鏡下手術率の増加を目標として掲げておりました。しかし、手術件数は残念ながら昨年を上回ることができず、1割弱の減少となりました。近年力を入れてきた開業医の先生方との連携の結果は着実に上がっており、紹介症例は増えているものの、乳腺、甲状腺、ヘルニアの症例の減少が響き総数としては減少してしまいました。件数としては減少した一方で腹腔鏡下手術は増加し、全麻件数305例のうち腹腔鏡下手術が165例で54.1%を占めました。5年前の2008年度と比較して手術率が2倍、件数で3倍となりました。これは教室の先生方に遠方まで出向いていただきご指導いただいた賜物と考えております。今後もご助力を賜りながら更なる向上を目指したいと考えておりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

秋田県は岩手県と比較して腹腔鏡下手術の普及が遅れており、ヘルニアのTAPP手術やSILS手術はほとんど行われていません。また佐々木章先生にお越しいただくSILS脾臓摘出、新田浩幸先生にお越しいただく腹腔鏡下肝切除はもちろん秋田市内の病院では受けることができません。このような先端の医療が提供できることを対外的にもアピールはしているのですが、残念ながら当院医療圏外からの紹介はまだありません。劣らぬ医療を提供しているにもかかわらず、



ならず、秋田市内を希望する中央志向の患者が多く歯がゆい思いをしております。今後はもっとアピールをして秋田市内から患者を呼び込めるようにしたいと考えております。

病院全体としても経営、連携、コストなど様々な面のアプローチから、最適な医療で、働きやすい環境で、患者に親しまれる病院を目指したプロジェクトを立ち上げ、旧態依然とした当院が大きく変わりつつあります。その結果今年度は予想を上回る黒字病院へと変換を遂げ、まさに「変えれば変わる」を実感した一年でした。また今年度は岩手医大から2名の研修医が来ており、来年度は更に3名の初期研修医を迎えます。病院の取り組みが結果となって表れたものと考えております。賑やかになる反面、診療だけでなく教育の面にも力を入れなければなりません、これを負担と感じるのではなくモチベーションを高める糧として皆で力を合わせて頑張りたいと思います。

函館五稜郭病院

Hakodate Goryoukaku Hospital

特別史跡「五稜郭」から南にわずか200mほどに函館五稜郭病院は位置します。今から144年前に、本来諸外国に対する要害として築造された「五稜郭」で戊辰戦争の最終局面である箱館戦争が繰り広げられました。今、病院の建つこの地で戦があったかと思うと不思議な気もしますが、当時は甲鉄艦からの砲撃が着弾する中、日本の将来のため、あるいは己の信念のために若い兵士が銃砲、刀槍を手を奔走していたはずで。主役の一人であった土方歳三の写真が、(新撰組つながりでは当時の近藤勇の写真なども) ひどく若く見えるのは私が歳をとったからでしょうか。

平成24年度の当院の診療体制は、高金診療部長、小林慎科長、早川主任医長、小川主任医長、船渡主任医長、中嶋主任医長、板橋医長、武田大樹先生の8名に、後期研修医として弘大出身小渡亮介先生が1年間にわたり活躍してくれました。プラス前期研修医という布陣です。函館市における基幹的な臨床研修指定病院としては、「函館五稜郭病院 病床580床」「函館中央病院 527床」「市立函館病院 734床」が挙げられます。救命救急センターを持つ市立函館病院が研修医獲得には有利な図式がありますが、昨年度、当院には1年次：基幹型1名（岩手医大出身安藤太郎先生）＋協力型3名の計4名、2年次：基幹型4名、合計8名が採用され、5名が各数ヶ月ずつの外科研修を積んでくれました（貴重な戦力として！）。大学病院での研修がスマートであることは勿論ですが、地方都市の一線病院での研修もとても有意義とのこと。彼らが母校の後輩らに当院での外科研修を熱心に薦めてくれていると聞き大変嬉しく思っております。

平成24年度の年間手術総数は1262例でした。若林剛教授はじめ医局の諸先生には年間複数回手術指導に、水野大准



教授には定期的に小児外科手術指導に来院いただいております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。内訳は全麻1,056例、食道癌切除17例、乳癌切除125例、胃・十二指腸癌切除125例（鏡視下26例）、大腸癌切除178例（鏡視下138例）、肝胆膵悪性50例、胆摘171例（鏡視下162例）、ヘルニア179例、虫垂炎71例、緊急手術96例、その他と非常に忙しい毎日です。ちなみに前出研修医小渡先生の術者経験は、ラバ胆56件（TANKO7件）、虫垂炎19件（TANKO13件）、ヘルニア17件、に加えLAC、胃切その他と上級医指導のもと大変充実していたと思います。学術活動も例年通り積極的に取り組み、学会発表18件（国外1件）、雑誌掲載5編（国外1編）でした。臨床試験参加は年々増加し、平成24年度は胃22件、大腸16件、乳腺7件に参加中です。以上のように道南では屈指のactiveな外科であります。

前述の「五稜郭」は、春にはそれは見事な桜の公園となりますし、1周1.8kmの絶好のジョギングコースです。昔、この地で志高く時代を疾走した先人がいました。我々もこの地で外科医として志高く研鑽を積んで行きたいと思っております。ともに切磋琢磨するactiveな外科医募集中です。盛岡から函館までは「はやて」「はやぶさ」を使えば3時間半になりました。



かづの厚生病院

Kazuno Kosei Hospital

皆様、ご無沙汰しております。かづの厚生病院外科です。

当院は秋田県の県北に位置し、医療圏は鹿角市、小坂町、岩手県八幡平市の一部となっています。秋田市からは車で急いでも2時間以上かかる僻地ですが、盛岡からは東北自動車道経由で1時間ちょっとの距離です。病院もインターから10分ほどですが、今年のように雪が多く、風の強い年は高速道が通行止めになってしまい「陸の孤島化」状態となります・・・。

病院は新築・移転して3年が経過しました。標榜科は15科ですが、常勤医15名・研修医0名・循環器内科を筆頭に非常勤科が6科という状況です。

外科スタッフは、昨年春から3名体制から2名になり、常勤医は阿部薫、米沢仁志（4月～9月）、稲葉亨（10月～3月）です。また、大学医局からは手厚い応援態勢を敷いていたが、毎週月曜日と木曜日は午後の手術応援とこれに続く当直を。毎週火曜日は片桐先生に手術応援を。毎週金曜日に高橋（兄）先生の外来診察応援をして頂いています。マンパワー不足は否めないものの、最新・最適の治療を提供できるよう、日々精進しています。

当科の手術件数は前年と比較し全体数が減少しており、全麻件数で20件の減少でした。全麻手術における癌の手術の割合は59%でした。結腸・直腸癌手術件数は59件と、前年より10件以上増加しており、腹腔鏡手術の比率は30%でした。大腸癌症例は増加していましたが、高齢者や合併症を有する患者さんが多いため、腹腔鏡手術が伸び悩んでい



ます。このほか胃癌手術は8件減少した23件でした。消化器内科でのESD増加による影響が考えられます。手術件数減少が顕著だったのは乳癌でした。前年より16件も減少していました。しかしながら（不思議なのですが）、稲葉先生が赴任して以来、乳癌手術が増加しており今年はずに例年と同数の手術をしています。稲葉先生は確実に持っています。

手術件数減少の最大の原因は、外来・入院患者数の減少です。秋田県厚生連ではどこの病院でも患者数が減少していました。人口が減っているのは確かですが、それだけが原因とは・・・。これ以上は立場上、言えません。

当院は大学から遠いという距離的な問題はありますが、診療・手術経験を得られる環境は十分に整っていると考えています。大学医局よりの御支援には大変感謝申し上げます。今後とも更なる御支援・御鞭撻をお願いいたします。

外科紹介医療機関

2012年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
青森労災病院	須 田 俊 宏	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地
赤坂病院	赤 坂 俊 幸	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町29-2
秋田大学医学部附属病院	伊 藤 宏	010-8543	秋田県	秋田市	広面字蓮沼44-2
あさくらクリニック	朝 倉 慎 一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
新里医院	新 里 滋	028-0516	岩手県	遠野市	穀町13-1
白井循環器呼吸器内科	白 井 康 雄	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-2-6
飯島医院	飯 島 仁	020-0172	岩手県	岩手郡滝沢村	鶉飼字狐洞1-277
石井内科消化器科医院	石 井 基 弘	020-0112	岩手県	盛岡市	東緑が丘23-26
池田外科・消化器内科医院	池 田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
猪股医院	猪 股 正 秋	015-0874	秋田県	由利本庄市	給人町6-2
猪苗代病院	猪苗代 盛 貞	988-0017	宮城県	気仙沼市	南町1丁目3-7
岩手医大花巻温泉病院	猪 又 義 男	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1
岩手県立遠野病院	貴田岡 博 史	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立釜石病院	遠 藤 秀 彦	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立久慈病院	阿 部 正	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番
岩手県立宮古病院	佐 藤 元 昭	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶇ヶ崎1-11-26
岩手県立軽米病院	横 島 孝 雄	028-6302	岩手県	九戸郡軽米町	軽米2-54-5
岩手県立江刺病院	小 岡 文 志	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23
岩手県立沼宮内地域診療センター	武 内 健 一	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第10地割4番地7
岩手県立千厩病院	吉 田 徹	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立大船渡病院	伊 藤 達 朗	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立大槌病院	岩 田 千 尋	028-1111	岩手県	上閉伊郡大槌町	大槌第13地割字八幡前129-11
岩手県立胆沢病院	松 本 登	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立中央病院	望 月 泉	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立中部病院	北 村 道 彦	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立二戸病院	鈴 木 彰	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立磐井病院	加 藤 博 孝	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
内丸病院	日 下 純 男	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
大日向医院	大日向 充	020-0114	岩手県	盛岡市	高松2-9-9
大曲母子医院	佐 藤 寅 男	014-0014	秋田県	大仙市	大曲福住町8番18号
岡田消化器科内科医院	岡 田 健 男	020-0875	岩手県	盛岡市	清水町3-5
おおたにクリニック	大 谷 邦 彦	720-0067	広島県	福山市	西町1-7-24
おかだ外科内科クリニック	岡 田 伸 之	027-0025	岩手県	宮古市	実田2-5-10
雄勝中央病院（厚生連）	中 村 正 明	012-0827	秋田県	湯沢市	山田字勇ヶ岡25

あ

か

さ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
おぼら内科・消化器科クリニック	小 原 啓 彦	025-0077	岩手県	花巻市	仲町5-8
小野外科医院	小 野 勢津男	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘3-32-6
小保内医院	小保内 寿 人	020-0827	岩手県	盛岡市	鉾屋町5-21
おぼない内科クリニック	生 内 久 人	028-3615	岩手県	紫波郡矢巾町	大字南矢幅第8地割235
かづの厚生病院	松 谷 富美夫	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
加藤胃腸科内科医院	加 藤 博 巳	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺中田207
金子胃腸科内科	金 子 博 純	020-0403	岩手県	盛岡市	乙部13-135-3
釜石ファミリークリニック	寺 田 尚 弘	026-0025	岩手県	釜石市	大渡町3丁目15番26号
鎌田内科クリニック	鎌 田 広 基	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮2-20-1
川久保病院	尾 形 文 智	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
川村内科医院	川 村 光 郎	020-0883	岩手県	盛岡市	志家町44
菊池俊彦内科クリニック	菊 池 俊 彦	028-0522	岩手県	遠野市	新穀町5-19
北上済生会病院	嶋 村 正	024-8506	岩手県	北上市	花園町1-6-8
工藤内科医院	工 藤 博 司	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-7-13
黒川産婦人科医院	黒 川 賀 重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-51
栗原クリニック	栗 原 英 夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
後藤泌尿器科皮膚科医院	後 藤 康 文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
国保西根病院	三 浦 義 明	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭22-79-1
国保沢内病院	石 川 清	029-5614	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字太田2-68
国立病院機構盛岡病院	菊 池 喜 博	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
孝仁病院	白 木 豊	020-2252	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
児島内科小児科医院	児 島 陽 一	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ3-11-36
菜園皮膚科クリニック	小野寺 英 恵	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目12-18-1F
三愛病院	山 内 文 俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15
櫻井医院	櫻 井 末 男	029-2501	岩手県	気仙郡住田町	上有住字八日町177
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
佐藤雅夫クリニック	佐 藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田47
佐藤内科クリニック	佐 藤 公 也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-1-24 第3菱和ビル4F
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
市立角館総合病院	西 野 克 寛	014-0394	秋田県	仙北市	角館町上野18
市立田沢湖病院	佐々木 英 人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋 正 和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20
小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋 正 博	024-0094	岩手県	北上市	本通り4丁目13-6
紫波地域診療センター	小 野 満	028-3307	岩手県	紫波郡紫波町	桜町字三本木32
白沢整形外科医院	白 澤 榮 嗣	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘3-40-28

さ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
しんたろうクリニック	菊 池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
すがさわ外科・内科クリニック	菅 澤 治 彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1
鈴木こう門科クリニック	鈴 木 俊 輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
鈴木内科医院	鈴 木 知 己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17
せいてつ記念病院	鈴 木 啓 之	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7
総合花巻病院	後 藤 勝 也	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28
総合水沢病院	半 井 潔	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
高橋内科胃腸科クリニック	高 橋 真	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字巣子1186-14
たぐち脳神経外科クリニック	田 口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19
たにむらクリニック	谷 村 清 明	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小板小瀬13-2
千葉外科医院	千 葉 淳	020-0132	岩手県	盛岡市	西青山2-2-27
照井消化器科内科医院	照 井 孝 臣	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-8-9
栃内第二病院	栃 内 秀 彦	020-0151	岩手県	岩手郡滝沢村	大釜字吉水103-1
栃内病院	白 石 秀 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
鳥取生協病院	齋 藤 基	680-0833	鳥取県	鳥取市	末広温泉町458
都南病院	橋 本 光 彦	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前6-40-1
とみつか脳神経外科クリニック	富 塚 信 彦	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町1-41
内科 板倉医院	板 倉 康太郎	023-0831	岩手県	奥州市	水沢区姉妹町字林前190
内科クリニックすずき	鈴 木 康 之	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園2-15-4
成田内科胃腸科医院	成 田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
中の橋斉藤クリニック	斉 藤 文 子	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-4-20 水晶堂ビル4F
中津川病院	松 嶋 大	020-0003	岩手県	盛岡市	下米内2-4-12
二井耳鼻咽喉科医院	二 井 一 成	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野4丁目16-12
二戸クリニック	青 木 光	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字森合32-1
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
西松園内科医院	斉 藤 恵 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-1
はたふく医院	簀 福 公 正	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰石田3-2
八戸市立市民病院	三 浦 一 章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1
八戸赤十字病院	瀬 尾 喜久雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
花巻市石鳥谷医療センター	多 田 泰 裕	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2
東八幡平病院	及 川 忠 人	028-7303	岩手県	八幡平市	柏台2-8-2
ひらた外科内科クリニック	平 田 善 久	023-1131	岩手県	奥州市	江刺区愛宕字観音堂沖401-6
ひろし外科肛門科	吉 田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号
平館クリニック	土 谷 正 彦	028-7405	岩手県	八幡平市	平館第11地割-10-10
福島県立医科大学附属病院	棟 方 充	960-1295	福島県	福島市	光が丘1番地

た

な

は

は

ま

や

ら

わ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
藤島内科医院	藤 島 國 男	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町4-18
ふじまる内科医院	藤 丸 潔	026-0301	岩手県	釜石市	鵜住居町第5地割29-10
船山内科クリニック	佐 藤 由香子	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町4-15
ふるだて加藤肛門科・外科クリニック	加 藤 典 博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1
プレスト齊藤外科クリニック	齊 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6
本田胃腸科内科外科	本 田 健 一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号
松園第一病院	河 嶋 寛	020-0108	岩手県	盛岡市	東黒石野3-2-1
三重大学医学部附属病院	竹 田 寛	514-8507	三重県	津市	江戸橋2丁目174
三沢市立三沢病院	坂 田 優	033-0001	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-65
緑ヶ丘消化器内科医院	鈴 木 昇	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘3丁目2-34
森整形外科	森 茂 雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第25地割117-2
もりおかこども病院	米 沢 俊 一	020-0102	岩手県	盛岡市	上田松屋敷11-14
もりおか胃腸科内科クリニック	佐 藤 邦 夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2
もりおか静眠堂医院	櫻 井 伴 子	020-0034	岩手県	盛岡市	駅前通9-5
八角医院	八 角 有 紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2
八角病院	遠 藤 憲 幸	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190
やまだ胃腸内科クリニック	山 田 宏 之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
山本組合総合病院	近 田 龍一郎	016-0014	秋田県	能代市	落合字上前田地内
ゆとりが丘クリニック	高 橋 邦 尚	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字土沢541
ヨシザワ病院	芳 沢 正 幸	023-0881	岩手県	奥州市	水沢区北田14-1
吉田整形外科・リウマチ科クリニック	吉 田 昌 明	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目9番28号 岩井ビル2階
吉野医院	吉 野 仁 浩	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸1-6-20
六角牛病院	林 重 仁	028-0503	岩手県	遠野市	青笹町中沢5-5-1
わたなべおしりのクリニック	渡 邊 正 敏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3

1. 学術論文

1-1 英文論文

1. Ando N, Kato H, Igaki H, Shinoda M, Ozawa S, Shimizu H, Nakamura T, Yabusaki H, Aoyama N, Kurita A, Ikeda K, Kanda T, Tsujinaka T, Nakamura K, Fukuda H : A randomized trial comparing postoperative adjuvant chemotherapy with cisplatin and 5-fluorouracil versus preoperative chemotherapy for localized advanced squamous cell carcinoma of the thoracic esophagus (JCOG9907). **Ann Surg Oncol**, 2012 ; 19(1) : 68-74.
2. Beppu T, Sakamoto Y, Hasegawa K, Honda G, Tanaka K, Kotera Y, Nitta H, Yoshidome H, Hatano E, Ueno M, Takamura H, Baba H, Kosuge T, Kokudo N, Takahashi K, Endo I, Wakabayashi G, Miyazaki M, Uemoto S, Ohta T, Kikuchi K, Yamaue H, Yamamoto M, Takada T : A nomogram predicting disease-free survival in patients with colorectal liver metastases treated with hepatic resection: multicenter data collection as a Project Study for Hepatic Surgery of the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. **J Hepatobiliary Pancreat Sci**, 2012 ; 19(1) : 72-84.
3. Shibazaki M, Maesawa C, Akasaka K, Kasai S, Yasuhira S, Kanno K, Nakayama I, Sugiyama T, Wakabayashi G, Masuda T, Mori N : Transcriptional and post-transcriptional regulation of β III-tubulin protein expression in relation with cell cycle-dependent regulation of tumor cells. **Int J Oncol**, 2012 ; 40(3) : 695-702.
4. Kasama K, Mui WLee WJ, Lakdawala M, Naitoh T, Seki Y, Sasaki A, Wakabayashi G, Sasaki I, Kawamura I, Kow L, Frydenberg H, Chen A, Narwaria M, Chowbey P : IFSO-APC consensus statements 2011. **Obes Surg**, 2012 ; 22(5) : 677-684.
5. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Itou NTakahashi M, Nishizuka S, Wakabayashi G : A phase I study for adjuvant chemotherapy of gemcitabine plus S-1 in curatively resected patients with biliary tract cancer: adjusting the dose of adjuvant chemotherapy according to the surgical procedures. **Cancer Chemother Pharmacol**, 2012 ; 69(5) : 1127-1133.
6. Mizuno M, Kobayashi M, Sasaki A, Nakajima J, Wakabayashi G : Early experience with single-incision laparoscopic Nissen fundoplication for gastroesophageal reflux disease in patients with mental retardation via a gastrostomy site incision: report of five cases. **Surg Today**, 2012 ; 42(6) : 601-604.
7. Shinoda M, Tanabe M, Kawachi S, Ono Y, Hayakawa T, Iketani O, Kojima M, Itano O, Obara H, Kitago M, Hibi T, Matsubara K, Shimojima N, Fuchimoto Y, Hoshino K, Wakabayashi G, Shimazu M, Tanigawara Y, Kuroda T, Morikawa Y, Kitajima M, Kitagawa Y : Pharmacokinetics of mizoribine in adult living donor liver transplantation. **Transplant Proc**, 2012 ; 44(5) : 1329-1335.
8. Sasaki A, Baba S, Obuchi T, Umemura A, Mizuno M, Wakabayashi G : Single-port laparoscopic adrenalectomy for right-sided aldosterone-producing adenoma: a case report. **Journal of Medical Case Reports**, 2012 ; 6(1) : 208.
9. Endo H, Saito T, Kenjo A, Hoshino M, Terashima M, Sato T, Anazawa T, Kimura T, Tsuchiya T, Irisawa A, Ohira H, Hikichi T, Takagi T, Gotoh M : Phase I trial of preoperative intratumoral injection of immature dendritic cells and OK-432 for resectable pancreatic cancer patients. **J Hepatobiliary Pancreat Sci**, 2012 ; 19(4) : 465-475.
10. Ishida K, Nishizuka SS, Chiba T, Ikeda M, Kume K, Endo F, Katagiri H, Matsuo T, Noda H, Iwaya T, Yamada N, Fujiwara H, Takahashi M, Itabashi T, Uesugi N, Maesawa C, Tamura G, Sugai T, Otsuka K, Koeda K, Wakabayashi G : Molecular Marker Identification for Relapse Prediction in 5-FU-Based Adjuvant Chemotherapy in Gastric and Colorectal Cancers. **PLoS ONE**, 2012 ; 7(8) : e43236.
11. Kanno K, Kanno S, Nitta H, Uesugi N, Sugai T, Masuda T, Wakabayashi G, Maesawa C : Overexpression of histone deacetylase 6 contributes to accelerated migration and invasion activity of hepatocellular carcinoma cells. **Oncol Rep**, 2012 ; 28(3) : 867-873.
12. Arisue A, Shimojima N, Tomiya M, Shimizu T, Harada D, Nakayama M, Tomita H, Shinoda M, Tanabe M, Maruyama I, Mizuno M, Kuroda T, Wakabayashi G, Morikawa Y : Effect of an omega-3 lipid emulsion in reducing oxidative stress in a rat model of intestinal ischemia-reperfusion injury. **Pediatr Surg Int**, 2012 ; 28(9) : 913-918.
13. Katagiri H, Sasaki A, Nitta H, Takahara T, Nishizuka S, Wakabayashi G : Totally laparoscopic stapled distal pancreatectomy. **Surgery Today**, 2012 ; 42(10) : 940-944.
14. Sasaki A, Ogawa M, Tono C, Obara S, Hosoi N, Wakabayashi G : Single-port versus multi-port laparoscopic cholecystectomy: A prospective randomized clinical trial. **Surg Laparosc Endosc Percutan Tech**, 2012 ; 22(5) : 396-399.
15. Nitta H, Sasaki A, Otsuka Y, Tsuchiya M, Kaneko H, Wakabayashi G : Impact of hybrid techniques on laparoscopic major hepatectomies. **J Hepatobiliary Pancreat Sci**, 2012 ; 20 : 111-113.
16. Iwaya T, Yokobori T, Nishida N, Kogo R, Sudo T, Tanaka F, Shibata K, Sawada G, Takahashi Y, Ishibashi M, Wakabayashi G, Mori M, Mimori K : Downregulation of miR-144 is associated with colorectal cancer progression via activation of mTOR signaling pathway. **Carcinogenesis**, 2012 ; 33(12) : 2391-2397.

17. Takesue Y, Watanabe A, Hanaki H, Kusachi S, Matsumoto T, Iwamoto A, Totsuka K, Sunakawa K, Yagisawa M, Sato J, Oguri T, Nakanishi K, Sumiyama Y, Kitagawa Y, Wakabayashi G, Koyama I, Yanaga K, Konishi T, Fukushima R, Seki S, Imai SSHintani T, Tsukada H, Tsukada K, Omura K, Mikamo H, Takeyama H, Kusunoki M, Kubo S, Shimizu J, Hirai T, Ohge H, Kadowaki A, Okamoto K, Yanagihara K : Nationwide surveillance of antimicrobial susceptibility patterns of pathogens isolated from surgical site infections (SSI) in Japan., **J Infect Chemother**, 2012 ; 18 : 816-826.
18. Takahashi M, Nishida S, Panthaki ZJ, Fan J, Romano A, Tekin A, Island ER, Moon JI, Levi DM, Tzakis AG : Use of the bilateral anterior rectus fascia turnover method and the components separation method for a difficult abdominal closure after transplantation. **Liver Transpl**, 2012 ; 18(9) : 1121-1123.
19. Kobayashi M, Mizuno M, Hasegawa Y, Nitta K, Wakabayashi G : Major liver resection by a hanging maneuver for an infant with hepatoblastoma. **American Journal of Case Reports**, 2012 ; 13 : 140-142.

1-2 和文論文

1. 御供 真吾, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 高橋 正統, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛 : S-1/CDDP が奏効した多発骨転移・遠隔リンパ節転移を伴った進行胃癌の 1 例. **癌と化学療法**, 2012 ; 39(1) : 115-118.
2. 若林 剛 : 腹腔鏡下右肝切除の工夫とそのコツ. **日本外科学会雑誌**, 2012 ; 113(1) : 41-43.
3. 大塚 幸喜, 佐々木 章, 板橋 哲也, 加藤 久仁之, 木村 聡元, 箱崎 将規, 若林 剛 : 直腸脱に対する腹腔鏡下手術. **消化器外科**, 2012 ; 35(1) : 91-100.
4. 若林 剛 : 特集 肝・胆・膵がんの治療 ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術 - 肝がん領域における「低侵襲かつ根治的治療」. **ライフライン 21 がんの先進医療**, 2012 ; 4 : 14-17.
5. 米井 嘉一, 若林 剛 : アンチエイジング医療 消化器領域を中心に. **消化器の臨床**, 2012 ; 15(1) : 5-12.
6. 高原 武志, 新田 浩幸, 武田 大樹, 若林 剛 : C 型肝炎の肝移植. **炎症と免疫 3 月号**, 2012 ; 20(2) : 88-94.
7. 高原 武志, 新田 浩幸, 武田 大樹, 若林 剛 : 免疫抑制薬の臨床応用実践論 (第 37 回) C 型肝炎の肝移植. **炎症と免疫**, 2012 ; 20(2) : 196-202.
8. 岩谷 岳, 三森 功士, 若林 剛 : 癌遺伝子の変異に関する最近の話題. **日本外科学会雑誌**, 2012 ; 113(2) : 185-190.
9. 梅邑 晃, 北村 道彦, 渋谷 俊介, 梅邑 明子, 郷右近 祐司, 若林 剛 : Y 字型胃管を用いた食道バイパス手術症例の検討. **臨床外科**, 2012 ; 67(3) : 409-413.
10. 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 箱崎 将規, 梅邑 晃, 若林 剛 : 結腸間膜穿通をきたした S 状結腸癌の 1 例. **臨床外科**, 2012 ; 67(3) : 436-439.
11. 若林 剛 : 【外科治療:さらなる進化に向けて】腹腔鏡下肝切除術 肝癌に対する根治的低侵襲治療. **癌の臨床**, 2012 ; 57(5) : 231-236.
12. 長谷川 康, 若林 剛 : 肝疾患 肝内胆管癌. **消化器外科学レビュー**, 2012 ; 2012 : 80-84.
13. 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 秋山 有史, 吉田 雅一, 若林 剛 : メシル酸イマチニブ投与後に肛門温存手術を施行した直腸 GIST の 1 例. **日本大腸肛門病学会雑誌**, 2012 ; 65(4) : 239-244.
14. 佐々木 章 : 最先端の内視鏡外科手術:単孔式腹腔鏡下手術. **岩手医科大学報**, 2012 ; 2012(3) : 12.
15. 鴻巣 正史, 細井 信之, 藤原 久貴, 玉澤 佳之, 佐瀬 正博 : 虫垂炎に対して保存的治療後に腹腔鏡下虫垂切除を施行した完全内臓逆位症例. **日本内視鏡外科学会雑誌**, 2012 ; 17(2) : 227-231.
16. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 加藤 久仁之, 木村 聡元, 吉田 雅一, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 佐々木 章, 若林 剛 : 腹腔鏡下大腸癌手術におけるエネルギーデバイスの使い方とコツ. **消化器外科**, 2012 ; 35(4) : 437-447.
17. 高橋 正浩, 若林 剛 : 腹腔鏡下肝切除術. **消化器外科 臨時増刊号**, 2012 ; 35(5) : 702-704.
18. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛 : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術を施行した食道 gastrointestinal stromal tumor の 1 例. **岩手医学雑誌**, 2012 ; 64(1) : 51-56.
19. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 箱崎 将規, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 若林 剛 : 食道癌術後乳糜胸に対してリビオドールを用いたリンパ管造影が奏功した 1 例. **岩手医学雑誌**, 2012 ; 64(1) : 63-69.
20. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 佐々木 章, 若林 剛 : 腹腔鏡下肝切除における肝実質切離の基本手技. **手術 臨時増刊**, 2012 ; 66(6) : 747-751.
21. 若林 剛 : 肝癌の先進的治療. **成人病と生活習慣病**, 2012 ; 42(5) : 564-567.
22. 大山 健一, 飯島 信, 武田 雄一郎, 小松 正代, 新田 浩幸, 若林 剛 : 初回手術後 24 年経過して肝切除を施行した顎下腺原発腺様嚢胞癌肝転移の 1 例. **臨床外科**, 2012 ; 67(6) : 829-832.
23. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 加藤 久仁之, 木村 聡元, 佐々木 章, 若林 剛 : 進行下行結腸癌に対する腹腔鏡下結腸左半切除-脾結腸曲授動のコツ. **手術**, 2012 ; 66(7) : 1001-1006.
24. 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 秋山 有史, 石田 馨, 眞壁 健二, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 井谷 史嗣, 若林 剛 : 腹壁癒着ヘルニア. **外科**, 2012 ; 74(6) : 643-647.
25. 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 吉田 雅一, 八重樫 瑞典, 若林 剛 : 術前 FOLFOX6 + Cetuximab 療法が著効し根治手術を施行しえた直腸癌同時性多発肝転移の 1 例. **日本大腸肛門病学会雑誌**, 2012 ; 65(7) : 382-387.

26. 梅邑 晃, 北村 道彦, 渋谷 俊介, 梅邑 明子, 佐々木 章, 若林 剛: 頸部食道癌に対する根治的放射線化学療法後の癒痕狭窄に Y 字型胃管による下咽頭胃管バイパス術を施行した 1 例, **手術**, 2012; 66(9): 1285-1289.
27. 大塚 幸喜, 佐々木 章, 板橋 哲也, 木村 聡元, 遠藤 久仁, 若林 剛: 完全直腸脱に対する腹腔鏡下 Wells 変法直腸固定術, **手術**, 2012; 66(10): 1379-1384.
28. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 長谷川 康, 若林 剛: 【事例でイメージできる! 読みかたがよくわかる! 消化器がん化学療法 主要レジメン理解 & 看護ポイント】肝がんのレジメン ソラフェニブ, **消化器外科 Nursing**, 2012; 17(9): 945-951.
29. 若林 剛: 止血・切離のエネルギーデバイス, **日本外科学会雑誌**, 2012; 113(5): 479.
30. 小林 めぐみ, 水野 大, 松本 敦: 超音波パルスドプラ法による極低出生体重児の新生児期における門脈血流測定, **岩手医学雑誌**, 2012; 64(4): 255-260.
31. 武田 大樹: 正常肝と比較した化学療法後の肝切除における肝再生の検討, **岩手医誌**, 2012; 64(4): 277-286.
32. 有末 篤弘, 下島 直樹, 水野 大, 黒田 達夫, 森川 康英: 小腸虚血再灌流障害に対する ω -3 系脂肪乳剤の有用性, **岩手医誌**, 2012; 64(4): 299-306.
33. 遠藤 史隆, 北村 道彦, 梅邑 晃: 当科における新鮮凍結血漿 (FFP) の適正使用に関する検討, **日本外科系連合学会誌**, 2012; 37(5): 902-905.
34. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 馬場 誠朗, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡補助下幽門保存胃切除術 (LAPPG) の手技と cine-MRI を用いた術後胃運動機能評価, **手術**, 2012; 66(11): 1633-1637.
35. 長谷川 康, 新田 浩幸, 佐々木 章, 高原 武志, 高橋 正浩, 伊藤 直子, 藤田 倫寛, 武田 大樹, 眞壁 健二, 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除におけるラジオ波前凝固を用いた肝離断, **J Microwave Surg**, 2012; 30: 129-132.
36. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 遠藤 史隆, 杉立 彰夫, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌気道瘻に対する食道ステント挿入術の検討, **癌と化学療法**, 2012; 39(12): 1849-1851.
37. 吉田 雅一, 菅井 有, 織笠 俊輔, 大塚 幸喜, 幅野 渉, 若林 剛: 大腸癌における癌腺管と背景粘膜の非腫瘍性腺管の DNA メチル化解析, **岩手医誌**, 2012; 64(5): 339-349.
38. 久米 浩平: ヒト癌薬剤反応における細胞集団不均一性の解明, **2012 年研究助成**, 2012; 36-37.
39. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 長谷川 康, 若林 剛: 肝がんのレジメン ソラフェニブ, **消化器外科 Nursing**, 2012; 17(9): 945-951.

2. 著 書

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 若林 剛: 肝静脈再建とその合併症への対応, **肝移植医療フォーラム 10 周年記念誌・生体肝移植難渋例への挑戦**. 田邊 稔・谷合 信彦・水田 耕一編, 先端医学社, 東京, 2012, 1, 10-12.
2. 佐々木 章: Metabolic surgery, **糖尿病学の進歩 (第 46 集) 2012**. 日本糖尿病学会編, 診断と治療社, 2012, 46(1), 59-64.
3. 佐々木 章: 止血法の基本, **ステップアップ 内視鏡外科手術**. 若林 剛監修, 佐々木 章編集. 医学書院, 東京, 2012, 28-31.
4. 佐々木 章: 単孔式腹腔鏡下 Heller-Dor 手術, **ステップアップ 内視鏡外科手術**. 若林 剛監修, 佐々木 章編集. 医学書院, 東京, 2012, 82-87.
5. 佐々木 章: 単孔式腹腔鏡下 Nissen 手術, **ステップアップ 内視鏡外科手術**. 若林 剛監修, 佐々木 章編集. 医学書院, 東京, 2012, 88-93.
6. 佐々木 章, 遠藤 昌樹: 単孔式腹腔鏡下胃局所切除術, **ステップアップ 内視鏡外科手術**. 若林 剛監修, 佐々木 章編集. 医学書院, 東京, 2012, 112-117.
7. 佐々木 章: 単孔式腹腔鏡下脾臓摘出術, **ステップアップ 内視鏡外科手術**. 若林 剛監修, 佐々木 章編集. 医学書院, 東京, 2012, 200-205.
8. 佐々木 章: 単孔式腹腔鏡下副腎摘出術, **ステップアップ 内視鏡外科手術**. 若林 剛監修, 佐々木 章編集. 医学書院, 東京, 2012, 220-225.
9. 新田 浩幸, 佐々木 章, 阿部 京子, 伊藤 仁, 若林 剛: 【写真とイラストで必須術式の流れ & 看護テクニックがまるわかり! 消化器外科 開腹術・内視鏡手術完全マニュアル】 (第 4 章) 肝・胆・膵 内視鏡手術 腹腔鏡下肝部分切除術, オペナーシング 2012 秋季増刊, 2012, 1, 230-235.
10. 水野 大, 若林 剛: 各論 VIII. 小児外科, **単孔式内視鏡手術**, 木村 泰三, 森 俊幸, 岡島 正純編, 南江堂, 2012, 1, 191-197.

3. 学会発表

3-1 国際学会

ASTS State of the Art Winter Symposium, Miami, FL, USA, 2012/1/13

1. Takahashi M, Makabe K, Takeda D, Itabashi H, Hasegawa Y, Takahara T, Ito N, Nitta H, Wakabayashi G : Laparoscopy-Assisted Living Donor Hepatectomy-Minimally Invasive Surgery, Video Presentation.

International Breast Cancer Conference 6 Japan Session, France, Nice, 2012/1/29

- * Kashiwaba M : Round Table Discussion, Chairman.

Asian American MultiSpecialty Summit V, Hawaii, 2012/2/4

1. Wakabayashi G : Laparoscopic Major Liver Resection, Oral Presentation.

7th Japan-Korea Laparoscopic Gastrectomy Joint Seminar, Beppu, 2012/2/17

1. Koeda K, Fujiwara H, Wakabayashi G : Surgical procedures of laparoscopic distal gastrectomy with D2 lymph node dissection, Invited Presentation.

22nd Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL), Taipei, Taiwan, 2012/2/17

1. Wakabayashi G : Laparoscopic Anatomical Resection for HCC: Indication and Technique Consideration, Invited Presentation.

2012 Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons (SAGES), San Diego, USA, 2012/3/9

1. Wakabayashi G : Simultaneous Laparoscopic Resection of Colorectal Cancer and Synchronous Liver Metastases, Invited Presentation.

5th International Forum of Liver Surgery Akita 2012, Akita, Japan 2012/3/25

1. Wakabayashi G : Laparoscopic anatomical resection for HCC, Oral Presentation.
2. Takahashi M, Takeda D, Itabashi H, Hasegawa Y, Takahara T, Ito N, Nitta H, Wakabayashi G : Laparoscopy-assisted living donor hepatectomy, Video Presentation.

103rd American Association for Cancer Research Annual meeting 2012, Chicago 2012/4/3

1. Kume K, Nishizuka S, Ikeda M, Miura S, Maesawa C, Wakabayashi G : The characterization of drug-tolerant cancer cell populations by Colony Lysate Array (CoLA), Poster Presentation.

13th World Congress of Endoscopic Surgery ELSA Challenges the MIS Experts: Hepatobiliary Surgery, Mexico, 2012/4/25

1. Wakabayashi G : Laparoscopic liver resection-standardization and its evolution, Mexico, Invited Presentation.

1st International Breast Cancer Symposium & 27th Annual Meeting of Korean Breast Cancer Society, Korea, 2012/4/27

1. Kashiwaba M : Zoledronic acid as a cancer therapeutics, Invited Presentation.

1st International Breast Cancer Symposium & 27th Annual Meeting of Korean Breast Cancer Society, Korea, 2012/4/28

1. Kashiwaba M : Predictive and prognostic markers of 2. endocrine responsiveness: OncotypeDX, PAM50, and IHC4, Invited Presentation.

The 10th Beijing International Forum of Minimally Invasive Surgery, Beijing China, 2012/5/25

1. Wakabayashi G : Invited Presentation.

Advanced Course in Hepatic Surgery, Taiwan, 2012/6/8

1. Wakabayashi G : Laparoscopic assisted right hepatectomy, Oral Presentation.

10th International Conference of The Asian Clinical Oncology Society (ACOS), Seoul 2012/6/15

1. Koeda K, Fujiwara H, Watanabe Y, Nishinari Y, Nishizuka S, Kimura Y, Nitta H, Otsuka K, Mizuno M, Sasaki A, Wakabayashi G : EVALUATION OF BIWEEKLY IRINOTECAN PLUS CISPLATIN AS A SECOND- OR THIRD-LINE CHEMOTHERAPY IN ADVANCED OR RECURRENT GASTRIC CANCER: A RETROSPECTIVE ANALYSIS, Poster Presentation.

20th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery, Brussels, Belgium, 2012/6/21

1. Sasaki A, Baba S, Obuchi T, Umemura A, Nishizuka S, Kimura Y, Nitta H, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G : Single-port laparoscopic adrenalectomy for benign adrenal tumors: initial experience, Poster Presentation.

10th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA), Paris, 2012/7/1 ~ 7/4

1. Wakabayashi G : Post Graduate Course, Chief director.
 2. Wakabayashi G : Right hybrid hepatectomy, Oral Presentation.
 3. Baba S, Sasaki A, Nitta H, Takahara T, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G : Laparoscopic splenic vessel-preserving distal pancreatectomy, Poster Presentation.
- * Wakabayashi G : LAPAROSCOPIC SURGERY FOR HPB, Chairman.
 - * Wakabayashi G : Evolution in technology for hepatic and pancreatic surgery, Chairman.

IHPBA,Paris,2012/7/4

1. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Takahashi M, Ito N, Takeda D, Sasaki A, Wakabayashi G : Pure laparoscopic left lateral sectionectomy without the Pringle maneuver, Poster Presentation.

* Wakabayashi G : Course Director.

4th Asia-Pacific Gastroesophageal Cancer Congress,Singapore,2012/7/6

1. Koeda K, Fujiwara H, Wakabayashi G : SURGICAL PROCEDURES OF LAPAROSCOPIC VAGUS NERVE-PRESERVING DISTAL GASTRECTOMY WITH D2 LYMPH NODE DISSECTION, Symposium.

The 13th International Conference on Systems Biology (ICSB),Tronto Canada,8/20~8/22

1. Kume K, Nishizuka S, Maesawa C, Wakabayashi G : Anti-cancer drug-induced all-or-none like responses in human cancer cells, Poster Presentation.
2. Nishizuka SS, Ishida K, Shimura T, Young L, Wakabayashi G : Differential Anticancer Drug Response Represented by High-Dimensional Protein Monitoring, Poster Presentation.

1st International laparoscopic surgery CME,China,2012/8/29~9/3

1. Wakabayashi G : Structure of each country's laparoscopic surgery, Invited Presentation.

4th Japanese-Mongolian International Cancer Joint Symposium,Ulaanabaatar,Mongolia,2012/9/6

1. Wakabayashi G : Laparoscopic Anatomical Resection for Liver Cancer, Invited Presentation.
2. Hasegawa Y, Nitta H, Sasaki A, Takahara T, Ito N, Kanno S, Makabe K, Wakabayashi G : Pure Laparoscopic Anatomical Liver Resection, Symposium.
3. Itabashi T, Otsuka K, Kimura T, Fujisawa K, Yaegashi M, Fujii H, Kimura Y, Nitta H, Koeda K, Sasaki A, Wakabayashi G : The Outcome of the Laparoscopic-Assisted Colectomy for Rectal Cancer at Iwate Medical University, Symposium.

* Wakabayashi G : II Stomach Session, Chairman.

American College of Surgeons Annual Clinical Congress(ACS),Chicago,2012/10/1

1. Wakabayashi G : Pure Laparoscopic Right Hepatectomy by Anterior Approach with Hanging Maneuver for Large Intrahepatic Cholangiocarcinoma, Video Based Education Sessions.

Health Manpower Development Plan (HMDP) Visiting Experts Scheme FY 2012,Singapore,2012/10/15~10/18

1. Wakabayashi G : Laparoscopic liver resection techniques, Invited Presentation.
2. Wakabayashi G : Laparoscopic approach to lesions in the postero-superior segments, Invited Presentation.
3. Wakabayashi G : Laparoscopic right hepatectomy: Full lapH, Invited Presentation.
4. Wakabayashi G : Tricks from Laparoscopic LLS to Right Hepatectomy, Invited Presentation.
5. Wakabayashi G : Management of intra-operative complications of laparoscopic liver surgery, Invited Presentation.
6. Wakabayashi G : Laparoscopic resections of lesions of in the postero-superior segments, Invited Presentation.
7. Wakabayashi G : Laparoscopic resection in the cirrhotic liver. Is there a limit?, Invited Presentation.
8. Wakabayashi G : Laparoscopic right hepatectomy-Hybrid technique, Invited Presentation.
9. Wakabayashi G : Live Demonstration, Laparoscopic S8segmentectomy at SGH.

2nd International MAS Symposium for Hepato-Pancreato-Biliary diseases,Hong Kong,2012/11/8~11/9

1. Wakabayashi G : Minimal access liver surgery-the technical aspects, Invited Presentation.
 2. Wakabayashi G : Demonstration, Demonstration.
 3. Wakabayashi G : Laparoscopic hepatectomy-The hybrid approach, Invited Presentation.
- * Wakabayashi G : Session1-Lectures, Chairman.
- * Wakabayashi G : Session4, Chairman.

The 8th International symposium on Cancer Research and Therapy,Tokyo,2012/11/10

1. Kawagishi R, Kashiwaba M, Inaba T, Komatsu H, Matsui Y, Uesugi N, Sugai T, Wakabayashi G : The verification of the metastasis mechanism that is induced by the breast cancer stem cell and the Epithelial mesenchymal transition, Poster Presentation.

2nd Reverse Phase Protein Microarray Global Workshop,Edinburgh,2012/11/12

1. Nishizuka SS, Kume K, Wakabayashi G : Molecular characterization of drug-tolerant cancer cell populations using colony lysate array (CoLA) : Poster Presentation

7th SFO International Cancer Conference,Dhaka, Bangladesh,2012/12/15

1. Nishizuka SS : Quantitative approach for cancer relapse prediction: translational research for biomarker discovery, Invited Presentation.

3-2 国内学会

第 46 回日本成人病（生活習慣病）学会，東京都，2012/1/14～1/15

1. 若林 剛：肝臓の先進的治療，招待講演。

日本消化器病学会 第 192 回東北支部例会，仙台，2012/2/4

1. 佐々木 章，大淵 徹，馬場 誠朗，梅邑 晃，木村 祐輔，西塚 哲，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，若林 剛：高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術：肥満随伴疾患の改善効果，シンポジウム。

第 84 回日本胃癌学会，大阪，2012/2/8～2/10

1. 肥田 圭介，藤原 久貴，西成 悠，渡邊 陽太郎，若林 剛：腹腔鏡下胃癌手術の pitfall とその対策，ビデオワークショップ。
 2. 肥田 圭介，藤原 久貴，千葉 丈広，西成 悠，渡邊 陽太郎，若林 剛：腹腔鏡下幽門保存胃切除術 (LAPPG) の手技と cine-MRI を用いた術後胃運動機能評価，ビデオワークショップ。
- * 肥田 圭介：腹腔鏡下手術 1，座長。

第 8 回日本消化管学会，仙台市，2012/2/10～2/11

1. 大塚 幸喜：Hi-Vision system による直腸癌に対する腹腔鏡手術－さらなる機能温存、根治性、外科教育の向上を目指して－，ワークショップ。

第 27 回日本静脈経腸栄養学会，神戸，2012/2/23～2/24

1. 富澤 勇貴，新田 浩幸，馬場 誠朗，遠藤 龍人，古屋 純一，織田 展輔，佐藤 祐子，豊巻 和司，栗谷川 洋子，関向 えみ，永野 桂子，佐藤 早苗，遠藤 桂，若林 剛：PTEG（経皮経食道胃管挿入術）普及の取り組みと問題点，一般口演。

第 46 回糖尿病学の進歩，盛岡，2012/3/2～3/3

1. 佐々木 章：Metabolic surgery，招待講演。
2. 佐々木 章：手術でなおす肥満の糖尿病，市民公開講演会。

第 9 回日本乳癌学会東北地方会，仙台市，2012/3/3

1. 柏葉 匡寛，稲葉 亨，小松 英明，川岸 涼子，松井 雄介，若林 剛，上杉 憲幸，菅井 有：ホルモン受容体有無による HER2 陽性 StageIV 乳癌での薬物療法の選択と効果の解析，一般口演。
- * 柏葉 匡寛：主題 2：ステージ IV 乳癌の治療，座長。

第 48 回日本腹部救急医学，石川県金沢市，2012/3/14～3/15

1. 鴻巣 正史，木村 祐輔，秋山 有史，岩谷 岳，西塚 哲，新田 浩幸，大塚 幸喜，柏葉 匡寛，肥田 圭介，佐々木 章，水野 大，若林 剛：食道癌気道瘻に対する食道ステント挿入術の検討，一般口演。
 2. 箱崎 将規：成人特発性腸重積の 1 例，一般口演。
 3. 小林 めぐみ：菓子昆布により食餌性イレウスをきたした 2 小児例，一般口演。
- * 若林 剛：パネルディスカッション 1・Abdominal compartment syndrome の病態と治療，司会。

第 9 回日本乳癌学会東北地方会，仙台市，2012/3/3

1. 柏葉 匡寛，稲葉 亨，小松 英明，川岸 涼子，松井 雄介，若林 剛，上杉 憲幸，菅井 有：ホルモン受容体有無による HER2 陽性 StageIV 乳癌での薬物療法の選択と効果の解析，一般口演。
- * 柏葉 匡寛：主題 2：ステージ IV 乳癌の治療，座長。

第 37 回日本微小循環学会，盛岡市，2012/3/16

- * 若林 剛：ランチョンセミナー，座長。

第 112 回日本外科学会定期学術集会日本外科学会，千葉，2012/4/12～4/14

1. 高原 武志，新田 浩幸，長谷川 康，伊藤 直子，高橋 正浩，西塚 哲，木村 祐輔，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，水野 大，若林 剛：当科における進行胆道癌の治療成績，サージカルフォーラム。
2. 馬場 誠朗，佐々木 章，大淵 徹，梅邑 晃，木村 祐輔，西塚 哲，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，若林 剛：食道アカラシアに対する多孔式と単孔式腹腔鏡下 Heller-Dor 手術の成績，一般口演。
3. 秋山 有史，木村祐輔，岩谷 岳，鴻巣正史，藤原久貴，肥田圭介，西塚 哲，大塚幸喜，新田浩幸，柏葉匡寛，佐々木 章，水野 大，若林 剛：進行食道癌に対する DCF 療法の治療成績，一般示説。
4. 高橋 正浩，眞壁 健二，武田 大樹，板橋 英教，藤田 倫寛，長谷川 康，伊藤 直子，高原 武志，新田 浩幸，水野 大，若林 剛：腹腔鏡補助下生体肝ドナー手術-minimally invasive surgery-，ビデオセッション。
5. 野田 宏伸，八重樫 瑞典，佐藤 寿穂，高橋 学，小鹿 雅博，遠藤 重厚，若林 剛：術後 Acute Lung Injury に対する PMX-DHP の肺酸素化能は正と液性因子測定の意義，サージカルフォーラム。
6. 石田 馨，板橋 哲也，大塚 幸喜，箱崎 将規，加藤 久仁之，木村 聡元，藤澤 健太郎，松尾 鉄平，佐々木 章，若林 剛：当科における大腸癌腹膜播種に対する治療成績，一般示説。
7. 板橋 哲也，大塚 幸喜，加藤 久仁之，木村 聡元，藤澤 健太郎，木村 祐輔，新田 浩幸，柏葉 匡寛，肥田 圭介，佐々木 章，若林 剛：一時的腸人工肛門の検討，一般示説。
8. 柏葉 匡寛，稲葉 亨，小松 英明，川岸 涼子，松井 雄介，上杉 憲幸，菅井 有，若林 剛：術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検 (SNB) の認容性の検討，一般示説。

9. 木村 祐輔, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 遠藤 史隆, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 高齢者食道癌における手術成績, サージカルフォーラム.
10. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 秋山 有史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における食道癌術前化学療法による術後感染症のリスク検討, Poster Presentation.
11. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 加藤 久仁之, 木村 聡元, 箱崎 将規, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 藤井 大和, 吉田 雅一, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 細井 信之, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸癌手術の標準化を目指した audio visual education, サージカルフォーラム.
12. 西塚 哲, 久米浩平, 池田みゆき, 遠藤史隆, 片桐弘勝, 小笠原聡, 木村祐輔, 大塚幸喜, 新田浩幸, 柏葉匡寛, 肥田圭介, 佐々木章, 水野 大, 若林 剛: コロニー形成法による薬剤抵抗性細胞集団の分子プロファイル, サージカルフォーラム.
13. 肥田 圭介: 腹腔鏡下胃切除術における echeron flex TM を用いた体内吻合の実際, プースセミナー.
14. 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 渡辺 陽太郎, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における腹腔鏡下胃全摘術の短期成績の検討, 一般示説.
15. 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 友安 信, 出口 博之, 谷田 達男, 若林 剛: 当科における大腸癌肺転移切除症例の検討, 一般示説.
16. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 御供 真吾, 藤田 倫寛, 武田 大樹, 新田 浩幸, 佐々木 章, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 木村 祐輔, 若林 剛: 脾臓十二指腸切除術における no stent 法による脾空腸吻合施行症例の検討, 一般示説.
17. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 高橋 正浩, 伊藤 直子, 武田 大樹, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 若手外科医による腹腔鏡下肝外側区域切除ハイボリュームセンターにおける手技の定型化と手術成績, 一般ビデオ.
18. 稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 武田 雄一郎, 小松 英明, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: 当科における Primary systemic therapy(PST) 施行局所進行乳癌症例の検討, 一般示説.
19. 肥田 圭介: 岩手県における被災地拠点病院への医師派遣支援について～岩手医科大学災害時地域医療支援室活動報告～, 特別企画
20. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡補助下肝右葉尾状葉切除+幽門輪温存脾臓十二指腸切除, ビデオセッション.
21. 稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 武田 雄一郎, 小松 英明, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 若林 剛: 当科における Primary systemic therapy(PST) 施行局所進行乳癌症例の検討, 一般示説.
22. 水野 大, 小林 めぐみ, 佐々木 章, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 若林 剛: 小児外科における単孔式腹腔鏡下手術教育, 一般示説.
23. 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の短期・中期成績, 一般示説.
24. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除-定型化と術式の進化, 特別ビデオセッション.
25. 石橋 正久, 柴田 浩平, 澤田 元太, 高橋 佑典, 古後 龍之介, 赤木 智徳, 西田 尚弘, 岩谷 岳, 主藤 朝也, 田中 文明, 三森 功士, 若林 剛, 森 正樹: 肝細胞癌における lincRNA HOTAIR の発現と臨床病理学的因子との関連, 一般示説.
26. 大淵 徹, 亀山 哲章, 富田 真人, 三橋 宏章, 松本 伸明, 吉川 祐輔, 佐々木 妙子: 癌終末期における Controlling Nutritional status ならびに Palliative Prognostic Index を用いた栄養評価と予後検討, 一般示説.
- * 若林 剛: 周術期感染対策への応用～外科手術～, 司会.
- * 若林 剛: ランチョンセミナー 29 周術期感染対策への応用～外科手術～, 司会.
- * 若林 剛: 肝 鏡視下-1, 司会.
- * 若林 剛: ビデオフォーラム 017, 司会.

第 10 回日本ヘルニア学会, 愛知県, 2012/4/27～4/28

1. 富澤 勇貴, 中嶋 潤, 川村 英伸, 岩谷 岳, 板橋 哲也, 馬場 誠朗, 藤田 倫寛, 小笠原 聡, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 80 歳以上の高齢者の鼠径ヘルニア手術の検討, 一般口演.
2. 富澤 勇貴, 川村 英伸, 中嶋 潤, 岩谷 岳, 板橋 哲也, 馬場 誠朗, 藤田 倫寛, 小笠原 聡, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 合併症を有する患者に対する Kugel 法の有用性, シンポジウム.
3. 藤田 倫寛, 須藤 隆之, 富澤 勇貴, 武田 大樹, 梅邑 晃, 御供 真吾, 新田 浩幸, 川村 英伸, 佐々木 章, 若林 剛: 盛岡市立病院における単孔式 TAPP 法, ビデオシンポジウム.
4. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 御供 真悟, 佐々木 章, 川村 英伸, 板橋 哲也, 若林 剛: Parietex™ Composite Mesh を用いた簡便な腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア修復術, 一般口演.

第 23 回内視鏡外科フォーラム東北, 秋田市, 2012/5/12

1. 新田 浩幸: 腹腔鏡下肝切除の現状と展望, 特別講演.
- * 肥田 圭介: ミニシンポジウム 2, 座長.

第 83 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2012/5/12～5/14

1. 佐々木 章: 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術: 2 型糖尿病と非アルコール性脂肪性肝疾患の改善効果, ワークショップ.

第 49 回日本小児外科学会, 横浜市, 2012/5/15

1. 中村 聖華, 小林 めぐみ, 水野 大, 若林 剛: 一卵性双生児の一子にのみ VACTER 症候群を合併した一例, 一般示説.

2. 小林 めぐみ, 水野 大, 若林 剛: 先天性胆道拡張症に対する小切開手術, 一般示説.

第 24 回日本肝胆膵外科学会, 大阪市, 2012/5/30~6/1

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 高橋 正浩, 伊藤 直子, 武田 大樹, 若林 剛: T3,4 胆嚢癌の至適術式の検討, 一般口演.
2. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: 当科における腹腔鏡 (補助) 下肝切除の手術成績, 一般口演.
3. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: Hanging technique を用いた腹腔鏡補助 (小開腹) 下の肝切除, ビデオワークショップ.
4. 高橋 正浩, 新田 浩幸, 眞壁 健二, 武田 大樹, 板橋 英教, 長谷川 康, 高原 武志, 伊藤 直子, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡補助下生体肝ドナー手術, ビデオワークショップ.
5. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 高橋 正浩, 伊藤 直子, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 若林 剛: T3,4 胆嚢癌の至適術式の検討, シンポジウム.
6. 伊藤 直子, 新田 浩幸, 高橋 正浩, 高原 武志, 長谷川 康, 藤田 倫寛, 武田 大樹, 眞壁 健二, 板橋 英教, 若林 剛: StageIV 肺癌長期生存例と塩酸ゲムシタピンの効果についての検討, 一般示説.
7. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 肝門を圧排する進行肝細胞癌の 2 例, シンポジウム.
8. 武田 大樹, 新田 浩幸, 眞壁 健二, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: 腹腔鏡補助下に切除した肝内胆管嚢胞腺腫の 1 例, 一般示説.
9. 佐々木 章, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 長谷川 康, 藤田 倫寛, 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除を学ぶ: 肝教育 (術式の定型化を含む), 招待講演.
10. 菅野 将史, 小林 慎, 板橋 英教, 中嶋 潤, 舩渡 治, 小川 雅彰, 早川 善郎, 高金 明典, 若林 剛: 胆道完全外瘻を胃へ内瘻化する新しい方法—肝分割による瘻管転位術—, ミニビデオワークショップ.
11. 新田 浩幸: パネルディスカッション 8, ディスカッサント.
12. 若林 剛: 誰もが安全に! ~外側区域切除を定型化する~, ランチョンセミナー.
* 若林 剛: International Video Symposium 4: Highly advanced surgery in the hepatobiliary and pancreatic field(Endoscopic Surgery), 座長
* 若林 剛: 肝胆膵内視鏡外科重点セミナー 5 肝膵内視鏡外科手術のコツ, 司会.

第 66 回日本食道学会学術集会, 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢, 2012/6/21~6/22

1. 木村祐輔, 岩谷 岳, 秋山有史, 鴻巣正史, 肥田圭介, 新田浩幸, 大塚幸喜, 佐々木章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌根治術における再建術の工夫と治療成績, ビデオシンポジウム.
2. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 西塚 哲, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 局所進行食道癌に対する DCF 療法の治療成績, 一般示説.
3. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 食道内穿破を来した食道気管支嚢胞に対して待機的に胸腔鏡下食道切除術を施行した 1 例, 一般示説.

第 20 回日本乳癌学会, 熊本, 2012/6/28 ~ 6/30

1. 稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 小松 英明, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 若林 剛: 乳癌術後局所再発症例に対するセンチネルリンパ節生検の検討, 一般示説.
2. 松井 雄介, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 川岸 涼子, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: 術後 TC 療法を実施したトリプルネガティブ乳癌の透析患者の 1 例, 一般口演.
3. 長谷川 善枝, 藤澤 知巳, 大谷 彰一郎, 中村 力也, 坂井 威彦, 増田 慎三, 遠山 竜也, 柏葉 匡寛, 山口 拓洋, 向井 博文, 岩田 広治: NEOS(N-SAS BC06): レトロゾール (LET) による術前内分泌療法の間断解析結果, 一般口演.
4. 柏葉 匡寛: 再発乳癌個別化治療におけるビノレルビンの存在感, モーニングセミナー.
5. 柏葉 匡寛: 乳癌治療における抗血管新生薬の可能性, シンポジウム.
6. 小松 英明, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: 当科における Triple negative 乳癌の Ki-67 の発現と再発状況に関する臨床病理学的因子との検討, 一般示説.
7. 川岸 涼子, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: 病理学的予後予測因子における脈管侵襲の意義, 一般示説.

第 30 回日本肥満症治療学会, 東京, 2012/6/29~6/30,

1. 佐々木 章, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 大淵 徹, 長谷川 康, 高原 武志, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐藤 譲, 若林 剛: 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術による糖代謝改善効果, ワークショップ.
2. 佐々木 章, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 大淵 徹, 長谷川 康, 高原 武志, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐藤 譲, 若林 剛: Metabolic Surgery 術後の問題点とその対策: 外科的治療術式と代謝改善, 特別企画.
3. 佐々木 章, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 大淵 徹, 長谷川 康, 高原 武志, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐藤 譲, 若林 剛: 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の費用対効果と問題点, シンポジウム.
4. 佐々木 章, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 大淵 徹, 長谷川 康, 高原 武志, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: Metabolic Surgery の現況と課題: 認定制度準備委員会からの現況, 特別講演.
5. 佐々木 章, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 大淵 徹, 長谷川 康, 高原 武志, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の合併症とその対策, ワークショップ.

6. 梅邑 晃, 佐々木 章, 馬場 誠朗, 大淵 徹, 長谷川 康, 高原 武志, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 高度肥満症患者の内臓脂肪細胞培養とアディポサイトカインの動態, 一般口演.

* 佐々木 章: ワークショップ 1 肥満症手術の術式選択, 座長.

第 49 回日本外科代謝栄養学会, 千葉県浦安市, 2012/7/5~7/6

* 若林 剛: 要望演題 3 「免疫栄養」, 司会.

第 26 回キチン・キトサンシンポジウム, 札幌市, 2012/7/12~7/13

1. 杉立 彰夫, 久米 浩平, 片桐 弘勝, 遠藤 史隆, 板橋 哲也, 西塚 哲, 木村 祐輔, 高森 吉守, 福田 稔, 若林 剛: DAC-70 - 医用材料としての利用 -, 特別セッション.

第 193 回日本消化器病学会 東北支部例会, 仙台市, 2012/7/13~7/14

- 中村 聖華, 高原 武志, 新田 浩幸, 眞壁 健二, 菅野 将史, 長谷川 康, 伊藤 直子, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: 退形成性膵管癌の 1 例, 一般口演.
- 鳥谷 洋右, 安孫子 幸人, 亀井 将人, 安部 圭之輔, 小豆嶋 立頼, 横山 直紀, 水谷 友美, 赤坂 理三郎, 春日井 聡, 柴田 将, 小穴 修平, 廣田 茂, 遠藤 昌樹, 千葉 俊美, 鈴木 一幸, 木村 祐輔, 上杉 憲幸, 菅井 有: 術前 CDDP + CPT-11 併用化学療法を施行し、完全奏功を認めた食道小細胞癌の 1 例, 一般口演.
- 松田 望, 安孫子 幸人, 佐藤 邦彦, 春日井 聡, 柴田 将, 小穴 修平, 廣田 茂, 遠藤 昌樹, 千葉 俊美, 滝川 康裕, 鈴木 一幸, 眞壁 健二, 加藤 久仁之, 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 若林 剛, 織笠 俊輔, 上杉 憲幸, 菅井 有: 魚骨による小腸穿孔の 1 例, 一般口演.
- 眞壁 健二, 高原 武志, 新田 浩幸, 中村 聖華, 菅野 将史, 長谷川 康, 伊藤 直子, 若林 剛: 分枝型 IPMN と鑑別困難であった Lymphoepithelial cyst の 1 例, 一般口演.

第 67 回日本消化器外科学会, 富山市, 2012/7/18~7/20

- 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大淵 徹, 梅邑 晃, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下スリープ状胃切除術後の非アルコール性肝疾患改善の定量的評価, 要望演題.
- 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 高度進行食道癌に対する食道ステント挿入術の検討, Poster Presentation.
- 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 食道癌に対する根治的放射線化学療法後の Salvage 手術の治療成績, 一般口演.
- 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 当科での border line respectable 胆管癌の治療の方向性, 一般口演.
- 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 加藤 久仁之, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 当科におけるクローン病腹腔鏡手術の治療成績, 一般口演.
- 佐々木 章, 馬場 誠朗, 大淵 徹, 梅邑 晃, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下スリープ状胃切除後における 2 型糖尿病の改善効果, 要望演題.
- 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 文広, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における胃癌術後患者に対する VTE 予防の検討, 一般口演.
- 御供 真吾, 須藤 隆之, 石田 馨, 梅邑 晃, 武田 大樹, 藤田 倫寛, 若林 剛: 当科における切除不能・再発大腸癌に対する panitumumab の使用経験, 一般口演.
- 中嶋 潤, 水野 大, 菅野 将史, 板橋 英教, 船渡 治, 小川 雅彰, 早川 善郎, 小林 慎, 高金 明典, 若林 剛: 若年者鼠径ヘルニアに対する LPEC 法の適応, 一般口演.
- 箱崎 将規, 川崎 雄一郎, 佐藤 一, 佐藤 直夫, 坂本 隆, 葛西 敏史: 同時性右鼠径ヘルニア嵌頓・左閉鎖孔ヘルニア嵌頓の 1 例, 一般口演.
- 大淵 徹, 亀山 哲章, 富田 真人, 三橋 宏章, 松本 伸明, 吉川 祐輔: 再発／切除不能進行胃癌に対する Docetaxel + CDDP + S-1 (DCS) 療法の検討, 一般口演.
- 板橋 英教, 船渡 治, 菅野 将史, 中嶋 潤, 小川 雅彰, 早川 善郎, 目黒 英二, 小林 慎, 高金 明典: 単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術はどこまで適応拡大が可能か?, 一般口演.
- 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 高橋 正浩, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 80 歳以上の超高齢者に対する肝胆膵悪性腫瘍手術の成績, 要望演題.
- 若林 剛: 進化する腹腔鏡下肝切除, 教育ビデオシンポジウム.
- 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における大腸癌肺転移切除症例の検討, 一般口演.
- 秋山 有史: 進行食道癌に対する DCF 療法による術前化学療法の検討, パネルディスカッション.
- 武田 大樹, 新田 浩幸, 眞壁 健二, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 上杉 憲幸, 若林 剛: 化学療法が肝再生に与える影響, 一般口演.
- 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 加藤 久仁之, 八重樫 瑞典, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下低位前方切除の安全な切離・吻合の定型, 要望ビデオ.
- 岩谷 岳, 深川 剛生, 三森 功士, 澤田 元太, 高橋 佑典, 石橋 正久, 西田 尚弘, 若林 剛, 笹子 三津留, 森 正樹: 胃癌進行に伴う Histone mRNA および microRNA 760 の対照的発現変動, ワークショップ.
- 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: 当科における腹腔鏡 (補助) 下肝切除の適応の変遷と手術成績, ワークショップ.

21. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下結腸癌手術周術期における大建中湯の臨床学的効果の検討, ワークショップ.
22. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下幽門側胃切除における迷走神経腹腔枝温存 D2 リンパ節郭清, 要望ビデオ.
23. 西塚 哲, 遠藤 史隆, 石田 和茂, 久米 浩平, 片桐 弘勝, 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 術後補助化学療法効果予測マーカーの同定とその生物学的意義の検証, 一般口演.
24. 藤田 倫寛, 須藤 隆之, 武田 大樹, 石田 馨, 梅邑 晃, 御供 真吾, 富澤 勇貴, 新田 浩幸, 佐々木 章, 若林 剛: 盛岡市立病院における単孔式腹腔鏡下手術, 一般口演.
25. 石橋 正久, 柴田 浩平, 古後 龍之介, 西田 尚弘, 岩谷 岳, 主藤 朝也, 田中 文明, 三森 功士, 若林 剛, 森 正樹: 大腸癌・肝細胞癌における lincRNA HOTAIR 発現の臨床病理学因子との関連, ワークショップ.
26. 千葉 丈広, 比企 直樹, 布部 創也, 小西 毅, 長山 聡, 福長 洋介, 齋浦 明夫, 谷村 慎哉, 佐野 武, 山口 俊晴: 上部早期胃癌に対する極小残胃 Roux-en-Y 吻合による腹腔鏡下胃全摘術の検討, 要望ビデオ.
27. 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤澤 健太郎, 玉澤 佳之, 佐瀬 正博: 小腸腸間膜気腫を伴った成人特発性気腹症の 1 例, 一般口演.
 * 若林 剛: ランチョンセミナー「蛍光観察が拓く腹腔鏡手術の新機軸—基本と新しいアイディア—」石沢武彰, 司会.
 * 若林 剛: ワークショップ「鏡視下手術の適応と成績 (肝胆膵)」, 司会.
 * 肥田 圭介: 胃・症例 1, 司会.

第 75 回日本病理学会東北支部学術集会, 秋田, 2012/7/21 ~ 22

1. 西成 悠, 前沢 千早, 及川 浩樹, 増田 友之, 佐々木 真理, 肥田 圭介, 若林 剛: 超高磁場 7 テスラ磁気共鳴装置によるラット大腸粘液エンハンスメント法の確立, 一般示説.

日本肝臓学会東北地区市民公開講座, 盛岡, 2012/9/15

1. 佐々木 章: 高度肥満に対する外科治療, 招待講演.

第 164 回東北外科集談会, 仙台市, 2012/9/15

1. 有末 篤弘, 水野 大, 渡邊 陽太郎, 小林 めぐみ, 若林 剛: 全身性リポジストロフィー症に消化管穿孔を合併した 1 例, 一般口演.

第 71 回日本癌学会学術総会, 札幌, 2012/9/19~9/21

1. 西塚 哲, 石田 和茂, 若林 剛: 逆相ライセートアレイを用いた遺伝毒反応性タンパク高次データの定量モニタリング, 英語口演.
2. 岩谷 岳, 澤田 元太, 高橋 佑典, 石橋 正久, 蔵重 淳二, 主藤 朝也, 柴田 浩平, 秋山 有史, 西塚 哲, 若林 剛, 森 正樹, 三森 功士: 食道扁平皮癌における Notch1 遺伝子の解析, 一般口演.
3. 片桐 弘勝, 西塚 哲, 久米 浩平, 遠藤 史隆, 杉立 彰夫, 若林 剛: 消化管由来同時性 5 重複癌の発生に關与する 5 番染色体長腕欠失を伴う生殖細胞系列 APC 遺伝子遺伝子変異, 一般示説.
4. 遠藤 史隆, 西塚 哲, 久米 浩平, 片桐 弘勝, 若林 剛: 『消化管癌細胞における 5-FU 誘導性 NF-kB の解析』, 一般示説.
5. 杉立 彰夫, 久米 浩平, 片桐 弘勝, 遠藤 史隆, 板橋 哲也, 伊藤 直子, 西塚 哲, 若林 剛: アミノレブリン酸投与による癌組織の同定, 一般口演.
6. 久米 浩平, 西塚 哲, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 前沢 千早, 若林 剛: 薬剤耐性シングルコロニーの分子プロファイルによる癌再発機構に関する研究, 一般示説.
7. 石橋 正久, 柴田 浩平, 高橋 佑典, 澤田 元太, 蔵重 淳二, 岩谷 岳, 主藤 朝也, 三森 功士, 若林 剛, 森 正樹: Clinical magnitude of the expression of PICT1 in hepatocellular carcinoma with wild-type TP53, and the possibility of HCC treatment by PICT1 suppression, 英語口演.
 * 西塚 哲: Anti-cancer drug resistance(1), 座長.

第 48 回日本移植学会, 愛知県, 2012/9/20~9/22

1. 若林 剛: 腹腔鏡下ドナー肝切除を続けてみて, アフタヌーンセミナー.
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 長谷川 康, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 若林 剛: 生体肝移植後急性期にインフルエンザ感染を併発した 1 例, 一般示説.

第 20 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2012), 神戸市, 2012/10/10~10/13

1. 佐々木 章, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下脾動静脈温存尾側脾切除術: 手術成績と脾動静脈開存の評価, 一般示説.
2. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大淵 徹, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 藤原 久貴, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 胃 GIST に対する単孔式と多孔式腹腔鏡下胃局所切除術 症例一致比較, 一般示説.
3. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 当院における消化器癌に対する緩和ケアチームの支援状況, ワークショップ.
4. 高原 武志, 新田 浩幸, 若林 剛: C 型肝炎変に対する生体肝移植後の Mizoribine を用いた免疫抑制, パネルディスカッション.
5. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 若林 剛: 完全腹腔鏡下胃切除における Linear Stapler による再建と Barbed Suture Closure Device による挿入口閉鎖の工夫, 一般示説.
6. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 若林 剛: 完全腹腔鏡下胃切除における Linear Stapler による再建と Barbed Suture Closure Device による挿入口閉鎖の工夫, ポスターセッション.

7. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛: 肝細胞癌に対する完全腹腔鏡下系統的切除の手術手技, ポスターセッション.
8. 石橋 正久, 柴田 浩平, 高橋 佑典, 澤田 元太, 蔵重 淳二, 岩谷 岳, 主藤 朝也, 三森 功士, 若林 剛, 森 正樹: 野生型 p53 を持つ肝細胞癌における PICT1 発現の臨床的意義と PICT1 抑制による治療応用への可能性, ポスターセッション.
9. 高橋 正浩, 武田 大樹, 長谷川 康, 高原 武志, 伊藤 直子, 新田 浩幸, 若林 剛: 肝内胆管細胞癌に対し Anterior approach と Hanging maneuver を用いた完全腹腔鏡下肝右葉切除術, ポスターセッション.
10. 高橋 正統, 下沖 収, 皆川 幸洋, 遠野 千尋, 藤社 勉, 松井 雄介, 阿部 正: 診断的腹腔鏡が有用であった結核性腹膜炎の一例, 一般示説.
11. 石橋 正久, 古後 龍之介, 柴田 浩平, 高橋 佑典, 澤田 元太, 蔵重 淳二, 西田 尚弘, 岩谷 岳, 主藤 朝也, 田中 文明, 三森功士, 若林 剛, 森 正樹: 野生型 p53 を持つ肝細胞癌における PICT1 発現の臨床的意義と PICT1 抑制による治療応用への可能性, 一般示説.
- * 大塚 幸喜: 小腸 (症例報告) 2, 座長.
- * 若林 剛: 肝臓 (手術 4), 座長.
- * 若林 剛: ランチョンセミナー 26 分子標的薬を基本とした大腸癌化学療法, 司会.

第 33 回日本肥満学会, 京都, 2012/10/11 ~ 12

1. 梅邑 晃, 佐々木 章, 馬場 誠朗, 大淵 徹, 新田 浩幸, 若林 剛: 高度肥満症患者の内臓脂肪細胞培養とアディポサイトカンの動態, 一般口演.

第 65 回日本胸部外科学会, 福岡, 2012/10/17~10/20

1. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 遠藤 史隆, 藤原 久貴, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌に対する根治的放射線化学療法後の salvage lymphadenectomy の意義, ワークショップ.

第 50 回日本癌治療学会, 横浜市, 2012/10/25~10/27

1. 小松 英明, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 菅井 有, 若林 剛: 当科における乳癌手術前後の Ki67 Labeling Index の変動についての変動, 一般示説.
2. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: CDDP + CPT-11 の化学療法が奏功した食道小細胞癌の 1 切除例, 一般示説.
3. 柏葉 匡寛: タイケルブを用いた乳癌治療戦略, 学術セミナー.
4. 柏葉 匡寛: 乳癌肝転移の治療, パネルディスカッション.
5. 御供 真吾: K-ras 野生型切除不能・再発大腸癌に対する panitumumab 併用化学療法, ポスターディスカッション.
6. 西塚 哲: コロニー形成試験を用いた薬剤耐性細胞集団の分子生物学的プロファイリング, ポスターディスカッション.
7. 柏葉 匡寛: 乳癌, PAL Meet the Professor3.
8. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 進行・再発胃癌に対する二次以降化学療法としての低容量 CPT-11/CDDP 併用療法の検討, 一般示説.
9. 杉立 彰夫: 光力学的手法を利用した癌診断と治療の試み, ポスターディスカッション.
10. 藤原 久貴: 高齢者の進行胃癌患者に対する集学的治療の検討, 一般口演.
11. 柏葉 匡寛: HER2-FISH からみたサブタイプ毎の遺伝子増幅と不安定性の検証, 一般口演.
12. 川岸 涼子: 病理学的予後予測因子における脈管侵襲の意義, 一般口演.
13. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 藤原 久貴, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌根治的放射線療法後のリンパ節再発に対する Salvage lymphadenectomy の検討, 一般口演.
14. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 長谷川 康, 菅野 将史, 眞壁 健二, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 再発・切除不能膀胱癌に対する FOLFIRINOX の使用経験, 一般口演.
- * 若林 剛: 肝胆膵集学的治療, レビューワー.

第 21 回日本コンピュータ外科学会, 徳島市, 2012/11/2~11/4

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除で欲しいデバイス, モーニングセミナー.

第 23 回日本消化器癌発生学会総会, 徳島, 2012/11/15 ~ 11/16

1. 石橋 正久, 柴田 浩平, 上尾 裕紀, 内龍 太郎, 松村 多恵, 高橋 佑典, 澤田 元太, 美馬 浩介, 蔵重 淳二, 秋吉 清百合, 主藤 朝也, 杉町 圭史, 鈴木 聡, 若林 剛, 森 正樹, 三森 功士: p53 野生型肝細胞癌において予後規定因子となる癌遺伝子 PICT1 について, 一般口演.

第 67 回日本外科学会, 福岡, 2012/11/16 ~ 11/17

1. 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 加藤 典博: ALTA 療法にて出血性内痔核のコントロールを行い、ペパシズマブ投与が可能となった大腸癌切除不能多発肝転移の 1 例, 一般示説.

第 67 回日本大腸肛門病学会, 福岡, 2012/11/16~11/17

1. 木村 聡元, 大塚幸喜, 板橋哲也, 遠藤久人, 箱崎将規, 加藤久仁之, 松尾鉄平, 吉田雅一, 藤井仁志, 八重樫瑞典, 藤澤健太郎, 佐々木章, 若林 剛: 当科における大腸内視鏡治療後追加切除症例の検討, 一般示説.
2. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 加藤 久仁之, 箱崎 将規, 木村 聡元, 板橋 哲也, 若林 剛: 腹腔鏡下結腸癌手術周術期における大建中湯の臨床学的効果, 一般口演.

第 25 回日本外科感染症学会, 千葉市, 2012/11/21~11/22

1. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌根治切除術後における SSI の検討, 一般口演.

第 74 回日本臨床外科学会, 東京, 2012/11/29~12/1

1. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 木村 祐輔, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: Reduced port surgery の適応と手技の工夫, 要望演題.
2. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 菅野 将史, 眞壁 健二, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 完全腹腔鏡下系統的肝切除術の手術手技, ランチョンセミナー.
3. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 遠藤 久仁, 加藤 久仁之, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸癌手術における超音波凝固切開装置とバイポーラ鉗子による定型化したリンパ節郭清手技, 一般口演.
4. 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 川岸 涼子, 松井 雄介, 若林 剛: 乳癌における血管新生阻害剤の特異性, 特別講演.
5. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 遠藤 久仁, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 超音波凝固切開装置における Short Pitch 切離の習熟度と症例経験数に関する検討, 一般口演.
6. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 板橋 哲也, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: Parietex™ Composite Mesh を用いた腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア修復術の臨床検討, 要望演題.
7. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 梅邑 晃, 青木 毅一, 大山 健一, 阿部 薫, 須藤 隆之, 坂下 伸夫, 吉田 徹, 伊藤 達朗, 遠藤 彦彦, 坂本 隆, 阿部 正, 若林 剛: 岩手県内医師と医療従事者を対象とした遠隔医療会議, 要望演題.
8. 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 重症心身障害者に対する単孔式 Nissen 噴門形成術, ビデオワークショップ.
9. 伊藤 直子, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 眞壁 健二, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 前沢 千早, 若林 剛: Stages I 肝癌と塩酸ゲムシタピンの効果についての検討, 一般口演.
10. 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における進行・再発胃癌に対する Trastuzumab 併用化学療法の実験, 一般口演.
11. 有末 篤弘, 水野 大, 小林 めぐみ, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 若林 剛: 全身性リポジストロフィー症に消化管穿孔を合併した 1 例, 一般口演.
12. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 藤原 久貴, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 胸部食道癌手術における腹腔鏡補助下胃管作成時の胃に愛護的な視野展開の工夫, 要望演題.
13. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 鴻巣 正史, 遠藤 史隆, 藤原 久貴, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌根治化学放射線療法後の Salvage surgery の治療成績, 要望演題.
14. 新田 浩幸: Hanging technique を用いた腹腔鏡および小開腹下肝切除, 一般口演.
15. 遠藤 久仁, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下直腸癌手術における第一助手の役割一術者を誘導する定型化した視野展開法一, 要望演題.
16. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 伊藤 直子, 菅野 将史, 眞壁 健二, 武田 大樹, 若林 剛: 胆道癌に対する術後治療の方向性~ GS 療法の導入とその結果~, 一般口演.
17. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 遠藤 久仁, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志: 肥満患者に対する腹腔鏡下大腸切除術のコツとピットフォール, 要望演題.
18. 藤澤 健太郎, 加藤 久仁之, 御供 真吾, 玉澤 佳之, 佐瀬 正博: 偶発的に発見された胃癌大腸転移の 1 例, 一般口演.

* 佐々木 章: Reduced port surgery の新展開 4, 座長.

* 大塚 幸喜: 進行大腸癌の腹腔鏡下手術の適応, 司会.

* 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除術, 司会.

* 水野 大: 小児外科での SILS, 司会, ビデオワークショップ.

第 82 回日本外科学会卒後教育セミナー, 東京, 2012/12/1

1. 若林 剛: 止血・切離のエネルギーデバイス, 講演.

第 10 回日本胎児治療学会, 仙台市, 2012/11/30~12/1

- * 水野 大: 一般演題 12 「外科系疾患」, 座長.

第 54 回日本小児血液・がん学会, 横浜市, 2012/11/30~12/2

- * 水野 大: ポスター 49 「肝腫瘍-1」, 座長.

日本肝臓学会東部会, 東京, 2012/12/6

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 菅野 将史, 伊藤 直子, 宮本 康弘, 滝川 康裕, 鈴木 一幸, 若林 剛: 脳死肝移植の実施に向けて, シンポジウム.

第 25 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2012/12/6~12/8

1. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 遠藤 久仁, 加藤 久仁之, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸癌手術の Double stapling technic におけるリニアステープリングデバイスの選択と使用方法, パネルディスカッション.
2. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 高原 武志, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 若林 剛: 腹腔鏡 (補助) 下肝切除の現状と展望月, シンポジウム.

3. 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 小児に対する単孔式内視鏡手術の現状と今後, 要望演題.
 4. 秋山 有史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 藤原 久貴, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌手術における鏡視下胃管作成術の視野展開の工夫, 一般口演.
 5. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 完全腹腔鏡下胃切除における Linear Stapler による再建と Barbed Suture Closure Device による挿入口閉鎖の工夫, 一般口演.
 6. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 遠藤 久仁, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 肥満患者に対する腹腔鏡下大腸切除術のコツ, ワークショップ.
 7. 遠藤 久仁, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 加藤 久仁之, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 後藤 満一, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸癌手術のトレーニング法教育を受けている立場から, 要望演題.
 8. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 遠藤 久仁, 八重樫 瑞典, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 脇本 将寛, 鈴木 健二, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸手術における術後鎮痛法の検討, 一般口演.
 9. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 遠藤 久仁, 藤井 仁志, 加藤 久仁之, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡補助下回盲部切除を施行した腸管 Behcet 病の 3 例, 一般口演.
 10. 御供 真吾, 須藤 隆之, 新田 浩幸, 佐々木 章, 石田 馨, 若林 剛: 肝硬変合併肝癌に対し二期的に腹腔鏡下脾摘と用手補助腹腔鏡下肝部分切除を施行した 1 例, 一般口演.
 11. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 大淵 徹, 木村 祐輔, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 単孔式腹腔鏡下手術の適応と今後の展望, パネルディスカッション.
 12. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 新田 浩幸, 大淵 徹, 梅邑 晃, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 副腎良性疾患に対する reduced port surgery と多孔式腹腔鏡下副腎摘出術との症例一致比較, 要望演題.
 13. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 大淵 徹, 木村 祐輔, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 単孔式腹腔鏡下手術の適応と今後の展望, パネルディスカッション.
 14. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: わが国の減量手術の現状と問題点, ワークショップ.
 15. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 遠藤 久仁, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 藤澤 健太郎, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸癌手術における超音波凝固切開装置の使用法に関する検討, 一般口演.
 16. 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 高齢者における腹腔鏡補助下胃切除術の検討, 一般口演.
 17. 佐々木 章: ランチョンセミナー 7 ステップアップ内視鏡外科手術 GelPOINT を用いた Reduced Port Surgery
 18. 大淵 徹, 亀山 哲章, 富田 真人, 三橋 宏章, 雨宮 隆介: 腹壁癭痕ヘルニアに対する単孔式腹腔鏡下手術の検討, 一般口演.
- * 若林 剛: 招請講演 1, 司会.
 - * 若林 剛: シンポジウム 3 肝臓・脾臓内視鏡外科の進歩と今後の課題 (保健収載後の普及について), 座長.
 - * 大塚 幸喜: 腹腔鏡大腸切除の術中困難症例の対処 (肥満症例), 座長.
 - * 大塚 幸喜: 大腸肛門悪性 治療成績 (2), 座長.
 - * 新田 浩幸: 肝臓 鏡視下肝切除導入の治療成績, 座長.

3-3 研究会・セミナー等

第 76 回大腸癌研究会, 宇都宮市, 2012/1/20

1. 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 箱崎 将規, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 若林 剛: 当科における大腸癌腹膜播種症例の検討, 一般示説.

第 6 回 Needlescopic Surgery Meeting, 博多, 2012/1/21

1. 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 太朗, 大宜見 由奈, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: Needle instruments を使用した advanced reduced port surgery, 特別企画.

いわて遠隔外科医療カンファランス, 盛岡, 2012/1/25

- * 佐々木 章: センチネルリンパ節生検を定着させるために, 司会.

第 11 回和歌山外科治療研究会, 和歌山市, 2012/1/27

1. 若林 剛: 切除を追求する, 特別講演.

第 6 回みちのくウィンターセミナー, 盛岡, 2012/1/28~1/29

- * 佐々木 章: 特別講演 1 高度肥満症に対する外科的治療, 座長.
- * 大塚 幸喜: 「最新の腹腔鏡下大腸手術」 福長 洋介, 座長.
- * 新田 浩幸: 「新生児生体肝移植のための術中造影超音波検査を応用した mono-subsegment graft (S2 グラフト) の作成法 - 正確な肝亜区域の解剖の理解の観点から」 安田 是和, 座長.
- * 木村 祐輔: 「食道疾患の低侵襲治療」 小澤 壯治, 座長.

第 5 回単孔式内視鏡手術研究会, 広島, 2012/2/18

1. 大淵 徹, 亀山 哲章, 富田 真人, 三橋 宏章, 松本 伸明, 吉川 祐輔, 佐々木 妙子: YellowPort を用いた単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の医療経済的検討, 一般口演.
- * 佐々木 章: 【主題】TANKO で “ここまでする”, 座長.
- * 佐々木 章: ランチョンセミナー 3 GelPOINT を用いたやさしい単孔式内視鏡外科手術 ～ストレスのない単孔式内視鏡外科手術を目指して～, 座長.

第 18 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2012/2/21

- * 西塚 哲: 「発癌および転移性再発機構における新たな展開について」三森 功士, 司会.

鹿児島肝癌研究会, 鹿児島市, 2012/2/24

1. 若林 剛: 肝癌治療における腹腔鏡下肝切除術の役割, 特別講演.

第 16 回北陸肝胆膵外科研究会, 金沢市, 2012/2/25

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除術の定型化と課題, 特別講演.

第 45 回制癌剤適応研究会, 東京都, 2012/3/2

1. 遠藤 史隆, 西塚 哲, 久米 浩平, 片桐 弘勝, 肥田 圭介, 若林 剛: 消化管癌細胞における 5-FU 誘導性 NF- κ B の解析, シンポジウム.
- * 若林 剛: ワークショップ 3, 座長.

第 6 回新肝臓病研究会, 甲府市, 2012/3/2

1. 若林 剛: 肝細胞癌に対する新しい肝切除, 第 6 回新肝臓病研究会, 特別講演.

第 7 回ハンスオンセミナー, 富士市, 2012/3/3

1. 新田 浩幸: 腹腔鏡下肝切除術～手技とポイント・その 2～, 講演.
2. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除術～手技とポイント・その 3～, 講演.

第 24 回東北甲状腺談話会, 盛岡市, 2012/3/10

1. 小笠原 聡, 富澤 勇貴, 馬場 誠朗, 佐々木 章, 鈴木 正通, 菅井 有, 若林 剛: 原発性腫瘍との鑑別を要した肺癌甲状腺転移症例の検討, 一般口演.
2. 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 馬場 誠朗, 佐々木 章, 若林 剛, 中野 善薫, 佐々木 純, 栗原 英夫: p-53 陽性甲状腺乳頭癌の 1 臨床経過例, 一般口演.

第 6 回 先端医療薬学研究センター講演会, 矢巾, 2012/3/15

1. 西塚 哲, 石田和茂, 藤宮仁, 志村勉, 池田みゆき: Lynn Young, 若林 剛: 抗癌剤反応タンパクの高次データモニタリング, 一般口演.

第 415 回八戸外科集談会, 八戸, 2012/3/16

1. 藤澤 健太郎, 加藤 久仁之, 御供 真吾, 玉澤 佳之, 佐瀬 正博: 当科における腹腔鏡下大腸切除術の経験, 一般口演.

Winter Seminar 2012 in KIRORO, 北海道, 2012/3/18

1. 若林 剛: 進化する腹腔鏡下肝切除, 講演.

第 28 回岩手ストーマ研究会, 盛岡市, 2012/3/24

1. 板橋 哲也: 今だから話し合おう! covering ileostomy 造設法, 一般口演.
- * 板橋 哲也: 一般演題 1, 座長.

第 14 回外科分子細胞治療研究会, 千葉県, 2012/4/12

1. 西塚 哲, 久米 浩平, 池田 みゆき, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 小笠原 聡, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 薬剤抵抗性細胞集団の癌幹細胞マーカーによる分子プロファイル, 一般口演.

第 21 回 Surgical Science の会, 千葉, 2012/4/12

1. 若林 剛: Translational “Surgical” Research, 講演.

第 2 回脳死肝移植セミナー, 盛岡市, 2012/4/18

1. 高原 武志: 脳死肝移植開始に向けての準備状況, 状況報告.

第 26 回日本小児ストーマ・排泄管理研究会, 仙台市, 2012/4/28

1. 水野 大, 小林 めぐみ, 千葉 励子, 若林 剛: 東日本大震災時に患児・家族は, 要望演題.

第 20 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2012/5/7

- * 新田 浩幸: 「網嚢をガイドにした下大静脈右側背側アプローチについて」山本 順司, 司会.

第 1 回消化器外科における低侵襲モニタリングセミナー, 盛岡市, 2012/5/8

1. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 伊藤 千絵, 渡邊 陽太郎, 肥田 圭介, 若林 剛: 当科における食道癌根治術後の循環動態管理, 講演.
- * 若林 剛: 「消化器関連敗血症死ゼロを目指して～重症腹膜炎に併発する敗血症性ショックの初期治療 早期手術と新しい輸液療法～」小豆畑 丈夫, 座長.

第 21 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2012/5/10

- * 西塚 哲:「肝がんのパーソナルオンコロジーへ向けて」油谷 浩幸, 司会.

第 2 回腹腔鏡下スリーブ状胃切除術セミナー, 東京, 2012/5/13

1. 佐々木 章: 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の治療成績, 講演.

第 6 回 Iwate Wound Closure Seminar Early Exposure Session, 盛岡市, 2012/5/14

- * 若林 剛: 総合司会.
- * 佐々木 章: 自分で発案し、工夫し、商品化して、治療する外科領域: 自らの思いを治療に生かす方法, 座長.

第 1 回岩手外科周術期管理研究会, 盛岡市, 2012/5/16

1. 伊藤 直子: 当科における脾臓十二指腸切除術後管理の変遷 - クリニカルパス導入に向けて -, 一般口演.
- * 若林 剛: 「徳島でのグリーンペレー計画の行方」島田 光生, 座長.
- * 肥田 圭介: 「一般演題」, 座長.

第 33 回癌免疫研究会, 横浜, 2012/5/17

1. 西塚 哲, 久米浩平, 遠藤史隆, 片桐弘勝, 三浦佐和子, 池田みゆき, 若林 剛: 術後補助化学療法後再発癌の in vitro モデルを用いた薬剤抵抗性細胞集団プロファイリング, シンポジウム.

第 1 回岩手食道がんセミナー, 盛岡市, 2012/5/18

1. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 伊藤 千絵, 渡邊 陽太郎, 肥田 圭介, 若林 剛: 食道癌術後頻脈性不整脈に対してランジオロールが奏功した 1 例, 講演.
- * 木村 祐輔: 「食道癌術後頻脈性不整脈に対してランジオロールが奏功した 1 例」鴻巣 正史, 座長.
- * 若林 剛: 「食道癌サルベージ手術の問題点」塩崎 均, 座長.

第 1 回サマーセミナー in 沖縄日本外科学会, 北谷町, 2012/5/19

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 高橋 正浩, 伊藤 直子, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 若林 剛: 若手外科医による腹腔鏡下肝外側区域切除, 一般口演.

第 15 回岩手内視鏡外科研究会, 盛岡市, 2012/5/19

- * 若林 剛: 「内視鏡外科手術と医療安全」山下 裕一, 座長.
- * 佐々木 章: 一般演題, 座長.

第 416 回八戸外科集談会, 八戸市, 2012/5/24

1. 肥田 圭介: 腹腔鏡下胃切除術の現況と展望, 特別講演.

第 66 回手術手技研究会, 博多市, 2012/5/25

1. 若林 剛: 大腸癌肝転移に対する conversion therapy 後の腹腔鏡補助下拡大肝切除, 特別講演.
2. 新田 浩幸, 佐々木 章, 高原 武志, 眞壁 健二, 石橋 正久, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 長谷川 康, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 若林 剛: 腹腔鏡 (補助) 下および上腹部正中開腹下による肝切除の手術手技, 一般口演.
- * 若林 剛: 主題「癌の化学療法・放射線治療後のサルベージ手術のコツ」, 座長.

第 34 回日本癌局所療法研究会, 福島市, 2012/6/8

1. 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 秋山 有史, 藤原 久貴, 遠藤 史隆, 杉立 彰夫, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌気道瘻に対する食道ステント挿入術の検討, 一般口演.

第 30 回日本肝移植研究会, 福岡市, 2012/6/15

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 高橋 正浩, 伊藤 直子, 武田 大樹, 眞壁 健二, 若林 剛: レシピエント replaced RHA による右肝動脈再建後にグラフト再生による肝動脈血栓症をきたした一例, 一般口演.
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 伊藤 直子, 武田 大樹, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: レシピエント手術において巨大 shunt への対応, 一般口演.
- * 若林 剛: シンポジウム 7 「レシピエント移植コーディネーター」, 司会.

岩手県大腸癌病理研究会, 盛岡市, 2012/6/15

- * 若林 剛: 「最も効果的な大腸癌治療～バイオマーカーと新たな治療の探究～」裕 彰一, 座長.

第 2 回みちのく LAG セミナー, 盛岡市, 2012/6/16

- * 若林 剛: 特別講演, 司会.
- * 肥田 圭介: 特別講演, 司会.

第 3 回脳死肝移植セミナー, 盛岡市, 2012/6/19

- * 若林 剛: 「当院における脳死肝移植導入に向けた システム構築とその成果」伊佐地 秀司, 座長.
- * 新田 浩幸: 「はじめての脳死肝移植に向けて (ドナー肝摘出チーム派遣からレシピエント手術終了まで)」高村 博之, 座長.

東北肝臓外科研究会, 仙台, 2012/6/23

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 長谷川 康, 若林 剛: 小児肝芽腫に対する liver hanging maneuver (LH) の一例, 一般口演.

第 43 回県北外科集談会, 八戸, 2012/7/5

1. 藤澤 健太郎, 加藤 久仁之, 御供 真吾, 玉澤 佳之, 佐瀬 正博: 当科における腹腔鏡下大腸切除術の現状, 一般口演.

第 21 回日本癌病態治療研究会, 群馬県, 2012/7/6

1. 石橋 正久, 柴田 浩平, 高橋 佑典, 澤田 元太, 藏重 淳二, 秋吉 清百合, 主藤 朝也, 杉町 圭史, 三森 功士, 若林 剛, 森 正樹: 肝細胞癌における FBXL5 発現および Hecpudin を介した鉄代謝経路の臨床的意義の解明, 一般示説.

第 19 回外科フォーラム, 東京都, 2012/7/7

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除における肝外・肝内解剖, シンポジウム.

第 4 回いわて肥満症治療セミナー, 盛岡市, 2012/7/13

- * 若林 剛: 「肥満・糖尿病に対する外科治療」笠間 和典, 座長.

北東北 HER2 陽性乳癌セミナー, 盛岡市, 2012/7/14

- * 若林 剛: 「HER2 陽性乳癌の治療戦略—今後の方向性は?—」三好 康雄, 座長.
- * 柏葉 匡寛: Session1: HER2 陽性乳癌関連 Case Study, 座長.

第 10 回南部外科研究会, 盛岡市, 2012/7/14

1. 若林 剛: ステップアップ内視鏡外科手術を上梓して, 特別講演.

第 48 回日本肝癌研究会, 石川県, 2012/7/20~7/21

1. 新田 浩幸: 肝細胞癌に対する完全腹腔鏡下系統的切除の手術手技, 診療技術セッション.
2. 高原 武志: Vp4 を伴う尾状葉 HCC に対して Hanging maneuver を利用した尾状葉全切除, 診療技術セッション.

TAKEDA 太陽がんフォーラム, 盛岡市, 2012/7/21

- * 若林 剛: 「進行・再発大腸癌における Cure を目指したフロントライン治療戦略」掛地吉弘, 座長.

第 22 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2012/7/31

- * 新田 浩幸: 「肝細胞癌に対する肝移植後の再発予防に向けて—基礎と臨床の観点から—」川原敏靖, 司会.

第 44 回胃癌病態機能研究会, 熊本, 2012/8/4

1. 岩谷 岳, 深川 剛生, 高橋 佑典, 澤田 元太, 石橋 正久, 若林 剛, 笹子 三津留, 森 正樹, 三森 功士: 胃癌における Histone mRNA および microRNA 760 の対照的発現, シンポジウム.

腹腔鏡下胃切除セミナー「エキスパートに学ぶ LAG」, 盛岡市, 2012/8/4

1. 藤原 久貴: 一般演題, 一般口演.
- * 若林 剛: 特別講演, 司会.
- * 肥田 圭介: 一般演題, 司会.

いわて緩和フォーラム, 盛岡市, 2012/8/7

- * 若林 剛: 「緩和医療の up to date ~これからの方向性~」小池 和彦, 座長.
- * 木村 祐輔: 一般演題, 座長.

平成 24 年度未来医療プロジェクト 研究成果報告会／リトリート, 矢巾, 2012/8/9~8/10

1. 西塚 哲, 石田 和茂, 佐々木 章, 若林 剛: 抗癌剤反応タンパクの高次データモニタリング, 一般口演.
2. 片桐 弘勝, 西塚 哲, 新田 浩幸, 佐々木 章, 若林 剛: 切除後肝再生に関与する肝外性組織修復細胞に関する研究, 一般示説.
3. 石田 馨, 西塚 哲, 佐々木 章, 若林 剛: 半導体型次世代シーケンサーを用いた胃癌細胞株における癌関連遺伝子の分析, 一般示説.
4. 遠藤 史隆, 西塚 哲, 佐々木 章, 若林 剛: 消化管癌術後化学療法後における 5-FU 効果予測因子としての NF- κ B の分子生物学的検証, 一般示説.
5. 久米 浩平, 西塚 哲, 前沢 千早, 若林 剛: 抗癌剤接触時におけるヒト癌細胞有閾値様反応, 一般示説.

岩手 GIST 学術講演会, 盛岡市, 2012/8/23

1. 中村 聖華: 当院における GIST 症例追跡報告, 症例検討.
- * 肥田 圭介: 「当院における GIST 症例追跡報告」中村 聖華, 座長.
- * 若林 剛: 「GIST の集学的治療」平井 敏弘, 座長.

第 6 回単孔式内視鏡手術研究会. 札幌市 2012/8/24 ~ 8/25

1. 大淵 徹, 亀山 哲章, 富田 真人, 三橋 宏章, 雨宮 隆介: 単孔式腹腔鏡下手術を施行した漿液性嚢胞腫瘍の 1 例, 一般口演.

Reduced Port Surgery Forum 第 6 回単孔式内視鏡手術研究会, 第 7 回 Needlescopic Surgery Meeting, 札幌, 2012/8/25

1. 佐々木 章, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 単孔式腹腔鏡下手術における肝圧排固定器具の開発, ワークショップ.

2. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 木村 祐輔, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下脾臓摘出術における single port と reduced port surgery の適応, シンポジウム.

* 馬場 誠朗: シンポジウム 2RPS 肝胆膵, 座長.

* 佐々木 章: 【パネルディスカッション】教育, 座長.

やさしい科学技術セミナー, 平泉, 2012/9/7

1. 久米 浩平: 癌(がん)は生きようとしている～抗癌剤に抵抗する癌細胞～, 招待講演

第6回岩手外科教育セミナー, 盛岡市, 2012/9/14

* 新田 浩幸: 今の患者のための「肝移植」、未来の患者のための「再生医療」江口 晋, 座長.

* 若林 剛: 「肝臓の虚血再灌流障害の成因と制御」竹吉 泉, 座長.

第6回肝臓内視鏡外科研究会「ハンズオンセミナー」, 福島県郡山市, 2012/9/15

1. 若林 剛: 講師講演.

2. 新田 浩幸: 講師, 講演.

3. 高原 武志: 講師, 講演.

第16回いわて乳癌疾患フォーラム, 盛岡市, 2012/9/22

* 柏葉 匡寛: 「再発乳癌治療 up-to-date Beyond Progression」中山 貴寛, 座長.

岩手がん学術講演会, 盛岡市, 2012/9/28

1. 藤原 久貴: 「TS-1 を含む化学療法が奏功した多発骨転移を伴った進行胃癌の2例」, 症例報告.

* 若林 剛: 「術前化学療法を用いた胃癌修学的治療」笹子 三津留, 座長.

* 肥田 圭介: 「TS-1 を含む化学療法が奏功した多発骨転移を伴った進行胃癌の2例」藤原 久貴, 座長.

第25回東北膵・胆道癌研究会, 福島市, 2012/10/6

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 伊藤 直子, 菅野 将史, 眞壁 健二, 若林 剛: 当院での再発・切除不能膵癌に対する FOLFIRINOX の使用経験, 一般口演.

* 高原 武志: セッション 1, 座長.

第8回岩手緩和ケアセミナー, 盛岡市, 2012/10/6

* 若林 剛: 「がん治療医が行う緩和医療 - 日米の経験をふまえて -」森 雅紀, 座長.

岩手神経内分泌腫瘍フォーラム, 盛岡, 2012/10/6

* 若林 剛: NET 治療最前線～本邦における最新情報をふくめて～, 座長.

第23回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2012/10/23

* 西塚 哲: 「分子標的薬時代において基礎的がん研究の果たすべき役割」野田哲生, 司会.

第11回岩手甲状腺研究会, 盛岡市, 2012/10/27

* 若林 剛: 特別講演 甲状腺がんの治療方針について, 座長.

第1回 LAP Hepatectomy プリセプターシッププログラム, 盛岡市, 2012/11/5

1. 若林 剛: 講師.

2. 新田 浩幸: 講師.

第8回いわて肝移植適応研究会, 盛岡市, 2012/11/6

* 若林 剛: 特別講演(監) 肝臓移植における最近の話題と今後の課題, 座長.

第31回 Microwave Surgery 研究会, 大阪市, 2012/11/8

1. 菅野 将史, 高原 武志, 眞壁 健二, 長谷川 康, 伊藤 直子, 新田 浩幸, 若林 剛: ラジオ波前凝固を用いた腹腔鏡下肝 S8 部分切除, 一般口演.

第23回長野県内視鏡外科研究会, 長野市, 2012/11/10

1. 佐々木 章: 最新の内視鏡外科手術: 岩手医科大学外科学講座が行っている先進医療と reduced port surgery, 特別講演.

第42回胃外科・術後障害研究会, 東京, 2012/11/15

1. 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 渡邊 陽太郎, 若林 剛: 当科における胃癌術後患者に対する静脈血栓塞栓症 (VTE) 予防の検討, 一般口演.

第6回「手術手技セミナー」, 盛岡市, 2012/11/15

* 若林 剛: 特別講演 肝細胞癌に対する開腹肝切除: われわれに残された領土は?, 座長.

IN Call User's Day 2012, 東京, 2012/11/16

1. 久米 浩平: IN Call Analyzer 2000 から見た癌細胞の“全か無”様薬剤反応, 一般示説.

2. 西塚 哲: がん細胞集団の抗癌剤反応性における双安定性の意義～In Cell Analyzer2000 を用いた個によって形成される集団の解析～, 招待講演.

第 42 回胃外科・術後障害研究会, 東京, 2012/11/16

1. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 梅邑 晃, 中村 聖華, 渡邊 陽太郎, 若林 剛: 当科における高度肥満患者に対する腹腔鏡下胃切除術の工夫, 一般口演.

第5回東北ヘルニア研究会, 盛岡市, 2012/11/17

1. 富澤 勇貴: 当科における鼠径・大腿ヘルニアかんたん例の検討, シンポジウム.
 2. 富澤 勇貴: 若年成人鼠径ヘルニアに対する単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法 (SILPEC) の経験, 一般口演.
 3. 岩谷 岳, 富澤 勇貴, 中島 潤, 川村 英伸, 小笠原 聡, 日下 純男, 馬場 誠朗, 板橋 哲也, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における鼠径・大腿ヘルニア嵌頓例の検討, 一般口演.
- * 若林 剛: ランチョンセミナー, 座長.

第 3 回近畿大学内視鏡外科セミナー, 福島市, 2012/11/17

1. 若林 剛: 特別講演 進化する手術を極める, 特別講演.

金ヶ崎町医療セミナー, 金ヶ崎町, 2012/11/20

1. 肥田 圭介: 胃癌の診断と治療について講演.

第 4 回大分創傷治療フォーラム, 大分, 2012/11/20

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除の手法とエビデンス, 特別講演.

第 9 回ハンスオンセミナー, 静岡, 2012/11/24

1. 若林 剛: 腹腔鏡下切除術～手技とポイント・その 3～, 特別講演.
2. 新田 浩幸: 腹腔鏡下肝切除術～手技とポイント・その 2～, 特別講演.

第 7 回肝移植症例検討会, 盛岡市, 2012/11/27

1. 高原 武志: 生体肝移植後奇異な胆管像を呈した 1 例, 一般口演.
 2. 高原 武志: 脳死肝移植を施行できなかった 1 例, 一般口演.
- * 若林 剛: Lecture, 司会.
- * 若林 剛: case study, 司会.

第 4 回膵臓内視鏡外科研究会, 東京, 2012/11/28

- * 佐々木 章: 要望ビデオ I, 司会.

第 6 回肝臓内視鏡研究会, 東京, 2012/11/28

1. 眞壁 健二, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 長谷川 康, 菅野 将史, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除における出血量軽減を目的とした肝動脈血流遮断および CO₂ ガス塞栓の危険性に関する基礎的検討, 一般口演.
- * 若林 剛: 招待講演, 座長.
- * 新田 浩幸: 一般演題, 座長.

第 22 回外科漢方研究会学術集会, 東京, 2012/11/30

1. 八重樫 瑞典: 腹腔鏡下結腸癌手術周術期における大建中湯の臨床学的効果の検討, 一般口演.
- * 若林 剛: ワークショップ 1ー基礎・周術期ー, 司会.

東京理科大学シンポジウム, 東京, 2012/11/30

1. 西塚 哲: Colony Lysate Array (CoLA) を用いた抗癌剤耐性コロニーの分子生物学的プロファイル, シンポジウム.

第 6 回内視鏡下肥満外科治療研究会, 横浜, 2012/12/5

- * 若林 剛: 特別講演, 司会.
- * 佐々木 章: 肥満外科手術の術式と効果, 司会.

第 27 回東北静脈経腸栄養研究会東北静脈経腸栄養研究会, 盛岡市, 2012/12/15

1. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 新田 浩幸, 大淵 徹, 梅邑 晃, 岩動 美奈子, 佐藤 由美, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 高度肥満症に対する肥満外科手術と周術期の栄養管理, 一般口演.
- * 若林 剛: ランチョンセミナー 京大肝移植における変革と創造～もし大学病院の外科医がドロッカーの『マネジメント』を読んだら, 座長.

第 25 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡, 2012/12/17

- * 肥田 圭介: 司会.

第 26 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡, 2012/12/18

- * 西塚 哲: 『プロテオーム解析を用いた個別化医療のためのバイオマーカー開発』近藤 格, 司会.

4. 講演会

ABC Japan 2012 第7回会議, 東京都, 2012/1/7

1. 柏葉 匡寛: 講演.

兵庫 LAC セミナー, 生田神社会館, 2012/1/27

1. 大塚 幸喜: 腹腔鏡下大腸切除術 ―技術認定医取得のポイント―, 手術+講演.

第37回北里肝・胆・膵疾患検討会, 相模原市, 2012/2/1

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除はどこまで可能か?, 特別講演.

癌領域担当者 社員研修会, 東京都, 2012/2/14

1. 若林 剛: 大腸癌肝転移症例に対するコンバージョンセラピーについて, 特別講演.

第18回奈良県内視鏡下手術研究会, 奈良, 2012/2/18

1. 大塚 幸喜: 腹腔鏡下大腸切除術 ―低位前方切除のコツとピットフォール―, 講演.

医療法人 杏林会 イーハートブ病院医療安全講習会, 花巻, 2012/2/27

1. 佐々木 章: 経管栄養 ―管理の注意点と合併症の対処法―, 招待講演.

第29回腸疾患若手勉強会, 大阪, 2012/3/9

1. 大塚 幸喜: 下部消化管疾患に対する腹腔鏡手術の現状, 講演.

旭川地区 VTR カンファレンス, 旭川, 2012/3/10

1. 大塚 幸喜: S 状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, 講演.

HOKKAIDO ANTI AGING CLUB 2012, 北海道, 2012/3/11

1. 若林 剛: 老化危険因子としての炎症, 講演.

第7回カシオペア癌懇話会, 二戸市, 2012/3/12

1. 肥田 圭介: 胃癌治療 Up-to-date 手術から化学療法まで, 講演.

第6回先端医療薬学研究センター講演会 薬と医・歯の連携へ, 矢巾キャンパス, 2012/3/16

1. 片桐 弘勝, 西塚 哲, 久米 浩平, 遠藤 史隆, 若林 剛: 肝再生における構成細胞遺伝子型 heterogeneity の検出, 一般示説.
2. 西塚 哲, 石田 和茂, 藤宮 仁, 志村 勉, 池田 みゆき, Lynn Young, 若林 剛: 抗癌剤反応性タンパク質の高次データモニタリング, 一般示説.
3. 遠藤 史隆, 西塚 哲, 久米 浩平, 片桐 弘勝, 肥田 圭介, 若林 剛: 消化管癌における 5-FU 誘導性 NF- κ B の解析, 一般示説.
4. 久米 浩平, 西塚 哲, 池田 みゆき, 三浦 佐和子, 遠藤 史隆, 片桐 弘勝, 前沢 千早, 若林 剛: 薬剤抵抗性細胞集団の分子生物学的プロファイル, 一般示説.

第1回群馬消化器がん治療フォーラム, 前橋市, 2012/3/16

1. 若林 剛: 進化する腹腔鏡下肝切除, 特別講演.

岩手胃癌講演会, 盛岡, 2012/4/6

- * 肥田 圭介: 座長.

第21回 Surgical Science の会, 千葉県, 2012/4/12

1. 若林 剛: Translational, 招待講演.

第2回中四国セミナー, 須賀川, 2012/4/21

1. 大塚 幸喜: 直腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, 講演.

Operation Nursing Seminar in Sensatu, 鹿児島, 2012/4/28

1. 大塚 幸喜: 安全で素敵な腹腔鏡下大腸手術をめざして ―定型化の重要性―, 手術+講演.

山形県立中央病院発信がんネット, 山形市, 2012/5/1

1. 西塚 哲: 細胞株薬剤感受性に基いた 5-FU 系薬剤感受性マーカーの同定, 招待講演.

東京消化器オンコロジーフォーラム, 東京, 2012/5/11

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除―手技とエビデンス―, 講演.

E-Lap the 1st Seminar, 上海, 2012/6/9

1. 大塚 幸喜: S 状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, 講演.

4th Shake Hands Seminar, 郡山, 2012/7/6

1. 大塚 幸喜: 腹腔鏡下直腸切除術の基本とチーム医療 ―定型化の重要性―, 講演.

オストメイト社会訓練講習会, 八戸, 2012/7/8

1. 藤澤 健太郎：誰もが知っておくべきストーマ医療の原点, 講演.

第 1 回腹腔鏡下大腸切除術 ビデオクリニック, 大阪, 2012/7/14

1. 大塚 幸喜：S 状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, 講演.

第 12 回別府癌治療懇話会, 別府, 2012/7/27

1. 若林 剛：ステップアップ内視鏡外科手術を発行して, 特別講演.

岩手医科大学オープンキャンパス 2012, 盛岡, 2012/7/28

1. 佐々木 章：体に優しい内視鏡外科手術, 基調講演.

北上医師会 市民公開講座, 北上市, 2012/8/18

1. 若林 剛：がんを早く見つけて治す - 乳がん・胃がん・大腸がん・肝がん, 講演.
2. 新田 浩幸：がんを早く見つけて治す - 乳がん・胃がん・大腸がん・肝がん, 一般口演.
3. 肥田 圭介：がんを早く見つけて治す - 乳がん・胃がん・大腸がん・肝がん, 一般口演.
4. 柏葉 匡寛：がんを早く見つけて治す - 乳がん・胃がん・大腸がん・肝がん, 一般口演.
5. 大塚 幸喜：がんを早く見つけて治す - 乳がん・胃がん・大腸がん・肝がん, 一般口演.

第 15 回北海道エンドサージカルクラブ, 札幌, 2012/9/1

1. 大塚 幸喜：腹腔鏡下低位前方切除術, 講演.

第 2 回腹腔鏡下大腸切除術 ビデオクリニック, 大阪, 2012/9/8

1. 大塚 幸喜：S 状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技, 講演.

第 21 回旭川外科癌フォーラム, 旭川, 2012/9/14

1. 大塚 幸喜：大腸癌に対する腹腔鏡手術の標準化を目指して - 集学的治療としての位置づけ -, 講演.

いわて遠隔外科医療カンファランスー特別講演会ー, 盛岡市, 2012/9/26

- * 若林 剛：「次世代の腹腔鏡下直腸癌手術を目指して - グローバルネットワークの展開とともに -」奥田 準二, 座長.

第 1 回次世代内視鏡外科, 大阪, 2012/9/29

1. 大塚 幸喜：Laparoscopic total proctocolectomy and ileal J pouch-anal anastomosis with a Prolapsing Technique, 講演.

第 25 回鳥取癌カンファランス, 鳥取, 2012/10/5

1. 大塚 幸喜：大腸癌に対する腹腔鏡手術の標準化を目指して - 集学的治療としての位置づけ -, 手術+講演.

岩手神経内分泌腫瘍フォーラム, 盛岡, 2012/10/6

1. 高原 武志：生体肝移植を施行した膵神経内分泌腫瘍多発肝転移の 1 例, 一般口演.
- * 新田 浩幸：生体肝移植を施行した膵神経内分泌腫瘍多発肝転移の 1 例, 座長.

福山市民病院 がん診療連携フォーラム 市民公開講座, 福山, 2012/10/6

1. 大塚 幸喜：大腸がんをやさしく治す - 根治性・機能性・整容性を追求した外科治療 -, 講演.

市民公開シンポジウム 東日本大震災とがん治療, 盛岡, 2012/10/21

1. 肥田 圭介：被災地での新たながん難民を作らないために, シンポジウム.
- * 若林 剛：被災地での新たながん難民を作らないために, 座長.

第 24 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡, 2012/10/30

- * 佐々木 章：遠隔医療の新時代：国際医療人の育成を目指して, 司会.

第 3 回いわて胃癌治療カンファランス, 盛岡市, 2012/11/2

- * 若林 剛：特別講演, 座長.

第 3 回東京周術期管理講演会, 東京都, 2012/11/5

1. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除における限界と可能性, 特別講演.

輸液栄養の勉強会 - 若手医師のための実力アップセミナー -, 盛岡市, 2012/11/14

- * 若林 剛：特別講演 いま一度静脈栄養管理について考える, 座長.

金ヶ崎町医療セミナー, 金ヶ崎町, 2012/11/20

1. 大塚 幸喜：大腸がんについて - 大腸がんをやさしく治す外科治療 -, 講演.

盛南地区講演会, 盛岡, 2012/12/10

1. 若林 剛：肝癌の先進的外科治療, TV 講演会.

秋田県南大腸癌化学療法セミナー, 横手, 2012/12/12

1. 大塚 幸喜：大腸がんに対する腹腔鏡手術の標準化を目指して, 講演.

編集後記

まずは発行が大変遅くなりましたことを、日々臨床でお忙しい中原稿をお寄せいただいた先生方に心からお詫び申し上げます。本当に申し訳ございませんでした。

「教室年報」になって今回で7回目の発行になりますが、まだまだ至らぬ点が多くありご迷惑をおかけしておりますが、今後ともご指導、ご協力お願いいたします。さらに良い年報を作って参りたいと思いますので、本誌に対するご意見やご感想をいただけると幸いです。

最後に、ご執筆いただきました関連病院の先生方、編集に協力していただいた教室員、教室秘書さん、毎年写真撮影や画像を提供してくださっている画像情報センターの大村直樹さん、そして本誌制作を担当してくださっているヤマダプランニングの八重畑さんに深謝を申し上げるとともに、巖刀会の先生方、ご寄稿いただいた先生方の益々のご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成25年6月

大塚 幸喜



表紙説明

撮影：2012.2.25

龍泉洞(りゅうせんだう)は、日本の岩手県岩泉町にある鍾乳洞です。総延長約 1,200m、高低差約 249m で、秋芳洞(山口県美祿市)・龍河洞(高知県香美市)と共に「日本三大鍾乳洞」の一つとして数えられています。また、地底湖は龍泉洞地底湖の水として 1985 年(昭和 60 年)名水百選のひとつに選定されています。

巖刀会 (がんとうかい: 岩手山別称(巖鷲山)から1字とり、岩手の外科医の象徴の意)